

Yanaginogosho Site

The 77th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2017

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第150集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第150集
平泉遺跡群発掘調査報告書



柳之御所遺跡

第77次発掘調査概報

2017

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第150集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第77次発掘調査概報

2017

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の土著として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・圍池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が「吾妻鏡」に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来岡いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は漏れてしまいましたが、平成24年に暫定リストに登録されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を継続していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成29年3月

岩手県教育委員会

教育長 高橋嘉行

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成27年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成27年5月15日から11月30日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。
SA：竪・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀
SE：非戸・非戸状遺構 SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他
SI：竪穴住居 P：柱穴
例：77SK1 第77次調査の第1号土坑
4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書に係る編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、櫻井友樟・村上拓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察、「新版標準土色帖」を参考にした。
8. 自然科学分析についてはバリノ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
安達潤仁 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川真紀 鳥原弘征 鈴木弘太 高橋千品
七海雅人 羽柴直人 本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 (50音順；敬称略)
岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉文化遺産センター
文化庁記念物課
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I	序 論	1
1	遺跡の位置と調査経緯	1
2	調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	1
3	今年度の調査	5
II	調 査 内 容	9
1	調査の概要	9
2	検 出 遺 構	11
3	出 土 遺 物	33
III	自然科学分析	57
IV	総 括	61
V	付章 高館跡の調査	70

図 版 目 次

図版 1 遺構 調査区全景	図版 8 遺構 77SK2壁面抉れ部
図版 2 遺構 21SD1断面 21SD1遺物出土状況	77SK3柱材出土状況 77SK1断面
図版 3 遺構 21SD2-77T1断面 21SD2-77T2断面	77SK1断面出土状況 77SX3全景
図版 4 遺構 南区整地層 南区整地層断面	図版 9 遺物 かわらけ 1
図版 5 遺構 77SX1・77SX2検出状況 77SX1断面b-b' 77SX1断面c-c' 21SD2内岸の水口状張り出し部	図版10 遺物 かわらけ 2
図版 6 遺構 北区整地層 1 全景 北区整地層 2 全景 北区整地層 1 断面a-a' 北区整地層 2 断面	図版11 遺物 かわらけ 3
図版 7 遺構 77SK2断面・77SK3断面	図版12 遺物 かわらけ 4
	図版13 遺物 かわらけ 5
	図版14 遺物 国産陶器類 1
	図版15 遺物 国産陶器類 2
	図版16 遺物 国産陶器類 3
	図版17 遺物 国産陶器類 4
	図版18 遺物 国産陶器類 5
	図版19 遺物 輸入陶磁器・瓦・木製品

挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	2	図24	21SD2出土土器類実測図1	45
図2	調査区位置図	6	図25	21SD2出土土器類実測図2	47
図3	遺構配置図(1/300)	10	図26	77SK1・その他遺構出土土器類実測図	48
図4	南区遺構平面図	12	図27	遺構外出土土器類実測図1	49
図5	21SD1断面図	13	図28	遺構外出土土器類実測図2	50
図6	21SD2断面図	16	図29	遺構外出土土器類実測図3	51
図7	77SX1・77SX2	21	図30	遺構外出土土器類実測図4	52
図8	北区遺構平面図	23	図31	遺構外出土土器類実測図5	53
図9	北区整地層1	25	図32	遺構外出土土器類実測図6	54
図10	北区整地層2	26	図33	木製品類・金属製品実測図	56
図11	77SK1	27	図34	木材	60
図12	77SK2・77SK3	29	図35	南端部の遺構	62
図13	77SX3	31	図36	77次調査区の遺構変遷模式図	63
図14	遺物取り上げグリッド配置図	33	図37	堀の変遷模式図	63
図15	21SD1出土土器類実測図1	36	図38	柳之御所遺跡の堀跡	64
図16	21SD1出土土器類実測図2	37	図39	堀の変遷案	65
図17	21SD1出土土器類実測図3	38	図40	堀跡周辺の土坑1	67
図18	21SD1出土土器類実測図4	39	図41	堀跡周辺の土坑2	68
図19	21SD1出土土器類実測図5	40	図42	高館跡調査位置図	71
図20	21SD1出土土器類実測図6	41	図43	T1平面図	73
図21	21SD1出土土器類実測図7	42	図44	T2平面図	74
図22	21SD1出土土器類実測図8	43	図45	T2断面図	75
図23	21SD1出土土器類実測図9	44			

挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査整備指導委員会	3	表7	樹種同定結果	58
表2	平泉遺跡群調査整備指導委員会協議事項	3	表8	高館跡の調査計画	70
表3	発掘調査年次計画	4	表9	遺物観察表(かわらけ)	77
表4	21SD2トレンチ断面1層対応表	15	表10	遺物観察表(国産陶器)	82
表5	柱穴一覧表	32	表11	遺物観察表(輸入陶磁器)	90
表6	遺物数量表	34	表12	遺物観察表(瓦)	90
			表13	遺物観察表(木製品)	90

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、経度・緯度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて猫間ヶ淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

この遺跡は本格的な発掘調査の開始以前から奥州藤原氏に関連することが想定されていたが、多くは北上川の洪水等により削平を受けて失われたものと考えられていた。そのため、遺跡は一閃遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、記録保存を目的とした大規模な発掘調査が行われることとなった。調査開始以前の予想に反して、調査当初より多くの遺構、遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会で遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に本調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間ヶ淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から「吾妻鏡」に記載される伽羅御所に比定される見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸城や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉の範囲が周辺に広がることが明らかになり、検討が行われてきている。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会で柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつ計画を立て進めている（表3）。

平成27年度調査（77次）は第6次3カ年計画の3年目にあたる。第6次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的と

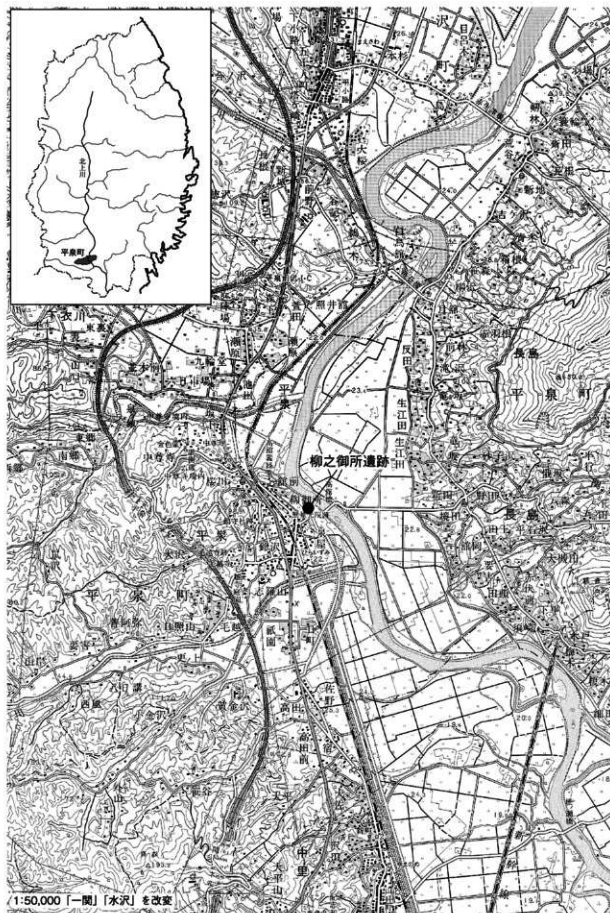


図1 遺跡位置図

した。なお、平成28年度にも堀内部地区南端部周辺で掘跡を中心として遺構や導入施設の有無や様相の確認を主な目的として調査を行っている。第6次3カ年計画では遺跡の南側を含む掘跡周辺の調査へと進んでいる。これまでの計画と今後の計画については表3に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度には世界遺産木登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した(表1)。

平成27年度の委員会・専門部会は表2の通り開催した。

表1 平泉遺跡群調査整備指導委員会

(平成27年4月現在、役職は当時)

氏名	役職	専門部会
入間山立夫	東北大学名誉教授	整備
速藤セツ子	メビウスの会事務局長	整備
○回山 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会事務局長	整備
山中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎山辺 征夫	奈良県立大学特任教授	遺構
玉井 哲雄	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表2 平泉遺跡群調査整備指導委員会 協議事項

回	日時	内容
遺構・整備部会	27. 6. 23	今年度の調査整備の内容について
		掘跡の復旧工事について
		平泉遺跡群の調査整備について(無量光院跡の整備)
第1回委員会	27.10.1~2	今年度の調査について
		今年度の整備について(植栽、看板等について)
		看板等の整備について
		世界遺産に係る資産影響評価及び受容力調査について
遺構・整備部会	27.12. 4	無量光院跡の調査状況、整備計画について
		今年度の整備工事について
		来年度以降の整備計画について
		看板等の整備について
保存管理部会	28. 2. 5	無量光院跡の調査状況、整備計画について
		世界遺産に係る資産影響評価
第2回委員会	28. 2. 5	今年度の整備について
		今後の柳之御所遺跡の整備計画について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
		平泉遺跡群の今年度の調査成果について
		世界遺産に係る資産影響評価

表3 発掘調査年次計画

	年次	調査回数	調査内容等	調査面積	調査期間	備考
第1次二カ年計画	平成10年度	第49次	・堀内部地内の中心建物群、特に堀内建物である南北棟4門9間42S11(28S14と一部重複)の東側地区の解明。 ・23次調査時の23S12建物跡の延長確認。 ・23S13非列跡、23S11廊下の延長確認。 ・48S11建物跡の延長確認と所属時期の検討。 ・地味及び中心建物群を囲む23S11廊下の追跡。 ・4門9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。 ・42S11人溝とされていた遺構の時期及び仲戻状況追跡。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
	平成11年度	第50次	・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・耐震の時期及び仲戻状況の把握。 ・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。 ・築地遺構周辺地域の解明。 ・堀内瓦版との対峙地域の解明。 ・堀外部地区から延長すると推定される遺跡遺構の解明。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助
	平成12年度	第52次	・堀内部地区、中心建物群の北側地域の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される耐震の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される遺跡遺構の解明。 ・現存する段高台状の高まりの性格把握。 ・北上川緑地帯の状況把握。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助
	平成13年度	第53次	・堀内部地区、中心建物群の北側地域の解明。 ・中心建物群を囲むと推定される耐震の検出。 ・堀外部地区から延長すると推定される遺跡遺構の解明。 ・現存する段高台状の高まりの性格把握。 ・北上川緑地帯の状況把握。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
	平成14年度	第56次	・第53次発掘調査の際に検出された大規模な堀(内堀)と御出施設を伴う溝の追跡。 ・北上川岸線での大型建物の範囲の把握。 ・遺構を二分する外堀の追跡。	1,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成15年度	第57次	・口池跡の復原と造成時期の把握。 ・遺跡中取を囲む耐の追跡調査及び門路の確認。 ・高築南側部分未調査地域の遺構分布の確認。 ・中心建物群の規模と築造関係の解明。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
第3次二カ年計画	平成16年度	第59次	・堀池北部の構造及び規模と造成時期の把握。 ・北上川緑地帯の状況把握。	3,500㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成17年度	第64次	・堀池の構造及び規模と造成時期の把握。 ・地味から東側への建物等の展開状況の確認。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成18年度	第65次	・遺跡中取を囲む耐の追跡調査及び門路及び遺跡遺構の確認。 ・掘調査区の再検証。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
第4次二カ年計画	平成19年度	第68次	・遺跡遺構(21S1)及び耐跡(23S1)の延長確認。 ・遺跡南側外堀の有無の確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成20年度	第69次	・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。 ・掘調査の一部確認されている遺構の追跡調査。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成21年度	第70次	・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。 ・堀内部北端部の構造確認。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
第5次二カ年計画	平成22年度	第72次	・遺跡北端部の堀の延長確認。 ・堀内部北端部の構造確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成23年度	第73次	・堀内部と堀外部との導入施設の確認。 ・耐跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成24年度	第74次	・堀内部地区の道路の延長確認。 ・堀内部と堀外部の導入施設周辺地域の確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
第6次二カ年計画	平成25年度	第75次	・御門が堀跡周辺における堀跡の検出の確認。 ・交通施設の有無及び遺構の把握。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成26年度	第76次	・遺跡南端部における堀跡の状況確認。 ・堀周辺の遺構の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※奉還関係子委員会
	平成27年度	第77次	・遺跡南端部周辺における遺構の分布状況の確認。	1,100㎡		

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

3 今年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課〉

総 括 課 長	松下 洋介
世界遺産担当課長	細越 健志 (H28. 3.31まで)
主幹兼世界遺産担当課長	佐藤 嘉広 (H28. 4. 1から)
上席文化財専門員 (柳之御所担当)	岩舘 計 (H28. 3.31まで)
文化財専門員 (柳之御所担当)	千葉 正彦 (H28. 4. 1から)
主 査 (柳之御所担当)	濁上 恭子
文化財調査員 (柳之御所担当)	櫻井 友梓

〈(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長	中村 英俊
主任文化財専門員	村上 拓

(2) 調査区の位置と調査目的

平成27年度調査(77次)は遺跡の南端部周辺の未調査範囲を主な対象とした(図2)。今回の範囲は近年まで宅地等が所在し、これまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、77次調査の対象とした範囲の周辺は、これまで多くの調査が行われている範囲でもある。調査区は大きく南北の2つの範囲に分かれるが、南区は21次調査・69次調査・70次調査の調査範囲と76次調査の調査範囲の間にあたる部分である。柳之御所遺跡の緊急調査が開始された21次調査(昭和63年)および23次調査(平成元年)でこの周囲が調査されたほか、69次調査(平成20年)と70次調査(平成21年)で周囲の調査を行っている。このほか、平泉町教育委員会が小規模の調査を行った範囲も近接する。これらの調査で内側の堀跡(21SD1)や外側の堀跡(21SD2)、関連する遺構(21SX4)が確認されているほか、伽藍之御所跡の方向へ伸びる橋跡の遺構も確認されている。

今回の調査目的のひとつは堀跡の位置と内容の確認である。調査範囲は遺跡を囲む堀跡のうち、これまで調査が行われてきた南端部と堀間が堀跡周辺の間の未調査の範囲にあたる。堀跡の位置については地形の観察などから推察されてきたが、明確な位置については不明な部分も残されていた。そこで位置の確定のため一部について走行方向を確認することをひとつの目的とした。また、76次調査で確認した堀跡周辺の整地等に由来する人為的な土質の崩壊土層の延長と性格の検討も目的のひとつとしているほか、堀間が堀跡方向への地形の様相や遺構の分布状況の確認も目的とした。堀跡については時期や規模について課題が残されており、それらの検討の材料を得ることも目的とする。

もうひとつの目的は、堀内部の範囲にあたる堀跡に近接する平坦な範囲について、遺構の分布等が不明なことからこれらの様相の把握を目的としている。特に、堀跡に沿った部分での遺構の把握とこの周囲の性格検討のための材料を得ることを目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、調査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

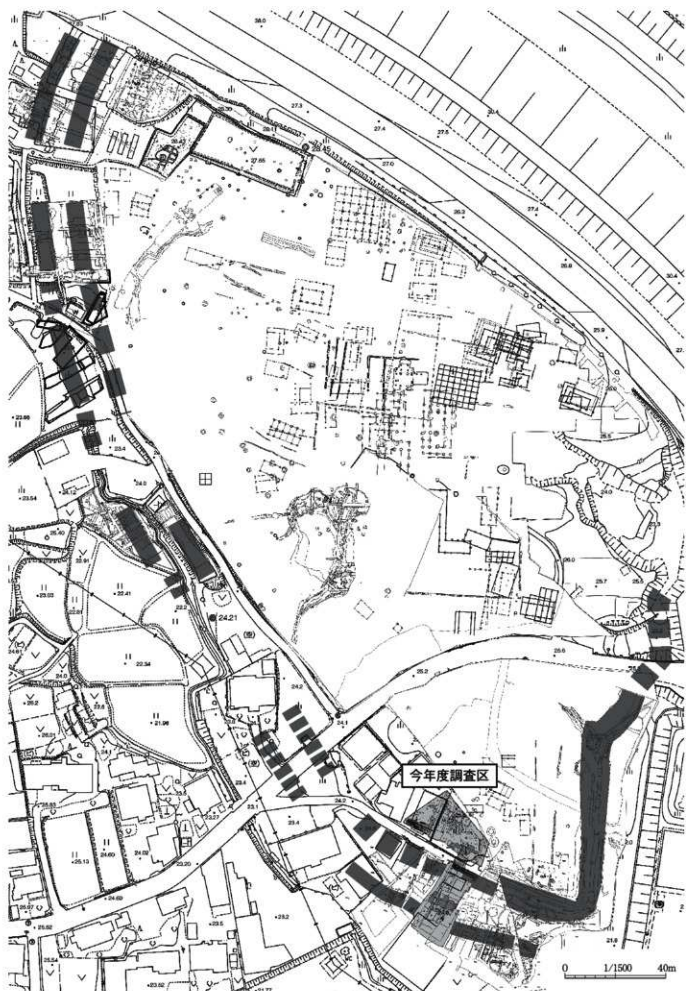


图2 調査区位置图

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである(岩手県埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第X系(旧日本測地系)をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点(0, 0)となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を踏襲し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。なお、調査時の、地震後の改測成果と以前の測量成果の混同により、今年度調査時にグリッドの位置が錯誤しており、その対応については取り上げグリッドを後述した。遺構図面及び遺構に関する記述の表記については修正しており、表記のものが正である。

また、本遺跡の周辺では大規模な調査の開始以降に宮城県東部地震や東日本大震災により大きな地形の変動を受けている。その後に行った再測量において当遺跡内での座標変動とその数値を改めて確認している。ただし、柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を示すことが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため現在の調査においても現地においては旧日本測地系の座標を基準として設定しており、発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局地座標で行う。

局地的な調査継続としては上記のように考えられるものの、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきている。それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握することで対応に努めていきたい。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、昨年度の調査で表土の厚さを確認していた範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査(検出作業)を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半費等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真については6×7版カメラ(モノクロ・リバーサルフィルム)を中心に、適宜35mm版カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査次数である77を付して上記遺構略号を使用した(例.77SK○○)、既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号(既調査で命名)を本書においても使用している。具体的には2条の大規模な堀跡については既調査で確認されている遺構と同一であることから21SD1、21SD2の遺構名称を継続して用いる。

整理作業

野外調査終了後の平成27年12月1日から平成28年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と、既知の遺構でも半裁などにより精査した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の余剰がほぼ明らかとなった10月3日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

(櫻井)

Ⅱ 調査内容

1 調査の概要

今回の調査区は平成21・22年度に実施した69・70次調査区と平成26年度に実施した第76次調査区の両の範囲（南区）と、昭和63年度の21次調査区の南側の範囲（北区）に大きく分かれる。調査対象面積は約800㎡である。公有地化以前の状況は宅地で現況の地形は平坦だが、南区の造成前の本来の地形は箱間ヶ淵跡へ向かって下がる地形である。

今回の調査区は、南区は遺跡を囲む2条の堀跡（21SD1・21SD2）が位置するとみられる範囲でこれまでの調査で確認されている整地層などの土層の分布状況を確認し、周囲の遺構状況を把握することを目的としている。北区は堀内部の縁辺部にあたり、これまでの調査で小規模な掘立柱建物跡や井戸跡が確認されている。

調査区内は北区、南区のいずれの範囲も宅地造成時の削平などによる地形の改変が著しい。北区は宅地等の掘削が多数検出面で確認でき、地点によっては遺構が検出される面を大きく削り、遺構の有無が確認できない範囲もある。南区も掘削による溝等が確認できるほか、現代の厚い盛り土層が確認された。検出面までの層序は、地点によって層の有無や層厚の差はあるが、基本的には同様である。調査区内の基本層序は下記の通りである。

I 表土層

II 宅地造成時とみられる盛土層

III 調査区東に堆積する黒褐色から灰褐色の土層で、12世紀代の遺物を含む。12世紀以降の堆積層。遺構の上層埋土となる範囲もあり、その部分での様相からは細分が可能である。近世以降のものより12世紀代に近いものなどで細分できる。

IV 黒褐色の土層。12世紀とそれ以前の時期の旧表土にあたる層だが、多くの範囲では削平等により確認できない。この土層が残る範囲はこの上面で遺構検出面となるため掘削は行なっておらず、分層やそれによる遺構の検出等を基本的に行っていないが、黒色が強い口表土とみられる土層、灰褐色土層、黒色が強い土層の3層程度に分かれる。これらの土層には、古代や縄文の土器を含み、灰褐色土層は平安時代の、黒色が強い土層は縄文の遺物を基本的に含む土層である。過去の調査でも旧地形の標高が低い範囲などで確認されている。

V 黄褐色の粘土層で、いわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。

なお、このうちⅢ・Ⅳ層は調査範囲全体では確認できず、調査範囲の東側の一部でのみ確認できる。多くの調査範囲はV層の上面にⅡ層の盛土層が堆積し、削平等により改変が行なわれたことがわかる。一部を除き、遺構の多くはV層上面での検出となる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図3）。

堀跡 2条

整地層 3カ所

土坑 3個（うち1個は非戸跡の可能性が高い）

柱穴 70個（多くは12世紀以降の遺構）

（櫻井）

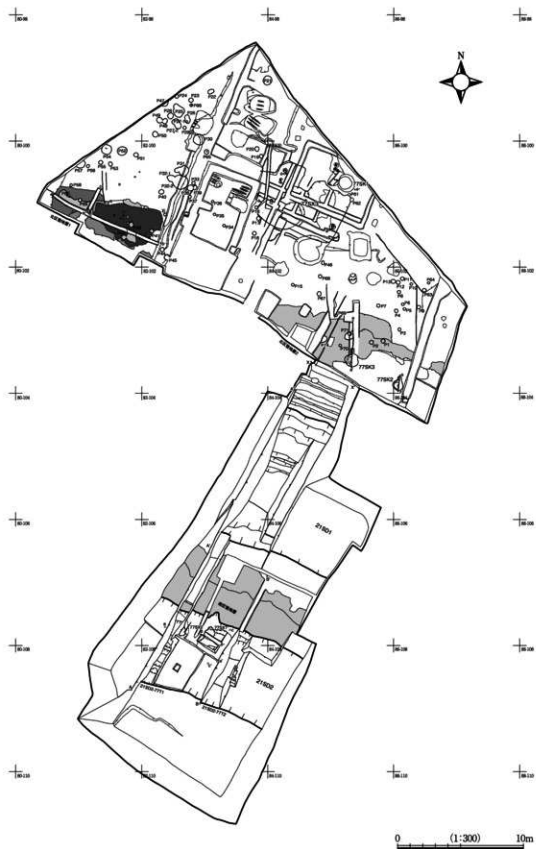


図3 遺構配置図 (1/300)

2 検出遺構

(1) 南区(図4)

堀内部地区南端部西縁から竈間が溝側の低位面にかけて設定した調査区である。既往調査で検出されている堀跡(21SD1・21SD2)の追跡及びこれに付帯する遺構等の確認を主な目的としている。グリッドライン東西81~86・南北103~111の範囲に位置し、84-103グリッド付近で北区と接する。面積は約290㎡である。当区は全体が宅地造成等に伴う厚い盛り土に覆われているが、本来の地形は竈間ヶ淵に向かってやや急に下る斜面である。遺構確認面の標高は高位側が23.5m前後、低位側では22.0m前後である。

① 堀跡

21SD1 (図4・5)

〔位置・検出状況・精査方法〕 84-105グリッドを中心に東南東-西北西方向に走行する帯状の灰黄褐色土範囲として検出した。内岸側プランは地山黄褐色土面、外岸側は地山黄褐色土層上位の自然堆積層である黒色~褐色土面でそれぞれ確認している。いずれも後世の宅地化に伴う削平面である。精査方法はトレンチ調査とし、本遺構を直交方向に横断する幅約3.0mの範囲を底面まで完掘した。なお、このトレンチは、南側に並走する21SD2(後堀)及び南区整地層の土層を連続して観察できるように同一線上に設定している。図5に示した本遺構の断面(A'-A'')は、図6の21SD2-77T1断面(A-A')に連続するものである。

〔形状・規模〕 断面形状は概ね逆台形を呈する。上端幅11.0m、下端幅4.3m、底面までの残存深度は240cm前後、底面標高は21.1m前後である。壁の立ち上がりは本来直線のだったと推測されるが、埋没過程の崩落により断面中部がやや抉れ緩く内湾した状態となっている。残存形態にみる壁面の勾配は内岸側が40°前後、外岸側が30°前後である。内岸側壁下部に残存する構築当初の面では50°強の傾斜が認められる。底面は全体に平坦に整っているが、両壁の直下は浅い溝状にわずかに低くなっている。鋤先痕に類似する黒色土の小斑が集中することから、構築時に堀底の幅を規定するため一旦深く掘り下げられた可能性がある。

〔埋土・堆積状況〕 土層断面に観察される最も古い堆積層は内岸側壁直下の21層である。上述した、壁下端に沿って一段深まる部分を埋める土層である。大径の地山ブロックを多く含んでおり、掘削後すぐに埋め戻された可能性が高い。よって中央部の掘削底面に連続する21層上面が構築直後の機能面と推定される。その後両岸側からの崩落土が堆積(20層)、これが安定した後、内部には自然流入による泥(17・18層)の堆積が漸次進んだとみられる。

その後、内岸側壁面の一部でやや大きな壁面の崩壊が生じている(15a~15d層)。土層断面付近の局所的なものであり、壁面には風倒木痕様の不整形凹部が認められた。ただし、木炭粒の混入が顕著になるのはこれ以降の堆積層からであることを考慮し、ここでは何らかの両期に伴う人為の可能性を留保しておきたい。

この壁面崩壊後は、再び両岸からの流入土による堆積が進んでいる。8・10・14層の下面は略完形のかわけを主体とする遺物分布面となっている。層界にみられるこれらの遺物集中は内岸側からの人為的な投棄によるものを含む可能性が高いが、その上下の堆積層はいずれも自然流入土であり、人為層は認められない。

なお、内岸側からの流入土では土器片・木炭片を含む暗褐色土が、外岸側からはこれらを含まない

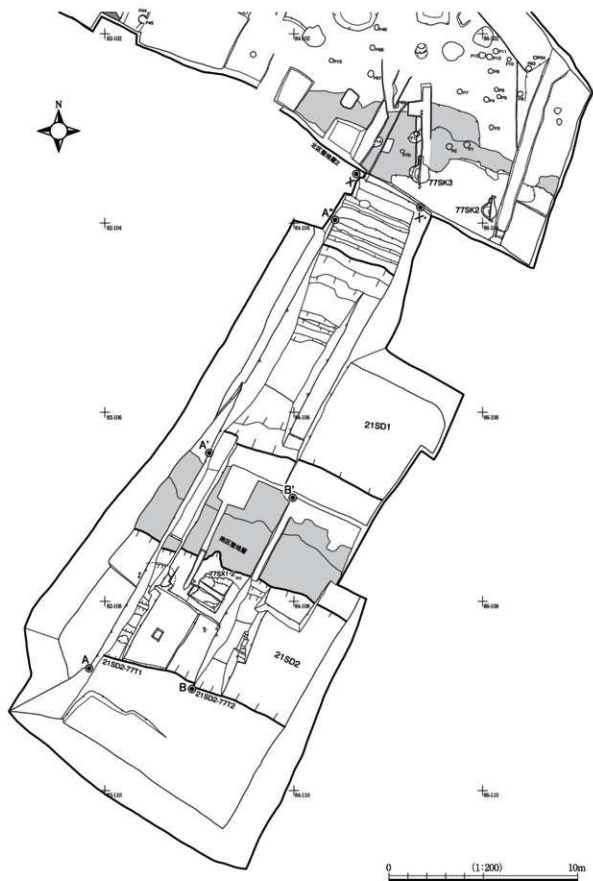
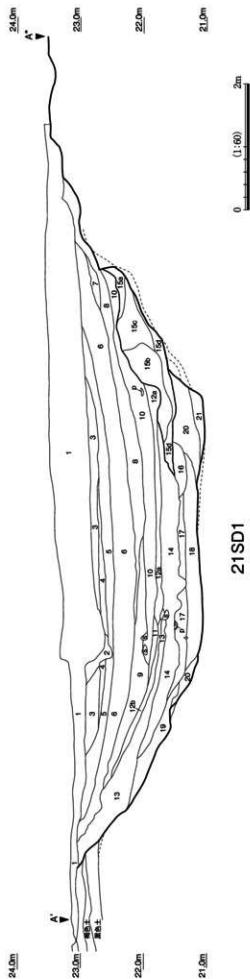


図4 南区遺構平面図



21SD1

図 5 21SD1 断面図

層番号	層厚	層名	説明
1	10784.2-3.2	灰黄緑-灰褐色	シルト
2	10784.2-3.2	灰黄緑-灰褐色	シルト
3	10783.2	黒褐色	シルト
4	10783.1-3.2	黒褐色	粘土質シルト
5	10784.2-3.2	黒褐色	シルト
6	10784.2-3.2	灰黄緑-黒褐色	シルト
7	10784.2-3.2	灰黄緑-黒褐色	シルト
8	10784.2-3.2	灰黄緑-黒褐色	シルト
9	2576.3-5.3	にえい黄-灰褐色	粘土質シルト
10	10784.2-3.2	灰黄緑-黒褐色	シルト
11	2574.2	暗灰黄色	粘土質シルト
12a	10783.1	黒褐色	シルト
12b	10783.2	黒褐色	シルト
13	10783.1	黒褐色	粘土質シルト
14	10783.1-3.2	黒褐色	シルト
15a	10783.1	黒褐色	シルト
15b	2574.2	暗灰黄色	粘土質シルト
15c	2577.4-6.4	浅黄-にえい黄色	シルト
16	2574.2-3.2	暗灰黄色	粘土質シルト
17	2574.2-3.2	暗灰黄色	粘土質シルト
18	10783.1	黒褐色	粘土質シルト
19	10783.1	黒褐色	粘土質シルト
20	2574.2-3.2	暗灰黄色	シルト
21	2574.2-3.2	暗灰黄色	シルト

層番号	層厚	層名	説明
1	10784.2	黒褐色	シルト
2	10784.2	黒褐色	シルト
3	10784.2	黒褐色	シルト
4	10784.2	黒褐色	シルト
5	10784.2	黒褐色	シルト
6	10784.2	黒褐色	シルト
7	10784.2	黒褐色	シルト
8	10784.2	黒褐色	シルト
9	10784.2	黒褐色	シルト
10	10784.2	黒褐色	シルト
11	10784.2	黒褐色	シルト
12	10784.2	黒褐色	シルト
13	10784.2	黒褐色	シルト
14	10784.2	黒褐色	シルト
15	10784.2	黒褐色	シルト
16	10784.2	黒褐色	シルト
17	10784.2	黒褐色	シルト
18	10784.2	黒褐色	シルト
19	10784.2	黒褐色	シルト
20	10784.2	黒褐色	シルト
21	10784.2	黒褐色	シルト

【21SD1 (GISR2-7771) 延長 水-A7)

1 10784.2-3.2 灰黄緑-灰褐色 シルト

2 10784.2-3.2 灰黄緑-灰褐色 シルト

3 10783.2 黒褐色 シルト

4 10783.1-3.2 黒褐色 粘土質シルト

5 10784.2-3.2 黒褐色 シルト

6 10784.2-3.2 灰黄緑-黒褐色 シルト

7 10784.2-3.2 灰黄緑-黒褐色 シルト

8 10784.2-3.2 灰黄緑-黒褐色 シルト

9 2576.3-5.3 にえい黄-灰褐色 粘土質シルト

10 10784.2-3.2 灰黄緑-黒褐色 シルト

11 2574.2 暗灰黄色 粘土質シルト

12a 10783.1 黒褐色 シルト

12b 10783.2 黒褐色 シルト

13 10783.1 黒褐色 粘土質シルト

14 10783.1-3.2 黒褐色 シルト

15a 10783.1 黒褐色 粘土質シルト

15b 2574.2 暗灰黄色 シルト

15c 2577.4-6.4 浅黄-にえい黄色 シルト

16 2574.2-3.2 暗灰黄色 粘土質シルト

17 2574.2-3.2 暗灰黄色 粘土質シルト

18 10783.1 黒褐色 粘土質シルト

19 10783.1 黒褐色 粘土質シルト

20 2574.2-3.2 暗灰黄色 シルト

21 2574.2-3.2 暗灰黄色 シルト

1 シルト

2 シルト

3 シルト

4 粘土質シルト

5 シルト

6 シルト

7 シルト

8 シルト

9 粘土質シルト

10 シルト

11 粘土質シルト

12a シルト

12b シルト

13 粘土質シルト

14 シルト

15a 粘土質シルト

15b シルト

15c シルト

16 粘土質シルト

17 粘土質シルト

18 粘土質シルト

19 粘土質シルト

20 シルト

21 シルト

1 シルト

2 シルト

3 シルト

4 粘土質シルト

5 シルト

6 シルト

7 シルト

8 シルト

9 粘土質シルト

10 シルト

11 粘土質シルト

12a シルト

12b シルト

13 粘土質シルト

14 シルト

15a 粘土質シルト

15b シルト

15c シルト

16 粘土質シルト

17 粘土質シルト

18 粘土質シルト

19 粘土質シルト

20 シルト

21 シルト

1 シルト

2 シルト

3 シルト

4 粘土質シルト

5 シルト

6 シルト

7 シルト

8 シルト

9 粘土質シルト

10 シルト

11 粘土質シルト

12a シルト

12b シルト

13 粘土質シルト

14 シルト

15a 粘土質シルト

15b シルト

15c シルト

16 粘土質シルト

17 粘土質シルト

18 粘土質シルト

19 粘土質シルト

20 シルト

21 シルト

1 シルト

2 シルト

3 シルト

4 粘土質シルト

5 シルト

6 シルト

7 シルト

8 シルト

9 粘土質シルト

10 シルト

11 粘土質シルト

12a シルト

12b シルト

13 粘土質シルト

14 シルト

15a 粘土質シルト

15b シルト

15c シルト

16 粘土質シルト

17 粘土質シルト

18 粘土質シルト

19 粘土質シルト

20 シルト

21 シルト

1 シルト

2 シルト

3 シルト

4 粘土質シルト

5 シルト

6 シルト

7 シルト

8 シルト

9 粘土質シルト

10 シルト

11 粘土質シルト

12a シルト

12b シルト

13 粘土質シルト

14 シルト

15a 粘土質シルト

15b シルト

15c シルト

16 粘土質シルト

17 粘土質シルト

18 粘土質シルト

19 粘土質シルト

20 シルト

21 シルト

褐色の粘質土が、それぞれ主体土となっている。両者は壁寄りでは明らかに層相を異にするが、互いが交わる中央部では明瞭な層界を成さず、同一の環境下で同時に堆積したものと理解される。

この層相の差異は、すなわち内岸・外岸それぞれの地表面の状況の相異を反映していると考えられる。内岸側では、遺跡内部で生じた木炭や遺物が、地表及びそれを形成する土層内（後掲、北区整地層2上位に想定される堆積層）に多く含まれ、只つこれらの流入を著しく制限するものが存在しない環境であったと推測される。一方、外岸側は、遺物・木炭等の人間活動に伴う生成物の少なさを除けば、地山土を用いた整地層に被覆されている点で内岸側と共通するものの、表土の生成とその流入が抑制される構造となっていた可能性が高い。南区整地層は後世の削平によって上部を失っており、残存面より上位の構造は不明となっているが、地山土を大量に用いた土塁様の構築物を想定することで、本遺構内の堆積層に認められる上述の諸相が理解できる。外岸側流入土の9層に覆われた10層上面では、壁に平行し帯状に分布する転礫群（径20cm前後）も検出されている。外岸側構築物に伴う何らかの材であった可能性を指摘しておきたい。

このほか、16層と14層外岸掘下面並びに12a層下面両端では、それぞれ浅い落ち込みが確認されている。土層断面で認識したものであり面的な広がり把握できていないが、上述した掘方底面両側縁の浅い溝状落ち込みや鋤先痕様の小黒斑を考慮すれば、埋没途上のある段階に保守目的の底面整形等が行われた可能性があり、その痕跡とみることもできよう。

埋没の最終段階には遺構の上部は周辺よりもやや低い連続した凹地となったと思われる。4層以上は近現代以降の堆積層であり、他の調査地点と同様、概ね近世以降は水田等に利用されたとみられる。

〔重複・先後関係〕 今次調査地点において、直接的に切り合う他の遺構はない。既往調査の成果から、当初構築時期は後掲21SD2のそれよりも新しく、また、相互の埋土の対比から21SD2最新段階（層群⑧、後述）に併行すると推測される。

〔出土遺物〕 図15～23

21SD2（図4・6）

〔位置・検出状況・精査方法〕 83-108グリッドを中心に東南東-西北西方向に走行する帯状の灰黄褐色土範囲として検出した。内岸側プランは南区整地層残存部上面、外岸側は現代盛土直前の旧表土層下面でそれぞれ確認したものである。内岸側は後世の宅地化に伴う削平面であり、外岸側は上述の旧表土層下面に切られている。精査方法はトレンチ調査とし、本遺構を直交方向に横断するトレンチを2箇所を設定した。南区西壁に沿って設定したトレンチ（21SD2-77T1）では幅約1.2mの範囲を底面まで完掘した。本トレンチは南区整地層を横断し、先掲21SD1断面に連続するよう同一線上に設定している。図6に示した本遺構の断面（A-A'）は、図5の21SD1断面（A'-A''）に連続するものである。また、検出範囲のほぼ中央には21SD2-77T2を設定し、幅2.0mの範囲を完掘した。本トレンチの断面もまた南区整地層に連続させて延長し相互の関係の把握に努めた（B-B'）。

〔形状・規模〕 二つのトレンチ（77T1・77T2）断面の間隔は5.0m程であるが、完掘状態における両者の断面形状は大きく異なる。後述するが、これは本遺構が複数回の再掘削を経ていることに起因する。77T1では、内岸側壁面直下が他より一段深いV字状を呈し（底面標高約20.8m）、また底面中央付近は幅広のU字状に低くなっている（同20.9m）。これより外岸側ではほぼ平坦な安定した底面が壁直下まで連続している（同21.2m）。上端幅7.9m、下端幅4.0m前後、内岸側壁面直下最深部までの残存深度は240cmである。残存形態にみる壁面の勾配は内岸側下部で62°、同中部～上部は46°ほどである。外岸側は下部から中部にかけて50°前後で立ち上がった後、上部はやや大きく外反している。一方、77T2では比較的整った逆台形の断面形を呈する。上端幅6.3m、下端幅2.7m、底面ま

での残存深度は260cm、底面標高は20.6mである。壁面勾配は内岸側が52°、外岸側が40°で、いずれもほぼ直線的に立ち上がる。底面は両トレンチとも掘方に従って平滑に整っており、凹凸等は見られなかった。なお、77T2の外岸側については、ブランの把握が困難であったことから調査時に若干掘り下げ過ぎている。本来は77T1と同様、標高22.3m程まで壁が残存したものと推測される。また、内岸側上端の一部(83-107グリッド)では、「水門」状の張出し部が検出されている。この部分については断り割り等の精査を行っていないため、構造の詳細は不明である。

〔埋土・堆積状況〕 本遺構の土層断面には、先行の堆積層を後続のそれが切る複雑な重複が認められる。両トレンチの堆積層を人別すると、下表のように整理・対比できる。

表4 21SD2トレンチ断面土層対応表

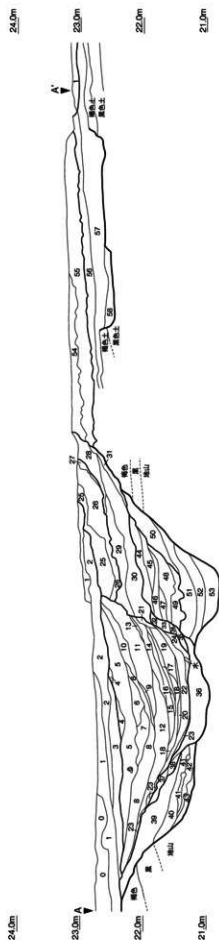
層群	性状・特徴・性格等	77T1 (断面A-A')	77T2 (断面B-B')
—	表土層・擾乱層	0-3	1
⑧	砂質帯び木炭片含む(21SD1並行期以降)。遺物急増。	4-24	(2?)/5-6
⑦	不整掘り込みの埋戻し土。77SX1・77SX2埋土。	25-27	3-4
⑥	内岸側からの流入層か。「南区釜地屋」に直接接する。	28-31	7-9/19
⑤	再堆積の灰白火山灰層顕著。水成堆積。流路の累積。	32-35	10-18/20-22
④	平坦な底面に杭状の凹凸を持つ。逆台形か。	44-49	23-37
③	中央切る流路か。	(?)	38-39
②	中央深く切るU字形。水成堆積顕著。	36-38	40-43
①	V字～逆台形。構築最初期段階。当初の崩落土層含む。	39-43/51-53	44-45/46-47/48

最も古くに位置づけられる層群①は、77T1では内岸・外岸側それぞれの壁際に堆積している。本遺構の掘方壁面上部には、地山黄褐色土層の上位に位置づけられる自然堆積層(暗褐色～黒褐色土)が露出しており、これらが壁面から直接流入して形成された本層群は、特に下部において粘性と黒味の強い性状を呈する。77T2においては両壁際から連続して底面全体を直に覆っており、この地点の掘方形状が最古期のそれであることを示している。内岸側では77T1に比して地山土塊を多く含む崩落土層が目立ち、また底面中央部では崩落層の直上に細い水流の痕跡(B-B' : 45層)も認められることから、構築後の崩落が落ち着いた段階で一旦安定したものであると思われる。なお、ひとつ注意が必要なのは77T1の内岸側最深部の解釈についてである。このV字状の掘方は77T2断面には表れていない。このため、本層群下面の逆台形掘方に先行するV字状の掘方が、77T1付近に部分的に残存したと見られることもできる。あるいは通水のため底面の一部を深く掘り下げていた可能性も含め、他地点の様相と比較しながら慎重に検討する必要がある。

層群②は、層群①を大きく深く切る水成堆積層である。下面がU字形をなし、77T1では構築当初の底面をさらに下方に切り込んでいる。77T2では、層群②が同様の水成堆積による層群③に切られる様子が確認できる。層群①の形成後、遺構内部に生じた流水は一旦深く埋土を削り、その後も幾度か流路を移動させながら堆積を進めたことが理解される。

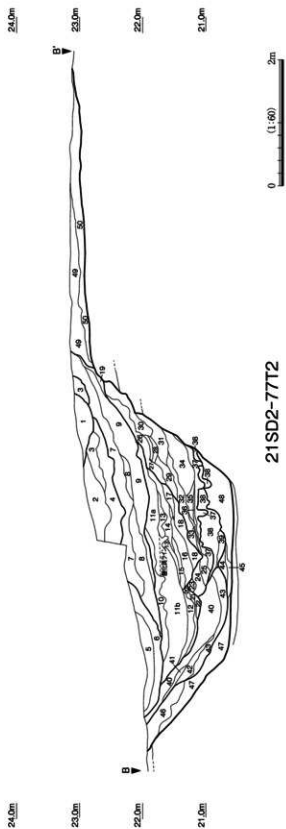
層群④は、下面がレンズ状を成す下位層群を水平に切る新たな掘り込みである。底面に小規模な凹凸を持ち、この部分では下位の土層をさらに下方に引きずるように押し下げている様子が観察されることから、汎杭等の痕跡かも知れない。この掘り込みもまた崩落・流入土によって上部まで堆積が進んでおり、その過程の幾筋かの小規模な流水痕跡も認められる。

層群⑤は④に後続する、重複した複数の流路からなる水成堆積層である。全体に和出火山灰類



21SD2-7T1

図 6 21SD2断面図



21SD2-7T2

【21SD2-77T】(A-A')

0 覆灰層(現代盛土)

1	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり密、現代盛土の直前の表土層。
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密、1層に似るがやや明るく粘土質。
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密、土器細片・炭粒(径5-10mm)無微量、上下位の土層に比して黒味。
4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密、2層によく似る。
5	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中、土器小片・小礫(径5-10mm)・角張った木炭片(径10-20mm)を含む。全体にやや砂質、赤土層・炭が日立つ。
6	25Y4/3	オリーブ褐色	シルト	粘性中	しまりやや密、炭粒(径5mm)無微量。
7	25Y5/2-5/3	暗灰黄・黄褐色	シルト	粘性中	しまり中、炭粒(径1-2mm)無微量、上・下位層よりやや明るい。
8	25Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、炭小片(径5-20mm)少量、下部はど黒味。
9	25Y3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり中、淡黄色粘土粒(径5mm)微量、全体に砂質密着。
10	25Y4/3	オリーブ褐色	シルト	粘性中	6層によく似る。
11	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中、淡黄色粘土ブロック(径5-10mm)微量、炭粒(径5-10mm)微量。
12	25Y5/2	暗灰黄色	粘土	粘性やや強	しまりやや密、25Y6/3-5/3に似るがやや黄・黄褐色細砂の層層状。
13	25Y4/2-3/2	暗灰黄・黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中、炭粒(径5mm)微量、上・下位層より黒味強い。
14	25Y4/2-4/3	暗灰黄・オリーブ褐色	砂質シルト	粘性中	しまり中、淡黄色粘土ブロック(径5-10mm)・25Y4/2暗灰黄色粘土質シルトブロック(径10-30mm、29-30層の崩落土)をそれぞれ少量含む、炭粒(径5-10mm)無微量。12層によく似る(12層との層界に細砂層状含む)、内厚部では砂質強まり14-17層に似るが、粘性はより強く明るい。
15	25Y5/2	暗灰黄色	粘土	粘性中	しまり中、炭粒(径5mm)微量。
16	25Y3/2	黒褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
17	14層によく似る。				
18	25Y4/1-3/2	黄灰・黒褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
19	14・17層によく似る。				
20	25Y4/1	黄灰色	粘土	粘性強	しまりやや密。
21	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、29層の崩落土。
22	上部:25Y3/1 黒褐色粘土、下部:25Y4/1 黄灰色粘土、上部は:25Y4/1 黄灰色粘土の薄層(厚3-2-5mm)複数枚入り互層状。粘性強しまり中。				
23	25Y4/2	砂質シルト	粘性中	しまり中、全体に砂質密着強い。	
24	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中、水質細砂含みやや多。
25	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密、25Y6/4に似る黄色粘土質シルトブロック(径5-30mm)少量。陶器片・かわかけ細片微量。
26	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまりやや密、25Y6/4に似る黄色粘土質シルトブロック(径5-40mm)大量、25Y3/2黒褐色粘土質シルトブロック(径5-30mm)微量、重層地層土の再堆積土(人為)であろう。混入ブロックは上方からの加圧により水平方向に潰れている。
27	25Y4/2-3/2	暗灰黄・黒褐色	シルト	粘性中	しまり中、炭粒(径5mm)無微量。
28	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、混入物ない土層。
29	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。
30	25Y4/1-4/2	黄灰・暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密、29層に似るがやや暗く淡黄色粘土ブロックを無微量含む、内厚部の際では混入ブロックが上方からの加圧により潰れたような様相呈す。21SD2-T2の11a層に對比しまりやや密、粘土ブロックは層界に沿って潰れている(上方からの加圧によるか)。20-30層の内厚部下部に相当。
31	25Y6/3-6/4	にぶい黄色	粘土ブロック層	粘性やや強	しまり中、炭粒(径5mm)無微量。
32	25Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密、淡黄色粘土ブロック(径20mm)微量。
33	25Y5/2-4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまりやや密、全体にやや砂質密着(44層の火山灰層シルトを全体に含む)。
34	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中、上半部に10YR7/3-6/2に似る黄・灰黄色火山灰層シルト多量に含む。33層によく似る。
35					
36	25Y4/1 黄灰色粘土と 25Y3/1 黒褐色粘土の互層、粘性強				しまり中。
37	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり中、10YR6/3-5/3に似る黄・にぶい黄褐色火山灰層シルトを多く含む全体明るい。
38	34層に似る。火山灰層シルト上部に多量。				
39	25Y4/2-4/3	暗灰黄・オリーブ褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。
40	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。
41	25Y3/1-3/2	黒褐色	シルト	粘性中	淡黄色粘土ブロック(径2-5mm)やや多量。
42	25Y3/1-3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。
43	25Y3/1-3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	淡黄色粘土ブロック(径10-30mm)やや多量、崩落土。
44	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり中、10YR6/3-5/3に似る黄・にぶい黄褐色シルト(火山灰層)多く含む(低位部層により多い)、全体明るく砂質密着、37層に似る。
45	25Y5/2-4/2	暗灰黄・暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密、44層に比して黒味強い。
46	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中、全体に火山灰層シルトを多く含む。
47	25Y4/2-4/3	暗灰黄・オリーブ褐色	シルト	粘性中	しまりやや密、全体にやや黄味。
48	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、炭粒(径2-5mm)無微量、黒味強い。
49	25Y4/2	暗灰黄色	粘土	粘性強	しまり中、下面に小穴状の落ち込みが観察される。
50	25Y4/1-3/1	黄灰・黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。
51	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまり中、25Y6/3-6/4に似る黄色土ブロック(径5-15mm)やや多量。
52	25Y4/2-3/2	暗灰黄・黒褐色	粘土	粘性強	しまり中、炭粒(径2-5mm)無微量、水質細片無微量。
53	25Y3/1 黒褐色粘土質シルト・25Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト・25Y6/3 にぶい黄色粘土のブロック層(各径20-40mm)、粘性やや強				しまり中、崩落土層。
54	SD2-T2の整地層上部に同じ。				
55	SD2-T2の整地層下部に同じ。				
56	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、*整地層直下の自然堆積黒土層(田表土)、古代聖天住跡層を覆う、55層との間に間隙なし、本層上面は12世紀における土地利用開始直前の地表面とみられる。
57	10YR4/2-3/3	暗灰黄・暗オリーブ褐色粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、炭粒(径2mm)無微量、内層(21SD1)層に向かって徐々に明るくなる(→10YR4/3に似る黄褐色)、*平安時代前期聖天住跡層上部。	
58	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中、褐色土ブロック(径2-5mm)微量、*古代住跡層の崩壊または付属施設等の粘土か

【2ISD2-777】(B-I)

1	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。
2	25Y4/2-10YR4/2	暗灰黄-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密、角張った木炭片(径5-30mm)微量、木炭混入目立つ層。
3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密、淡黄色粘土ブロック・黒褐色土ブロック(径10-20mm)やや多量。
4	25Y4/2-4/3	暗灰黄-オリーブ褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、淡黄色粘土ブロック(径10-30mm)大量(ほぼブロック層)。
5	10YR4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、25Y5/2暗灰黄色粘土ブロック(径10-40mm)少量、25Y6/3にぶい黄色粘土ブロック(径5-40mm)少量、炭粒(径5mm)微量。
6	25Y5/3	黄褐色 顔砂と同色粘土の互層。	粘性中	しまり中、下部ほど砂質強くなり、角張った木炭片(径10-20mm)微量。	
7	25Y4/2	暗灰黄色 粘土	粘性やや強	しまり密、25Y6/3-6/4にぶい黄色粘土ブロックやや多量、混入ブロックは幅150mm厚5-2mm程度に水平方向に引き延ばれている。上方向の突き固めによるか。	
8	25Y4/2	暗灰黄色 粘土	粘性やや強	しまり密、7層に似るが炭片が(径5-20mm)微量含む。2層からの突き固めによるか。	
9	10YR4/2-3/2	灰黄-黒褐色 粘土	粘性やや強	しまり密、9層に似るが炭片(径5-20mm)微量含む、木炭目立つ土層。	
10	8層に似る。下面に沿って酸化鉄顕著(※酸化鉄は本層下面-11a層下面-13層にかけて水平方向に発達)。				
11a	10YR3/1	黒褐色 粘土	粘性やや強	しまり密、炭粒(径5-20mm)微量、下面に酸化鉄発達(※10層記載参照)。	
11b	11aに似るが、25Y砂質シルトのラミナが顕著な部分。				
12	10YR3/2	黒褐色 シルト	粘性やや強	しまり中、10YR4/2灰黄色顔砂のラミナみられる。全体に木質繊維含む赤味帯びる。	
13	10YR4/2	灰黄褐色 砂質シルト	粘性やや弱	しまりやや密、全体に酸化鉄顕著(※10層記載参照)。	
14	25Y4/1-3/1	黄灰-黒褐色 粘土		25Y6/3にぶい黄色粘土ブロック(径2-5mm)微量、上下段の土層に比して黒味強い。	
15	10YR3/2	黒褐色 シルト	粘性中	しまり中、火山灰層の灰白顔砂を全体に含む(十和田a火山灰の再堆積か)。	
16	10YR3/2	黒褐色		粘土質シルトと火山灰顔砂互層の互層(ラミナ)状発する部分有り。	
17	15層に似る。				
18	10YR4/1	褐灰色 粘土	粘性やや強	しまりやや密、最下部に32層の崩落ブロック層みられる。	
19	25Y6/2-5/2	灰黄-暗灰黄色 粘土ブロック層	粘性中	しまり密、意地層(49-50層)を切る土層(※10層下面-11a層下面に対応する可能性有り)。	
20	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色 シルト	粘性中	しまりやや密、全体にやや砂質。	
21	10YR4/1	褐灰色 シルト	粘性中	しまりやや密、全体にやや砂質、20層より味。	
22	10YR3/2	黒褐色 シルト	粘性中	しまり中、全体に木質繊維含むやや赤味、21層との層界に粗砂層。	
23	25Y4/1-4/2	黄灰-暗灰黄色 シルト	粘性中	しまり中、20層に似る。	
24	25Y4/1	黄灰色 粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。	
25	10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、下面に沿って淡黄色粘土・黒褐色土のブロック層(32層の再堆積土か)。	
26	10YR4/2	灰黄褐色 シルト	粘性中	しまり密、淡黄色粘土ブロック(径10mm)微量、ガッチリと固く締った土層。	
27	10YR3/2	黒褐色 シルト	粘性中	しまりやや密、26-28層に似るが、黒褐色土ブロック多く含む黒味強い。	
28	26層に似る。				
29	25Y4/2	暗灰黄色 粘土	粘性やや強	しまりやや密、25Y6/2-7/3灰黄色粘土ブロック(径50mm)大量、ほぼ粘土ブロック層。	
30	10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	粘性中	しまり密、25Y6/2-7/3灰黄色粘土ブロック(径5-20mm)多量(小径ブロック主体の層)。	
31	10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	粘性中	しまりやや密、25Y6/2-7/3粘土ブロック(径5-20mm)微量。	
32	10YR4/1	褐灰色 粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密、淡黄色粘土・黒褐色土ブロック(径5-30mm)少量、34-35層の再堆積とみられる。	
33	10YR4/1	褐灰色 粘土	粘性やや強	しまりやや密。	
34	10YR4/1 褐灰色粘土・25Y6/2-7/3灰黄-淡黄色粘土・10YR3/1 黒褐色シルトのブロック層、粘性やや強		しまりやや密。※意地層(49層)を構成する各土層のブロックからなる、崩落土か。		
35	25Y6/2-7/3	灰黄-淡黄色 粘土ブロック層(径10-50mm)、粘性やや強	しまり密。		
36	10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	粘性やや強	しまり中、全体に細砂含む。	
37	10YR4/2	灰黄褐色 粘土質シルト	粘性やや強	しまり中、上面は水平だが下面が緩打つ(板等の打設痕か、下位38層の一部も下方に引きずられている)。	
38	10YR4/1 黒灰色粘土・25Y6/2-7/3灰黄-淡黄色粘土・10YR3/1 黒褐色シルトの細かいブロック層(径5-10mm)。				
39	25Y4/1	黄灰色 粘土	粘性強	しまり中、細砂のラミナみられる。	
40	25Y4/1	黄灰色 粘土	粘性強	しまりやや密、木質薄片微量。	
41	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐-暗褐色 細砂	粘性やや弱	しまりやや密。	
42	10YR4/1-3/2	褐灰-黒褐色 シルト	粘性やや強	しまり中、炭粒(径5mm)微量。	
43	25Y4/1	黄灰色 粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。	
44	10YR4/4	褐色 泥砂	粘性弱	しまりやや強。	
45	25Y6/2 灰黄色粘土と 25Y5/1 黄灰色粘土の互層。		粘性強	しまり中。	
46	25Y5/2	暗灰黄色 粘土質シルト	粘性中	しまり密。	
47	10YR3/2	黒褐色 粘土質シルト	粘性中	しまり密。	
48	25Y6/2-7/3灰黄-淡黄色粘土・10YR3/1 黒褐色シルト・10YR4/1 褐灰色粘土のブロック層(径各20-50mm)、粘性やや強		しまり中。※意地層構成する各土層のブロックからなる、崩落土か。		
49	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト・10YR3/1 黒褐色粘土質シルト・10YR6/2-6/3 灰黄褐-にぶい黄褐色粘土のブロック層(径各50-200mm)、粘性やや強		しまり密。整地土層上部を構成。		
50	25Y6/2-6/3	灰黄-にぶい黄色 粘土	粘性中	しまり密、整地土層下部を構成。	

似の灰白色細砂の混入が顕著であり、また同層群内においても後続の流路内に先行土層からの再流入を繰り返して、複雑な様相を見せている。今次調査区付近では古代の自然堆積層が良好に残存するものの、火山灰層の堆積は見られないことから、本層群に見られる火山灰は上流側から流下したものである可能性が高い。なお77T1断面においては、火山灰の混入を根拠にA-A' : 32~35層を本層群に充てているが、後掲の層群⑧最下部もまた本層群に含むべきだったかもしれない。将来、より条件の良い地点で再検討されることを望む。

層群⑥は内岸側壁面最上部の南区整地層に直接接し、遺構内部側に向かって流れ込むように堆積する。下位土層の上面をその傾斜に沿って調和的に覆う様子から、遺構内部が本層群の下面付近まで埋没した段階に内岸側から流入したものとみられる。暗灰黄色の粘土質土を主体土としており、これに南区整地層に用いられた地山黄褐色土のブロックが少量混入する。黄褐色粘土のブロックは層界に多いが、層界と平行する方向に潰れて延びたブロックが層中全体にも含まれる。混入ブロックが潰れる現象は本層群が人為によるものである可能性も示唆しているが、主体土の粘土質土は自然流人の様相を呈することから、後掲の上位人為層、層群⑦の土圧による間接的な沈縮と見るのが妥当であろう。なお、本遺構内の堆積層のうち、南区整地層と直接的な切合い関係にあるのは本層群のみであり、南区整地層は少なくとも本層群下面段階と同時かより古いことは指摘できるが、本遺構の初期段階との先後関係については明らかでない。また、上述した内岸側上端の「水口」状張出し部（83-107グリッド）は、本層群に直に覆われていることから、本層群の直前に位置づけられる。

層群⑦は地山黄褐色土ブロックを主体とする人為的な埋戻し土である。当初、内岸に沿って連続する人為層と認識していたが、77T1-77T2間の土層断面において内岸と直交方向の立ち上がりを確認されたことから、個別に分離させ77SX1・77SX2とした。この部分の精査については別に述べる。

層群⑧は本遺構が「堰」状の形態を維持し機能した最終段階の埋土に相当する。流水に伴う堆積土と周囲からの流入土が交互に堆積する様子がみられる。下位の層群が粘土質土を主体とするのに対し、本層群は砂質が強く、また炭化物の混入が急激に増加する特徴を持つ。特に炭化物については、下位層群では径の小さい「粒」状を早し量もわずかだが、本層群には10~20mmほどの外形の角張った「小片」が多く含まれる。完形に近いかわらけや陶器の大形破片等、出土遺物が急増するのも本層群からである。これらの性状は遺跡内部側に並走する21SD1の埋土に極めて良く似ており、両者の併行段階を指し示す土層といえる。なお先述の通り、77T1における本層群の下部については層群⑤との識別に苦慮した。77T1 : 8層または12層の下面が本層群の下限となりうる可能性を付記しておきたい。

本遺構の断面からは以上のような変遷を読みとることができるが、21SD1に比して極めて複雑な様相を呈する原因には、上流側からの断続的な流水が上げられる。少なくとも今次調査地点では、一定量の滞水を示す痕跡は見当たらず、出水時に遺構内に生じた小規模な流路がその都度側方移動し、その果積が複雑な堆積状況を形作ったと考えられる。また、下流側の末端にはこの流水を排出する開口部を想定する必要があり、河川増水時には逆に下方からの浸水が度々あったことが想像される。今次調査区一帯の遺跡南端部では、出水時には浸水・崩壊等の被害を受けやすかったと考えられ、本遺構についても、人為による保守（流路整備や弊面補修等）が適宜為されたであろう。このこともまた、堆積層の複雑化の一因と考えられる。

〔重複・先後関係〕 既往調査の成果から、当初構築時期は21SD1より古い。直接的な切合い関係から、少なくとも層群⑥下面段階以上は南区整地層より新しい。また層群⑥上面段階に後掲77SX1・77SX2に切られている。層群⑧堆積段階は土層性状の対比から21SD1に併行すると推測される。

〔出土遺物〕 図24・25

② 整地層

南区整地層(図4)

〔位置・検出状況・精査方法〕 83-107グリッド付近を中心に、21SD2の内岸側上端に沿って東南東—西北西方向に広がりを持つ、地山に類似した黄褐色土範囲として検出した。検出面は後世の宅地化に伴う削平面である。精査方法はトレンチ調査とし、21SD2-77T1及び同77T2を延長して、それぞれ幅約1.0m・0.5mの範囲を整地土層の下面以下まで掘り下げた。土層断面は先掲21SD2-77T1(A-A')・同77T2(B-B')に併せて示している。

〔規模・形状〕 分布の長軸は10.5mで南区の東西両壁に及び、これと直交する幅は5.0m前後である。層厚は斜面下方の21SD2上端に接する部分が最も厚く35cmを測り、21SD1側に向かって次第に厚さを減じている。21SD1側では残存範囲の縁辺が旧地形の等高線に平行している。

〔埋土・堆積状況〕 21SD2-77T1断面(A-A')に見られるとおり、本整地層の構築面は自然堆積層である黒色土(A-A':56層)上面である。この層は本遺構構築の直前まで自然傾斜を保ち、地表面を形成していた表土層と考えられる。この下位には同じく自然堆積による褐色土層、さらに下には黒色土層が続き、漸移層を経て地山黄褐色土層へと連続する層序を成している。77T1では褐色土層の層中に掘り込み面を持つ堅穴状遺構(A-A':57・58層)が検出され、出土遺物から平安時代前期(10世紀前半)に位置づけられることが分かっている。また上述の上位黒色土層からは、須恵器・土師器小片・縄文時代石器等、平安時代前期以前の遺物はごく僅かに出土しているが、かわらけ等の12世紀遺物は皆無であった。トレンチ調査による限られた範囲での所見ではあるが、層的には本整地層が当該地点の本格利用が開始された当初段階に位置づけられる可能性を示唆している。本整地層は二層に分層でき、下部は黒色土等が混入しない純粋な地山起源黄色粘土(A-A':55層・B-B':50層)、上部は地山上及び黒色土上のブロック層(A-A':54層・B-B':49層)となっている。両者の層界は本整地層下面の自然傾斜に平行し、21SD2側へと緩く傾斜している。なお本整地層の上面は宅地化による水平な削平面であり、自然傾斜の高位側に当たる21SD1との間の空白部においては、本来分布した整地層がこの削平面で失われた可能性が高い。削平面(残存面)より上位の構造は不明であり、同面においてピット等の付属遺構も確認されていない。

〔重複・先後関係〕 層的的事実から平安時代前期堅穴状遺構より新しい。また、直接的な切合い関係から少なくとも21SD2層群⑥下面段階より古い。

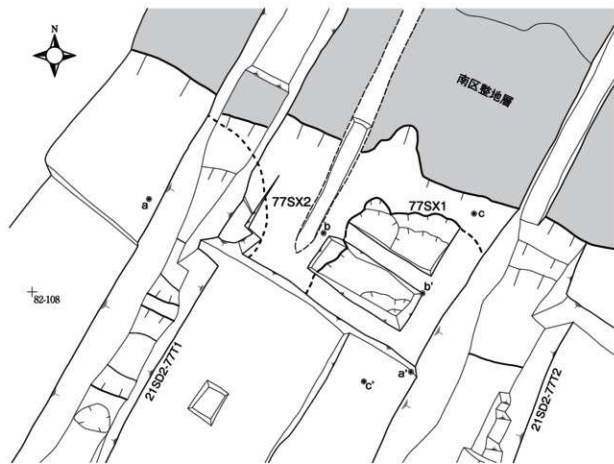
③ その他

77SX1(図4・7)

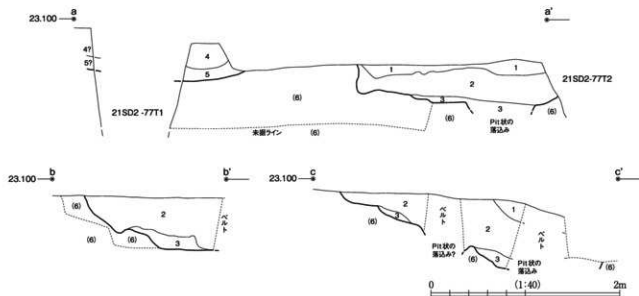
〔位置・検出状況・精査方法〕 83-107グリッドの南西部、先掲21SD2内岸側上端の内側に位置する。21SD2埋土上部(層群⑥上面)において、地山黄褐色土ブロック主体の不整形範囲として認識された。21SD2-77T2断面及び周囲の上層断面の観察から、21SD2埋土を切る立ち上がりをもった掘り込みであることを確認し、個別遺構として分離した。21SD2の層群⑦に相当するものである。精査方法は、想定されるプラン内に直交するベルトを設定し、その間を底面まで完掘した。

〔規模・形状〕 21SD2の精査によってトレンチ(77T2)重複部と南半部を失っているため、本来の形状・規模は不明となっている。残存部の平面形は周縁が波打つ扇形を呈し、21SD2と平行方向で210cm、直交方向で240cmを測る。壁面は断面a-a'と同c-c'の交差部に向かって求心状に傾斜しており、内湾・直立する部分も見られる。検出面下50~60cmで一旦底面に到達するが、断面a-a'・c-c'交差部付近はピット状にさらに一段深くなる。最深部はベルトの下位に及び完掘できなかった。

〔埋土・堆積状況〕 底面直上及びピット状の門部には地山ブロックを多く含む黒褐色土層(3層)



77SX1・77SX2



【77SX1・SX2共通】(a-a'・b-b'・c-c')

- 1 10YR6/1-4/2 褐色-灰黄褐色 シルト
- 2 2.5Y6/3 灰黄褐色 粘土ブロック層(ブロック径 10-20mmが主体)
- 3 10YR5/2 黒褐色 粘土質シルト
- 4 10YR4/1-4/2 シルト 1層によく認め
- 6 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中
- (6) 2.5Y4/2-3/2 暗灰黄-黒褐色 粘土質シルト

粘性やや強 しまり中, 泥粒(径 5mm) 層微量。
 粘性やや強 しまりやや密, ※21SD2-77T2の4層に相当。
 粘性やや強 しまりやや密, 10YR6/3に灰黄褐色粘土ブロック(径 20-40mm) 多量。
 しまりやや密, 2.5Y6/3に灰黄褐色粘土及び砂質シルトブロック(径 20-30mm) 多量。
 ブロックは上方からの加圧により水平方向に潰れている。21SD2-77T1の26層に相当。
 地山灰黄褐色土ブロックを微量含む, 21SD2-77T1の29層・21SD2-77T2の7層に相当。
 ※21SD2 内岸掘削土層を構成する土層。

図7 77SX1・77SX2

が堆積している。雨水等による流入の特徴は見られないので、掘削直後にこぼれ落ちたものと考えられる。この上位は地山起源の黄色粘土ブロック層（2層）により大半が埋められている。この堆積状況からは、本遺構が開口させておくことを目的としておらず、掘削後、間を置かず埋め戻されたことがわかる。底面のピット状門部の存在から、何らかの材を埋設した可能性も考えられるが、ベルトとの重複部でもあり柱材痕跡等の有無は確認できなかった。なお、2・3層には南区整地層と同じ土壌が用いられているが、同整地層に比して混入ブロックの径が細かいという特徴が認められる。本遺構の強め戻しに南区整地層の構成土が再利用された可能性を指摘しておきたい。また隣接の77SX2とともに21SD2内岸沿いに並列するあり方は、同様の掘り込みが付近に断続的に分布している可能性を示唆している。既往調査地点における類似土層との対比・検討が課題である。埋土最上部の1層は21SD2の層群③に類似した性状を呈する。炭化物の混入量が著しく少ないという相違点があるが、21SD2層群③堆積段階の本遺構の有り様を示す可能性がある。

〔重複・先後関係〕 21SD2層群⑥を切る。南区整地層構築段階及び21SD2層群⑥より新しく、21SD2層群③堆積段階より古い。

77SX2（図4・7）

〔位置・検出状況・精査方法〕 82-107グリッドの南部、先掲21SD2内岸側上端の内側に位置する。21SD2-77T1断面及び周囲の土層断面の観察により、先掲77SX1に類似する掘り込みであることを確認し、個別遺構として分離した。21SD2の層群⑦に相当するものである。なお本遺構については断面による範囲の確認にとどめており、その他の部分は未掘のまま保存した。

〔規模・形状〕 21SD2トレンチ（77T1）断面とこれに直交する断面「a-a'」において確認したものであり本来形状の詳細は不明である。平面図には土層断面から推定される範囲を破線で示した。当該埋土の広がりを確認した範囲は、21SD2と平行方向で170cm、直交方向で220cmであるが、本来は南・西に延びるものであり、この数値は最小値である。検出面からの残存深度は40cm前後で、底面は極強く内湾している。21SD2トレンチの断面には底面から連続して緩やかに立ち上がる壁面が観察される（77T1：26～27層下面）。

〔埋土・堆積状況〕 埋土は77SX1によく類似し、地山起源の黄色粘土ブロック層（a-a'：5層）によって下半部が埋められている。77SX1と同様、底面上に自然流入土層の堆積が見られないことから、開口させておくことを目的とせず、掘削後、間を置かず埋め戻されたものとみられる。

〔重複・先後関係〕 21SD2層群⑥を切る。南区整地層構築段階及び21SD2層群⑥より新しく、21SD2層群③堆積段階より古い。

(2) 北 区（図8）

堀内部地区の南端部西縁、21SD1の内岸側に面する地点に設定した調査区である。グリッドライン東西80～88・南北98～105の範囲に位置し、84-103グリッド付近で南区に接する。面積は約470㎡である。当区は全体が宅地造成等による削平を受けており、また建物基礎・水道等の掘削が全面に及んでいた。本来の自然地形は掘削が溝側の南南西に向かって緩く傾斜する。遺構確認面の標高は25.0～24.3m前後である。

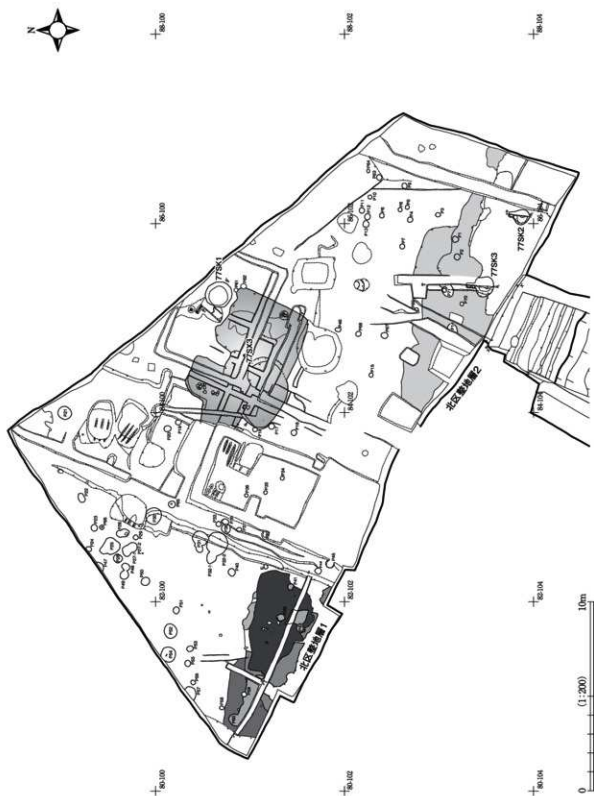


图8 北区遺構平面図

① 整地層

北区整地層1 (図9)

〔位置・検出状況・精査方法〕 81-101グリッド付近を中心に、北区西部の南側縁辺に沿って東南東—西西北西方向に広がりを持つ、地山に類似した黄褐色土ブロックの分布範囲として検出した。検出面は後世の宅地化に伴う削平面である。精査方法は溝状の攪乱を利用したトレンチ調査とし、土層断面 a-a'・b-b'・c-c' を設定、観察・記録を行った。

〔規模・形状〕 分布範囲は9.0m×3.7mで、東南東—西西北西に長軸を持つ。残存範囲の北側縁辺は旧地形の等高線に概ね平行している。なお、本整地層は複数の人為層からなり、またさらに下位にはこれらに先行する掘り込みが確認されたことから、断面の様相については以下に併せて記述する。

〔埋土・堆積状況〕 本整地層の構築面は自然堆積層である黒褐色土層(断面(6)層)上面である。この層は本遺構構築の直前まで自然傾斜を保ち、地表面を形成していた表土層とみられる。その下位は漸移層を経て地山黄褐色土層へと連続する層序を成している。トレンチ内については地山黄褐色土層上面まで掘り下げることで、整地土分布範囲を横断する断面a-a'・b-b'とこれに直交するc-c'により、検出面以下の堆積状況を観察した。この結果、検出面の下位には堅穴あるいは土坑状の先行遺構が複数存在し、これが人為層と流入層によって埋没していることが判明した。トレンチ調査であるため、これらの先行遺構の詳細な形態は不明だが、断面に観察される各土層と検出面における土層の分布を対比すれば、本整地層の分布範囲は先行遺構群のそれに概ね重なるものと推測される。断面b-b'では、自然堆積の黒褐色土層を掘り込み面とし、概ね地山黄褐色土面を底面とする東西長480cmの堅穴状の掘り込みを確認した。両端にほぼ直立する壁の立ち上がりが見られ、底面は西半部で平坦に整い、東半部では段深くなって未掘部へと連続している。堆積状況を見ると、西半部底面が半径の地山黄褐色土ブロック層(5層)に覆われ、その後の門地に黒褐色土(4層)が自然流入し、さらにその上位が薄い人為層(3層)に覆われている。埋土の上部を広く埋めているのは、多量の木炭細片を含む2層である。かわらけ及び陶器片等の遺物も本層に集中する。この層は北区全体の検出面上に広く点在しており、柱状部分に本層類似土を持つ柱穴状ピットも多く検出されていることから、当区周辺において建物等の施設の廃絶(焼失)が起こった際に生成した土層である可能性が高い。この炭化物質の上位には再び地山黄色粘土による人為層の堆積が見られる。この新期の整地層は後掲の北区整地層2においても観察される。

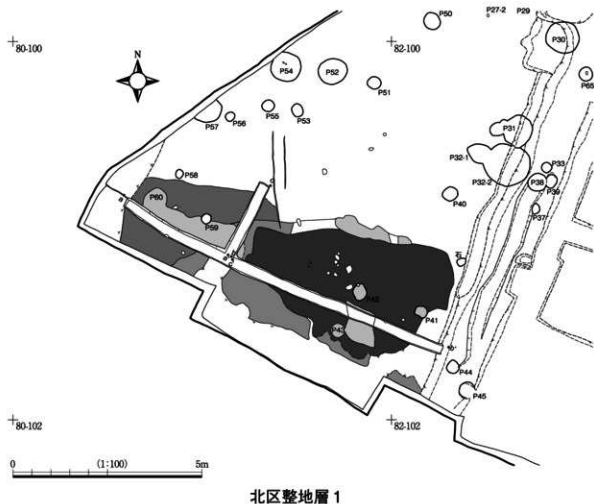
〔重複・先後関係〕 先行遺構とみられる堅穴状・土坑状掘り込み→古期人為層(整地層)→遺物・炭化物集中層→新期整地層の順となる重複関係を層位的に確認した。

北区整地層2 (図10)

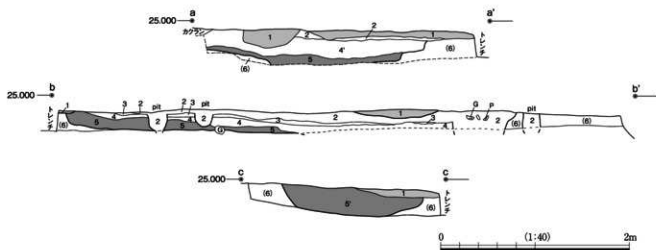
〔位置・検出状況・精査方法〕 85-103グリッド付近を中心に、北区東部の南側縁辺に沿って東南東—西西北西方向に広がりを持つ、地山に類似した黄褐色土ブロックの分布範囲として検出した。検出面は後世の宅地化に伴う削平面である。南区との接点部に設定した基本土層観察断面(X-X')及び後掲77SK3の断面を延長した小トレンチにより、堆積状況等の観察を行った。

〔規模・形状〕 分布範囲は14.5m×5.5mで、東南東—西西北西に長軸を持つ。残存範囲の北側縁辺は旧地形の等高線に概ね平行し、21SD1に面する南側は宅道に大きく切られている。また、分布範囲の西側及び北区南東隅に当たる部分も攪乱に切られている。本来は北区整地層1に向かって連続していた可能性が高い。層厚は斜面下方ほど厚く最大20cm前後を測り、斜面上方の北側に向かって次第に厚さを減じている。

〔埋土・堆積状況〕 本整地層の構築面は自然堆積層である黒褐色土層(X-X'断面5層)上面であ



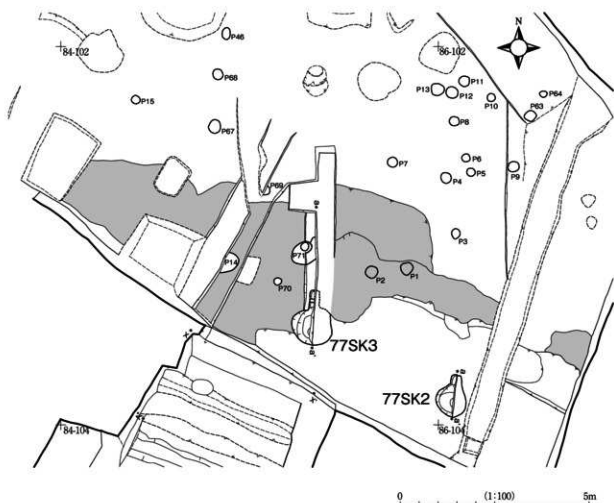
北区整地層 1



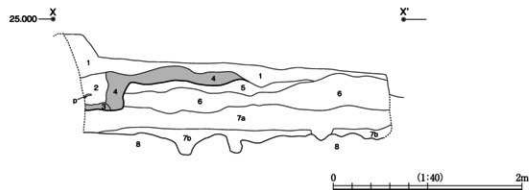
【北区整地層 1】(a-a'・b-b'・c-c')

- 1 25Y6/3a/4 におい・黄色 粘土質シルトブロック層。粘性やや強。しまりやや密。砂質帯びるブロック少量含む。人為層、準前期整地土か。
- 2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中。しまりやや疎。角張った木炭片(径5-20mm)大量。ほぼ木炭層。かわらけ・陶器片含む。
- 3 25Y6/3 におい・黄色 粘土質シルトブロック層。粘性やや強。しまり密。人為層(整地層)。
- 4 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強。しまりやや密。炭粒(径2-5mm)微量量。自然堆積(流入)層。
- 4' b-b'の4層に似る。中部にb-b3層類似の薄層をレンズ状に挟む。
- 5 10YR3/2a/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中。しまりやや密。25Y6/3におい・黄色粘土の角張った大形ブロック(径20-50mm)やや多量に含む。人為層。
- 5' b-b'の5層に相当するが、25Y6/3におい・黄色粘土ブロック混入少ない。
- (6) 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中。しまり中。基本土層の黒～褐色土。

図9 北区整地層 1



北区整地層2



【北区整地層2付近 土層堆積状況】(X-X')

- 1 10YR4/2-3 灰黄褐色-明黄褐色 シルト
 2 10YR4/2-3 灰黄褐色-暗褐色 シルト
 ※SD1内岸周辺(北区)に広く分布する灰化物目立つ土層。
 3 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト
 4 2.5Y6/3-4 に近い黄色 粘土質シルト
 5 10YR2/2-3 黒褐色 粘土質シルト
 6 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト
 7a 10YR3/2-2 黒褐色 シルト
 7b 10YR3/3-4 暗褐色 シルト
 8 10YR6/4-6 に近い黄褐色-明黄褐色 シルト

- 粘性中 しじりややぬ。現代表土層。
 粘性中 しじりややぬ。炭灰(径5-10mm)微量が目立つ。土器細片および陶器片がわらわらけ含む。新期遺構(柱穴等)埋土となる。
 粘性中 しじりややぬ。2.5Y6/3-4に近い黄色粘土ブロック(径5-10mm)微量。
 粘性やや強 しじり密。※整地土及びP6a層方粒土となる土層。
 粘性やや強 しじりややぬ。※整地直前の黒色表土層。
 粘性やや強 しじりややぬ。※平安時代前期遺物を含む褐色土層。
 粘性中 しじりややぬ。褐色-白色粒子(径2-5mm)微量。※縄文時代遺物含む褐色土。
 粘性やや弱 しじり密。※7a層から8層への遷移層。
 粘性やや弱 しじり密。※地山土層。

図10 北区整地層2

る。北区整地層1付近と同様、この層は本遺構構築の直前まで自然傾斜を保ち、地表面を形成していた表土層とみられる。その下位には平安時代前期相当の灰黄褐色土（同6層）、縄文時代相当の黒褐色土（同7a層）が続き、漸移層（同7b層）を経て地山黄褐色土層（同8層）へと連続する層序を成している。77SK3断面に見られる本整地層は、他の混入土を含まない黄色土（a-a'：8層）からなる。性状は南区整地層の下部に酷似しており、層序的にもこれに対比できるが、両者の間は2ISD1に分断されているため、直接的な関係性については不明とせざるを得ない。断面X-X'では本整地層土（4層）がピット状の掘り込み内部に連続して埋められている部分も確認できることから（図左端）、整地層の構築段階において材の埋設を伴う何らかの構造物が併せて構築された可能性が指摘できる。なお、77SK3断面には、本整地層の上位にやや汚れた地山土ブロック層（a-a'：7層）や、土器片・木炭細片を含む黒色土層（同6層）の堆積が観察される。検出面（残存面）の上位には、北区整地層1と同様、人為・自然層が堆積していたものと考えられる。

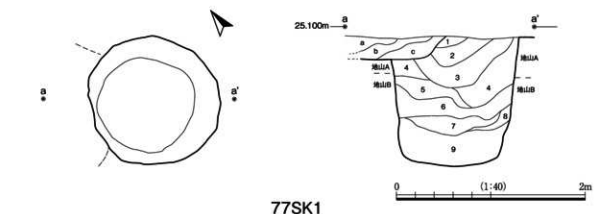
〔重複・先後関係〕 平安時代前期相当の黒褐色～褐色土層を覆い、77SK3に切られている。

② 土 坑

77SK1（図11）

〔位置・検出状況・精査方法〕 85-100グリッドに位置する。剖平面である地山黄褐色土層上面において、黒褐～暗褐色土の円形範囲として検出した。埋土7・8層下面までは半裁・断面記録ののち完掘し、最下部9層は半裁にとどめている。

〔規模・形状〕 開口部は径約140cm、底面径は約100cmの円形を呈する。底面までの残存深度は138cmである。壁は開口部付近まではほぼ直立して立ち上がり、底面は平坦に整っている。



【77SK1】(a-a')

a	10YR5/6	黄褐色	砂質シルトブロック層。本遺構付近にみられる地山構成土のブロック、粘性弱	しまり密。	
b	10YR2/3	暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。同上地山ブロック（径10mm）微量。炭粒（径2-5mm）微量。
c	10YR4/2-4	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。同上地山ブロック（径10mm）微量。
※a-c：断面か。					
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。土器細片微量。炭粒（径2-5mm）微量。
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR7/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック（地山Bブロック、径20-100mm）多量。土器細片・炭粒微量。
3	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR4/3-4/4にぶい黄褐～褐色シルトブロック（地山Aブロック、径50-100mm）多量。土器細片・炭粒微量。
4	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR7/3-6/6にぶい黄褐～明黄褐色粘土ブロック（径10-20mm）微量。土器細片・炭粒微量。
5	10YR7/3-6/4	にぶい黄褐色	粘土ブロック層（地山B主体）	粘性やや強	しまりやや密。
6	4層に同じ。				
7	5層に同じ。				
8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒微量。
9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	自然堆積層。水分含む。

図11 77SK1

〔埋土・堆積状況〕 底面を約40cmの厚さで覆う9層は、本土坑が開通していた段階に堆積したものとみられる。水分を多く含む粘性の強い泥状の堆積層であり、井戸跡の下部埋土に良く似る。本層の上面からは完形の手づくねかわらけや棒状材の断片等が出土した。水と共に徐々に堆積が進み、概ね水平に近い上面を形成していたと考えられるが、上位層の土圧により層上面の中央がやや凹んだ状態となっていた。8層以上は壁面崩落土または人為投入土とみられる地山土ブロック主体の層群である。ただし、残存壁面に崩落痕跡がほとんど見られないことから、これらのほとんどが意図的な埋め戻し土とみられる。最上部は宅地造成により削平を受け、北西部上端の一部は掘孔(a-a' : a-c層)に壊されていた。形態及び埋土の様相から、本土坑は井戸跡である可能性が高い。

〔重複・先後関係〕 直接切り合う他の遺構はない。

〔出土遺物〕 図26

77SK2 (図12)

〔位置・検出状況・精査方法〕 86-103グリッド南西隅に位置する。掘削層下面に切られた黒褐色土面において、黄色土の略円形範囲として検出した。北側上端に舌状の張出し部が認められたことから、これを通る断面を設定して半裁し、他は未掘のまま保存した。

〔規模・形状〕 開口部径90×80cm、底面径60cm前後の円筒形を呈する。検出面からの残存深度は85cmである。北側上端に長さ約35cm・幅約30cmで、底面がスロープ状を呈する舌状の張出し部を伴う。平坦に整った底面の南部には、柱痕跡とみられる径25cmほどの浅い円形凹部が認められる。壁面は僅かに内湾しつつ概ね直立して立ち上がる。張出し部と対向する南側壁面の中部には、外側に12cmほど突出する袋状の抉れ部が認められる。

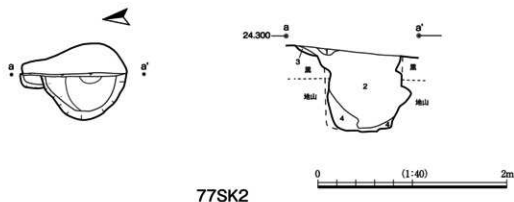
〔埋土・堆積状況〕 近接して検出された類似遺構、77SK3(後掲)との対比から、本遺構は内部に柱状材を立ち上げて根元を埋設し、その後何らかの理由で材の抜き取りが行われたものと考えられる。底面から北側壁下部にかけて堆積する4層は、柱材埋設時の埋戻し土(掘方埋土下部)の残存部とみられる。南側壁面中部の袋状の抉れ部は、柱材を引き倒した際に、北側壁面上端を支点に回転した柱底部が、壁面を抉った痕跡とみられる。埋土の大半を占める2層は、地山黄褐色土及びその上位の黒褐色土のブロックからなる。柱材埋設時の掘方埋土がその後の柱材抜き取り時に掘り返され、再び埋め戻されたものとみられる。明瞭な層界を成さないため断面図には示していないが、概ね南壁の抉れ部と北壁上端の張出し部をつなぐラインに沿って、黒色土の混入が多く黄褐色土ブロックの径が細くなる部分が認められる。なお、以上の解釈の根拠については、後掲77SK3の所見を参照されたい。

〔重複・先後関係〕 北区整地層2と同時にまたはその後掘方掘削と柱状材の埋設が為され、その後、同整地層を切って内部を再掘、柱材の引き倒し・抜き取りが行われたと考えられる。

77SK3 (図12)

〔位置・検出状況〕 85-103グリッドに位置する。北区整地層2残存範囲の南縁において、黄色土の略円形範囲として検出した。確認面は掘削層下面の黒褐色土面である。旧地形の傾斜方向に沿わせた断面を設定して半裁し、他は未掘のまま保存した。

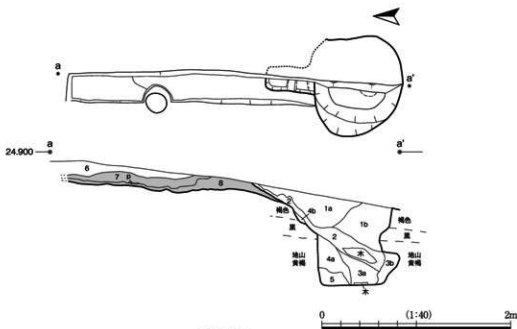
〔規模・形状〕 開口部径110cm前後、底面径65cm前後の円筒形を呈する。検出面からの残存深度は110cmである。北側上端に長さ約60cm・幅約26cmで、底面がスロープ状を呈する舌状の張出し部を伴う。平坦に整った底面の南部には、柱痕跡とみられる径28cmほどの浅い円形凹部が認められる。壁面は概ね直立して立ち上がり、上部はやや外傾して開口部付近が広がっている。張り出し部と対向する南側壁面の下部には、外側に20cmほど突出する袋状の抉れ部が認められる。



77SK2

[77SK2] (a-a')

- 1 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性やや強 しまり中。
 2 10YR2/1 黒色粘土質シルト・25Y6/3暗オリーブ褐色粘土質シルト・25Y6/3・6/4 におい黄色シルトの混ブロック層(各径10-80mm)、粘性中 しまりやや密。
 地山ブロック(25Y6/3・6/4 におい黄色)は上半部に多い(上半部多量・下半部やや多量)。本層は上部(壁面西部と張り出しをつなぐラインより上)では地山ブロックの比率が卓越し、下部は黒色土のそれとほぼ同比。
 3 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり密。25Y6/3 におい黄色シルト(地山土)ブロック(径35mm)無微量。
 4 10YR5/3・5/4 におい黄褐色 砂 粘性中 しまり密。25Y6/3 におい黄色粘土質シルトブロック(径210mm)少量。南方残土残存部か。



77SK3

[77SK3] (a-a')

- 1a 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや密。10YR6/3・5/3 におい黄褐色-におい黄褐色粘土質シルトブロック(径20-50mm)少量。
 25Y6/3・6/4 におい黄色粘土ブロックやや多量。本層より鉄製鋤先出土。
 1b 25Y6/3・6/4 におい黄色粘土ブロック(径10-100mm、多量)・10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルトブロック(径20mm、微量)
 ・10YR3/1・2/2 黒褐色シルトブロック(径10-30mm、微量)の混ブロック層。
 2 10YR4/1・3/1 褐灰-黒褐色 粘土 粘性強 しまり中。材の一部残存する。層下面に沿って厚さ20-30mmの黒色部(10YR2/1 黒色)有。
 3a 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中。10YR6/1・6/2 褐灰-灰黄褐色粘土ブロック(径20-50mm)やや多量。
 3b 10YR6/1・6/2 褐灰-灰黄褐色粘土ブロック層。粘性やや強 しまり中。壁との境界面に10YR2/1 黒色シルトの小径ブロック少量みられる。
 4a 25Y6/3・6/4 におい黄色粘土ブロック層。粘性やや強 しまり密。8層によく似る。
 4b 6a層と同じ。
 5 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや密。25Y6/3・6/4 におい黄色粘土ブロック(径50-100mm)やや多量。
 6 10YR4/2・3/2 灰黄褐色-黒褐色 シルト 粘性中 しまり中。灰粒(径5-10mm)微量だが目立つ。土器細片微量。本層は付近に分布する前期柱穴の黒土と重なっている。
 7 10YR4/2・3/2 灰黄褐色-黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや密。25Y6/3・6/4 におい黄色粘土ブロック(径10-30mm)多量。
 8 25Y6/3・6/4 におい黄色 粘土 粘性強 しまり密。遺構周辺の整地土層。

図12 77SK2・77SK3

〔埋土・堆積状況〕 先掲の類似遺構77SK2と同様、本遺構は柱状材を直立させてその基部を埋設した後、埋土上部を再掘し、材を北側に引き倒して抜き取ったものと考えられる。断面の4a層及び5層は地山黄褐色土を主体とするブロック層で、材埋設時の埋め戻し土（掘方埋土）の残存部とみられる。遺構底面の浅い凹部は埋設材の下面が接した痕跡とみられ、この凹部からは材の底面から剥落したとみられる炭化繊維が、垂直方向に立った状態で底面に密着して出土した。南側壁面下部の袋状の抉れ部は、北側上端張り出し部と北側壁面が接する遺構の肩を文点として材の下部が回転した際に、材の下端に抉られて生じたものと考えられる。3a・3b層はこれによって生じた凹部に周囲の掘方埋土が再堆積したものであろう。2層は黒褐色の粘土で、転倒した材下部の痕跡とみられる。本層には外面を造す材の一部が残存していた。また、材外面が接する本層下面に沿って黒色の薄層が観察されている。炭化した材底面の一部が遺構底面凹部から出土した事実を考え合わせれば、柱材基部に対し表面を炭化させる処理が行われていた可能性も考慮に入れておきたい。2層は1b層の下位付近では粘土質が強いが、開口部に近い1a層下位ではシルト質を呈する。粘土質の部分は木質が変化したものと推測されることから、抜き取りの際に材の下部が破断したか、あるいは意図的に切断され、内部に取り残されたものと考えられる。張り出し部の底面に貼り付いた黄褐色土（4a層）は、材の外面に付着した掘方埋土の一部が抜き取りの際に引き上げられたものであろう。材抜き取り後の遺構上部は、地山土ブロック層（1a・1b層）で埋められている。周囲に分布する北区整地層2の構成土に良く似た粘土を主体としている。なお、張り出し部を覆う1a層からは鉄製鋤先（図33-770）が出土している。一連の作業に用いられた工具であろうか。

〔重複・先後関係〕 北区整地層2と同時にまたはその後掘方掘削と柱状材の埋設が為され、その後、同整地層を切って内部を再掘、柱材の引き倒し・抜き取りが行われたと考えられる。

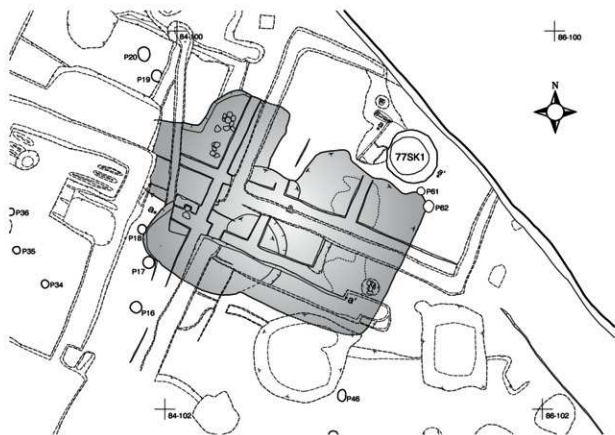
③ その他

77SX3（図13）

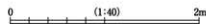
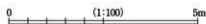
〔位置・検出状況・精査方法〕 84-100・84-101グリッド付近に位置する。地山黄褐色土及びその上位の黒褐色土面において、かわらけ・陶器等の遺物片と炭化物を混入する黒褐色土の不整形範囲として認識したものである。検出面は後世の宅地造成に伴う削平面である。溝状攪乱の弊面を代用して断面観察を行い、凡そのプランを把握した後、任意のベルトを設定して一部の埋土を底面まで掘り下げた。ベルト部および一部の埋土は未掘のまま保存した。

〔規模・形状〕 検出面を成す黒褐色土層と本遺構の埋土は酷似しており、両者を識別して平面プランを確定させることは極めて困難だった。平面図には断面観察と遺物・炭化物の分布状況から推定されるプランを示した。推定範囲の平面規模は7.5×6.5m、断面に観察される残存深度は最大25cmである。一部の精査にとどまっていたが、南北軸が22°前後東偏する、辺2.0～3.5m程の方形基調の堅穴状遺構または土坑が複数重複しているものと推測される。底面は地山黄褐色土の小ブロックが緻密な平坦面を形成している。壁の立ち上がりは全体に不明瞭で、底面からならだかに外縁に連続する部分が多いが、主に西半部では短く立ち上がる壁が部分的に残存している。

〔埋土・堆積状況〕 埋土の主体は炭化物の混入が目立つ黒褐色土（2a層）で、周囲に分布する地山上位の自然堆積層（構築面図表土）が流入したのと考えられる。北西部の一角では底面直上に径15cm前後の円礫の集積が見られ、また北東部の底面には焼土ブロックと炭化物が濃密に分布する箇所が確認された。焼土ブロック集積部の下面には弱い赤変が観察されるものの、周辺の底面から連続する平坦な面であり、継続使用された炉跡とは考えづらい。なお、このような方形基調の遺構の集中・重複は、埋土の様相に差異はあるものの、北区整地層1下位の先行遺構群に類似している。本遺構断面の



77SX3



【77SX3】(a-a')

- | | | | | | |
|----|------------|-------|-------|-------|---|
| 1 | 25Y6/3.6/4 | にぶい黄色 | 砂質シルト | 粘性やや弱 | しまり中、地山土を用い凹部を埋めたもの。 |
| 2a | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | 粘性中 | しまりやや密、全体に角張った炭小片(径5-30mm)少量。
下部はと多く図左端では下面に沿って濃密に分布、かわらけ・陶器の大形破片含む。 |
| 2b | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | 粘性中 | しまりやや密、炭化物含まない。 |

図13 77SX3

1層は、埋土上部に生じた凹部を埋める地山起源の黄色土であり、北区整地層1及び同2における整地土に対比される可能性を指摘しておきたい。

〔重複・先後関係〕 複数の竪穴状遺構または方形土坑が重複しているとみられるが、相互の先後関係は明らかでない。本遺構（群）はいずれかの段階の整地土層により最上部を埋められたとみられる。（村上）

柱穴等（図8）

このほか北区では規模の小さい柱穴を多数検出している。これらは埋土が12世紀代の土坑類とは異なり、多くは近世以降のものと推察される。また、攪乱等による削平も影響したためか、明確な掘立柱柱物等を構成できていない。ここでは規模と位置のみを表で示す（表5）。

（櫻井）

表5 柱穴一覧表

遺構	グリッド	規模径(cm)	遺構	グリッド	規模径(cm)
P 1	86-103	34× 32	P36	83-101	20×19
P 2	86-103	32× 32	P37	83-101	27×20
P 3	86-103	26× 21	P38	83-101	48×46
P 4	86-103	28× 26	P39	83-101	36×28
P 5	86-103	22× 22	P40	82-101	41×37
P 6	86-103	22× 20	P41	82-101	33×30
P 7	86-103	26× 26	P42	82-101	45×36
P 8	86-102	26× 23	P43	82-101	38×36
P 9	87-103	30× 26	P44	82-102	34×33
P10	86-102	22× 21	P45	82-102	42×40
P11	86-102	28× 28	P46	85-102	31×20
P12	86-102	31× 29	P47	82- 99	62×20
P13	86-102	34× 30	P48	82- 99	44×40
P14	85-103	58× 36	P49	82- 99	48×44
P15	85-102	23× 22	P50	82-100	46×40
P16	84-101	30× 30	P51	82-100	36×32
P17	84-101	33× 30	P52	82-100	76×66
P18	84-101	26× 22	P53	82-100	32×28
P19	84-100	30× 24	P54	81-100	80×78
P20	84-100	37× 30	P55	81-100	34×30
P21	84- 99	72× 70	P56	81-100	24×24
P22	83- 99	50× 31	P57	81-100	76×42
P23	83- 99	36× 32	P58	81-100	23×20
P24	83- 99	30× 25	P59	81-101	26×25
P25	83- 99	114× 89	P60	81-101	78×58
P26	83- 99	68× 39	P61	85-101	20×20
P27-1	83-100	60× 48	P62	85-101	32×28
P27-2	83-100	52× 50	P63	87-102	32×28
P28	83- 99	46× 46	P64	87-102	20×15
P29	83-100	28× 28	P65	83-100	36×36
P30	83-100	88× 82	P66	83- 99	23×23
P31	83-100	113× 80	P67	85-102	36×30
P32-1	83-100	58× 54	P68	85-102	27×26
P32-2	83-100	121×114	P69	85-103	26×12
P33	83-100	28× 27	P70	85-103	22×20
P34	83-101	21× 20	P71	85-103	64×62
P35	83-101	20× 20			

3 出土遺物

出土遺物は総重量で270,708.75gである。遺物は総重量のうち、かわらけが242,330.7gと最も多く、次いで陶磁器類が22,274.4gと多い。陶磁器類は国産陶器が21,120.8gで、輸入陶磁器は1,402.3g出土している。この他に瓦片や木製品などが出土している。瓦が339.2g、壁土が732.6g、縄文土器が2,826.5g、縄文を主とする石器が525.8g出土している。このほか時期不明の金属品類などがある。

今回の調査区内では、南区とした堀跡が確認された範囲では近世以降の盛土層を除去した直下で遺構検出面にあたる土層が確認される範囲が多く、遺構検出面において出土した遺物も多くは遺構の平面プラン内からの出土である。北区では、表土を除去した直下に遺構検出面にあたる土層が確認された範囲が多いが、一部に包含層等の出土資料もある。包含層出土資料は整地層の直上の土層からの出土だが、この土層が柳之御所遺跡が機能した12世紀代に近い堆積かは判断が難しい。明確な近世以降の

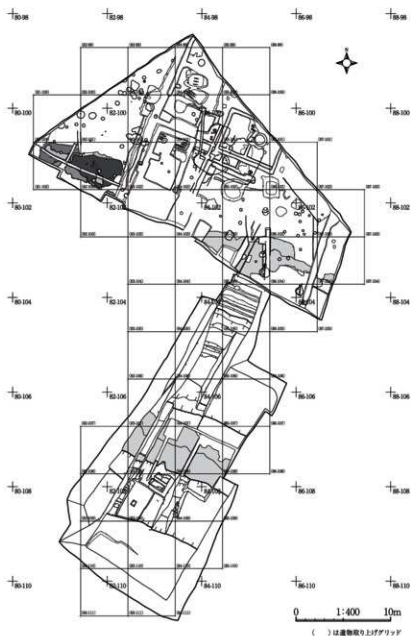


図14 遺物取り上げグリッド配置図

遺物を含む土層とは異なる可能性もあるが、取り上げ時の分層は困難である。検出面や直上の遺物も近世以降の時期に近いものと捉える方が遺物のあり方からは妥当である。

なお、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（太宰府市教育委員会2000）を参考としている。

また取り上げのグリッドが現在の調査区グリッドと異なる部分が生じている（図14）。表記載の取り上げグリッドについてはこちらの位置に対応する。

表6 遺物数量表

遺構名	かわらけ (g)	瓦 (g)	国産陶器 (g)	輸入 陶磁器 (g)	合計 (g)	遺構名	かわらけ (g)	瓦 (g)	国産陶器 (g)	輸入 陶磁器 (g)	合計 (g)	
21SD1	146056.2	317.6	9096.2	145.8	15615.8	PP29	13.1				13.1	
21SD2	11459.0	8.0	1260.8	1089.6	13817.4	PP30	97.4				97.4	
77SK1	上 層	10511.6	1.4		0.4	10513.4	PP31	676.8		60.3		737.1
	9 層	1086.8				1086.8	PP32-1	17.4				17.4
PP 1	52.8				52.8	PP32-2	831.6				831.6	
PP 2	160.1				160.1	PP33	18.1				18.1	
PP 3	32.1				32.1	PP34	53.3				53.3	
PP 4	3.4				3.4	PP35	2.2				2.2	
PP 5	57.5				57.5	PP36	13.3				13.3	
PP 6	22.5				22.5	PP39	73.4				73.4	
PP 7	2.9				2.9	PP40	24.8				24.8	
PP 8	35.5				35.5	PP44	10.2				10.2	
PP10	5.4				5.4	PP47	11.2				11.2	
PP11	41.5				41.5	PP48	101.6				101.6	
PP12	214.2				214.2	PP49	39.5				39.5	
PP13	19.4		14.5		33.9	PP50	4.9				4.9	
PP14	81.7				81.7	PP53	3.3				3.3	
PP15	71.5				71.5	PP55	46.5				46.5	
PP16	13.7				13.7	PP57	90.1				90.1	
PP17	27.5				27.5	PP61	17.5				17.5	
PP18	17.5				17.5	PP62	181.2				181.2	
PP19	22.7				22.7	PP63	21.9				21.9	
PP20	24.8				24.8	PP64	1.1				1.1	
PP22	18.2				18.2	PP67	8.9				8.9	
PP25	471.6				471.6	PP68	43.5				43.5	
PP27-1	8.8				8.8	横山面等	69347.5	12.2	9800.9	166.5	79327.1	
PP27-2	32.4		15.6		48.0	合計	242330.7	339.2	20248.3	1402.3	264320.5	
PP28	29.1				29.1							

(1) 土器・陶磁器類

21SD1出土遺物 (図15~23)

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが144,056.2g、国産陶器が9,096.2g、輸入陶磁器が145.8g出土しており、このうちかわらけは167点、国産陶器196点、輸入陶磁器22点を示した(1~385)。ただし多くは検出面や上層の12世紀以降の堆積とみられる上層からの出土である。中層以上の資料は12世紀代の遺跡廃絶後の堆積とみられ、遺物の多くも遺跡が廃絶した前後からの自然の流入とみられる。また、下層以下の土層も自然堆積土層からの出土で、一部に人為的な廃棄などによるものを含む可能性があるが、いずれも原位置を保つものではない。以下では下層の出土から記述する。

1~28は下層付近の自然堆積層である18層および19~20層から出土した土器類である。1~18はかわらけで、1~3はロクロかわらけの大皿、4~6はロクロかわらけの小皿、7~15は手づくねかわらけの大皿、16~18は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけは小片だが、いずれも器高が低い器形である。6は端部に打ち欠きの痕跡が確認でき、円盤状のものである。ロクロかわらけ大皿はいずれも器高が低い皿状の器形である。手づくねかわらけでは口径が13cmを超える器形もあるが、いずれも14cm以下におさまり13cm以下と口径が縮小した段階の資料が多い。13は底部の屈曲が強く、特徴的な器形である。この他は口径13cmほどと小型の器形となっている。17~27は国産陶器類で、体部片が多い。20は甕の頸部、22は壺類の底部、25は須恵器系陶器の四耳壺である。28は白磁壺類の体部片である。

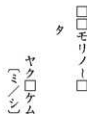
29~65は下層である14~17層および17層からの出土である。29~58はかわらけで、29~35はロクロかわらけの大皿、36~40はロクロかわらけの小皿、41~53は手づくねかわらけの大皿、54~56は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけの大皿はいずれも器高が4cm以下と低い皿形の器形である。38は体部外面に工具の端部とみられる平行の線状痕が残る。40は柱状になる底部だが、12世紀中葉までにみられる柱状高台と比べて低い台部で、それとは異なる形状を示す。手づくねかわらけ大皿は口径が14cmを超えるやや大型の器形もあるが、13cm以下の小型の器形も多い。56~58は内折れかわらけである。59~65は国産陶器の体部片で、いずれも体部片である。62は方形の重なり文と直線を組み合わせた文様の特徴的な押印をもつ。

66~153は中層である10層および10~14層、12・13・14層から出土した土器類である。66~134はかわらけで、66~71はロクロかわらけの大皿、72~73はロクロかわらけの小皿、74~125は手づくねかわらけの大皿、126~134は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけの大皿で器高も低い皿形の器形が多い。手づくねかわらけの大皿は口径が小さい器形が多く、口径が縮小した段階の資料と捉えられる。

91は体部内面に工具端部の痕跡が確認できる。125は体部内面に刻字が行われている。焼成前のものとみられ、刻字はカタカナで記されている。察読できる部分もあるが、全体としての意味は判然としない(右図)。136~152は国産陶器の体部片である。いずれも甕類等の体部片である。142は頸部の破片である。143は:箭文が施されたとみられるが、全体の器形および文様は確定できない。153は白磁壺類の体部片である。

154~385は9層以上の上層からの出土である。154~202はかわらけで、154はロクロかわらけの大皿、155・156はロクロかわらけの小皿、158~185は手づくねかわらけの大皿、186~195は手づくねかわらけの小皿、198~202は内折れかわらけである。

参考図 (125)



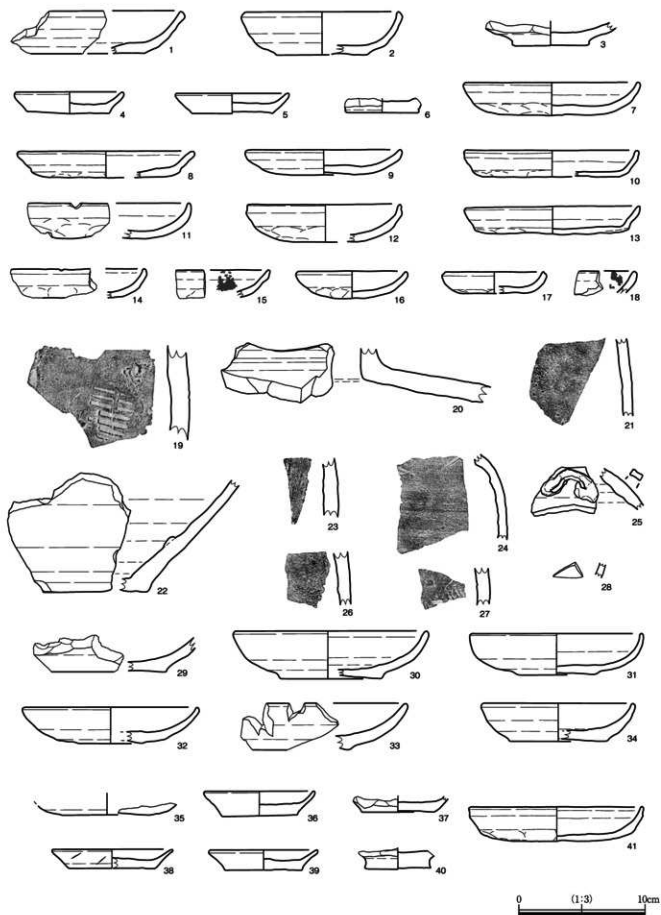


图15 21SD1 出土土器類実測図1

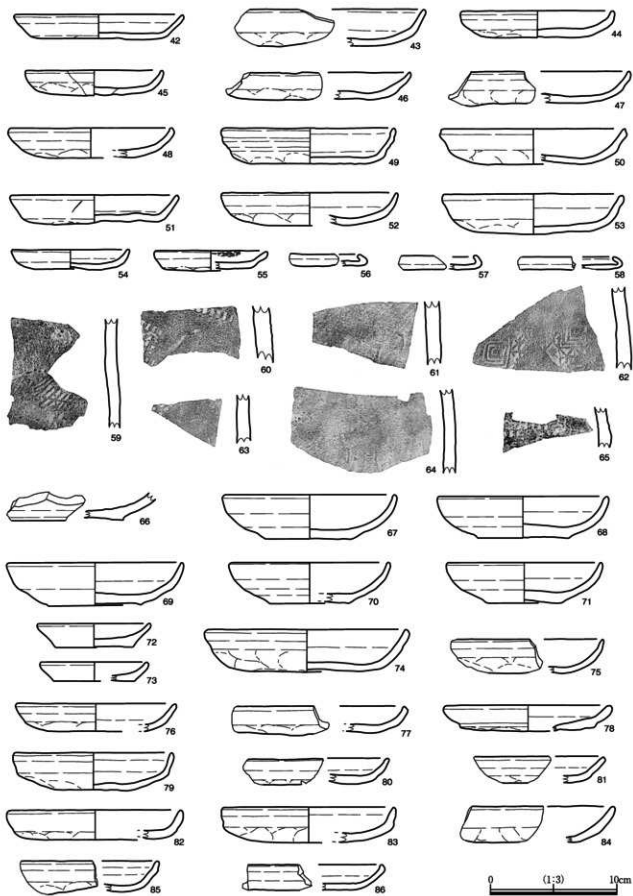


图16 21SD1 出土土器類実測图2

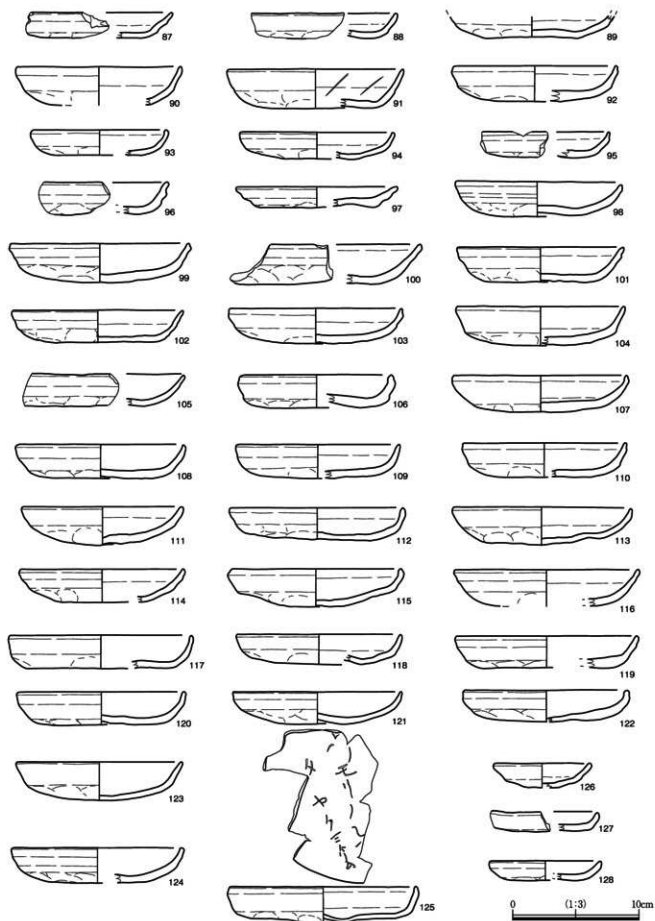


图17 21SD1 出土土器類実測図 3

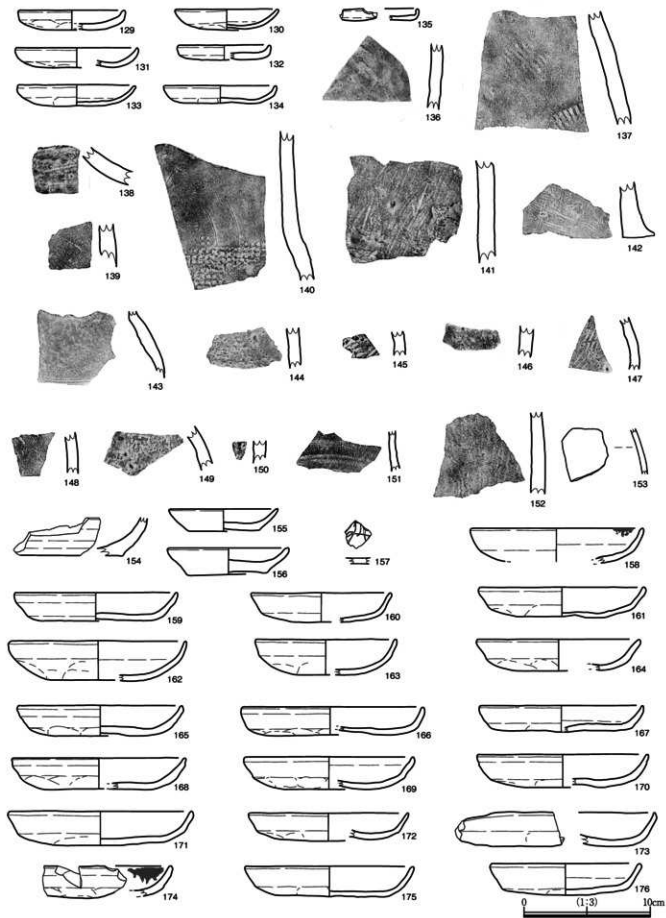


圖18 21SD1 出土土器類實測圖4

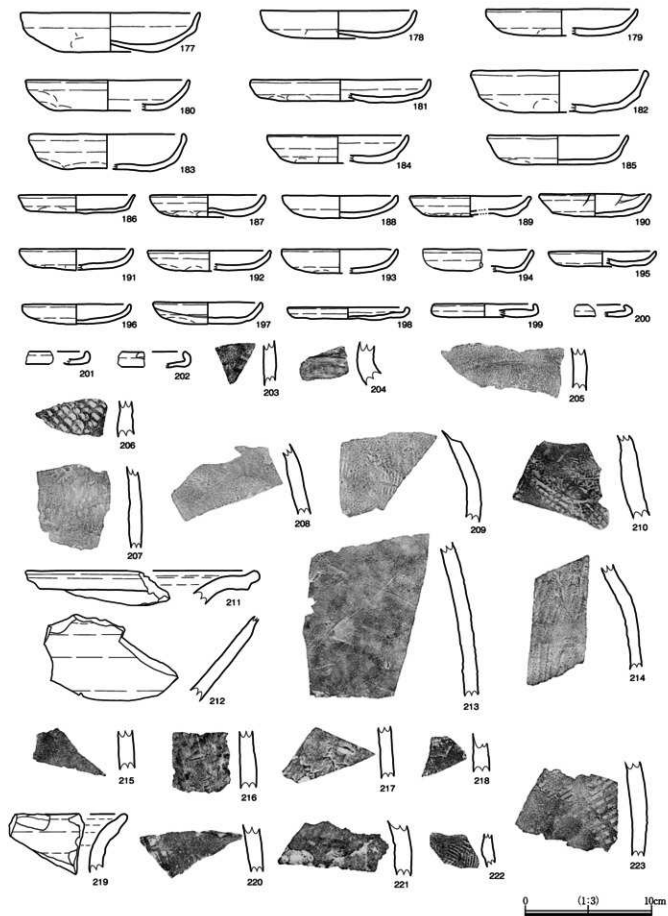


图19 21SD1 出土土器類実測図5

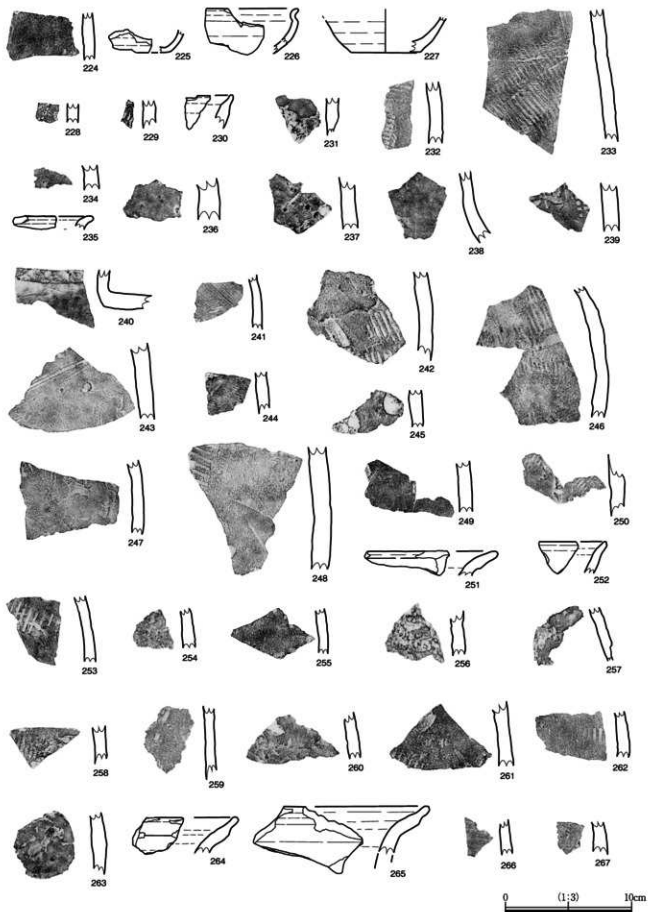


圖20 21SD1 出土土器類實測圖6

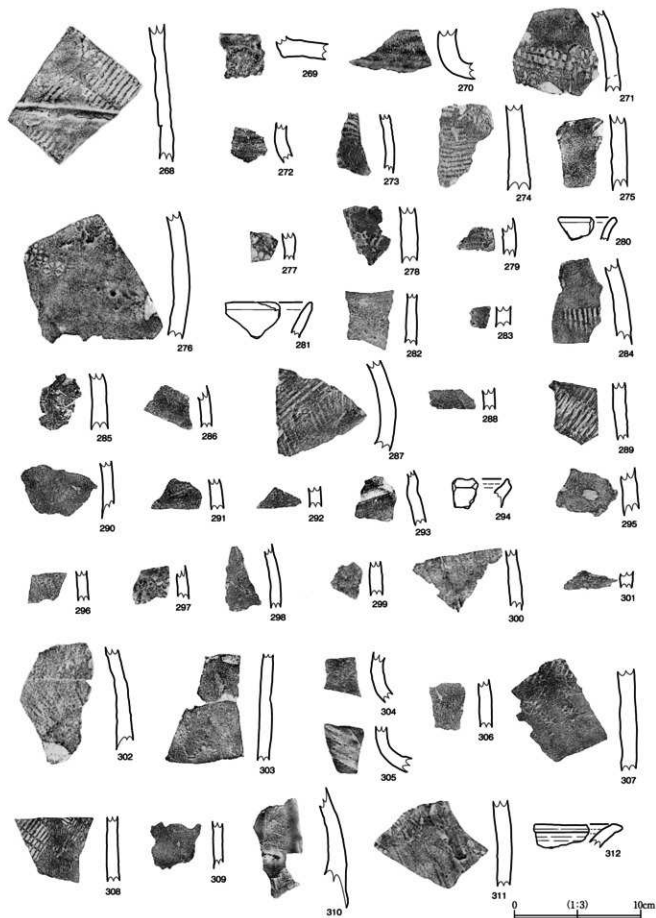


图21 21SD1 出土土器類実測図 7

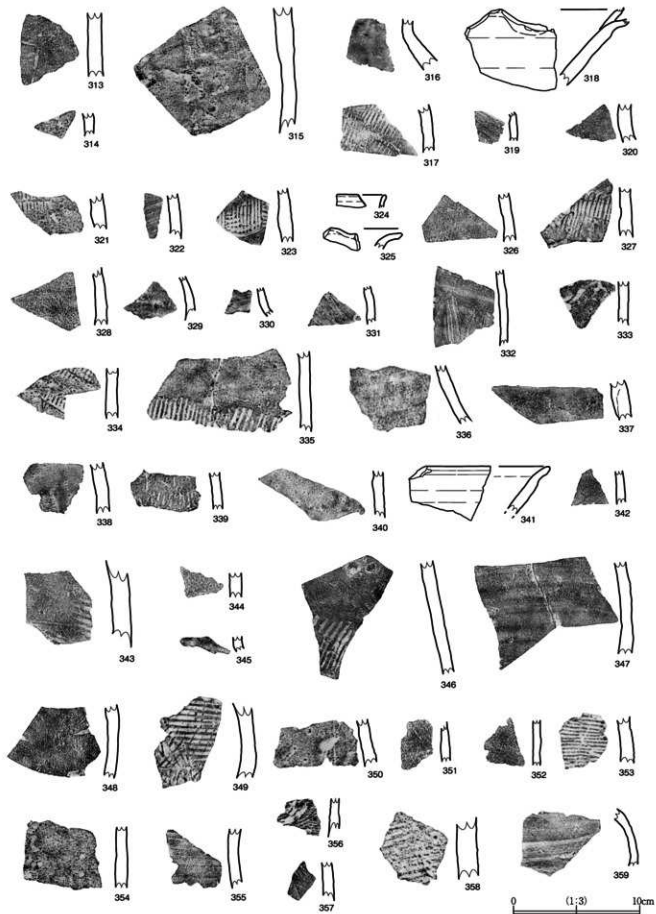


圖22 21SD1 出土土器類實測圖 8

157は体部内面に刻画がみられる。190は手づくねかわらけの小皿で、口縁から体部上部にかけて粘土接合痕跡が確認できる。203～365は国産陶器類である。212は片口鉢の口縁から体部片である。226は碗の口縁から体部で、片口の部分は残存していないが片口碗の可能性もある。225・227は碗の底部である。318は片口鉢である。311は片口鉢の口縁部である。体部片が多く、縦線文や格子文の押印が多い。307は円状の押印があり、装飾的な押印である。349のように直線文が組み合わせられるものもある。366～385は輸入陶磁器類である。366は白磁碗類の口縁部で口縁が外反する。368は外面に文様が施される。373は青磁碗類の口縁部片で、内面に花文がある。378は白磁壺類の頸部片である。381・385は四耳壺の耳部が残る。

21SD1の出土資料の様相をまとめる。最下層の自然堆積土は21SD1が機能した段階に堆積したとみられるが、遺物は少なく、かわらけも器高の低い器形や口径の小さい器形を含み12世紀後半の資料の特徴をもつ。下層とした資料は14層から17層の資料を含み、一部に遺構機能時から廃絶時に近い資料を含むとみられる。ここでは口径が小さい器形などを主体とし、12世紀後半の特徴をもつ。口径が縮小化していることから想定できる資料の時期は、上層の観察から得られた所見と基本的に整合する。中層とした資料は一部下層の資料と同様に廃絶時に近い資料を含むとみられるが、12世紀後半以降の資料である。上層とした資料は遺跡廃絶後に堆積したもので、近世以降の堆積も含む。いずれの土層からも12世紀中葉以前の特徴を持つ資料は小片等では含まれるものの、器形の全体が把握できるものはみられない。自然堆積の上層からの出土のため、特定は難しいが、遺構が機能した段階を12世紀後半以降に置くことができよう。

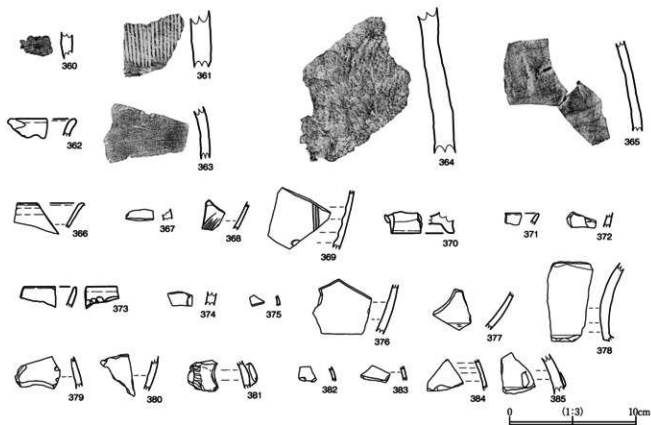


図23 21SD1 出土土器類実測図9

21SD2出土遺物 (図24・25)

21SD2は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが11,459.0g、国産陶器が1,260.8g、輸入陶磁器が1,089.6g出土しており、このうちかわらけ39点、国産陶器21点、輸入陶磁器3点を図示した(386-448)。

386-407は77T1からの出土した土器類である。386は下層からの出土だが、387-397は上層からの出土である。388-396は手づくねかわらけの大皿で、いずれも口径が13cm前後と小さい器形である。398-406は国産陶器である。上層からの出土が多い。体部片が多く、押印も縦線文と格子文が多い。409は白磁碗の口縁部で、口縁部が外に屈折する形状である。

408-448は77T2からの出土した土器類である。408-409は下層からの出である。410は下層付近からの出土で、外面に工具端部の痕跡がみられる。411-415はロクロかわらけの大皿で415など器高が比較的高いものもあるが、全体では皿形の器形を呈する。416-419はロクロかわらけの小皿である。417は体部下半部に糸切り時とみられる痕跡が残る。420-429は手づくねかわらけの大皿で、口径は小さいものが多い。435-446は国産陶器類で、436は頸部、441は口縁部である。435・437-440・442-446は体部片である。447-448は輸入陶磁器類である。447は碗類の高台部である。448は福建省産とみられる白磁四耳壺で頸部から口縁部が欠損しているものの、ほぼ完形で出土した。器高は残存高で21.7cm、体部最大幅は17.7cmである。台部は径8.0cm、高さ1.3cmである。底部外面に3カ所の痕跡がある。内外面に施釉が行われ、一部に釉が垂下する。頸部と体部の接合部内面が、四耳壺としては

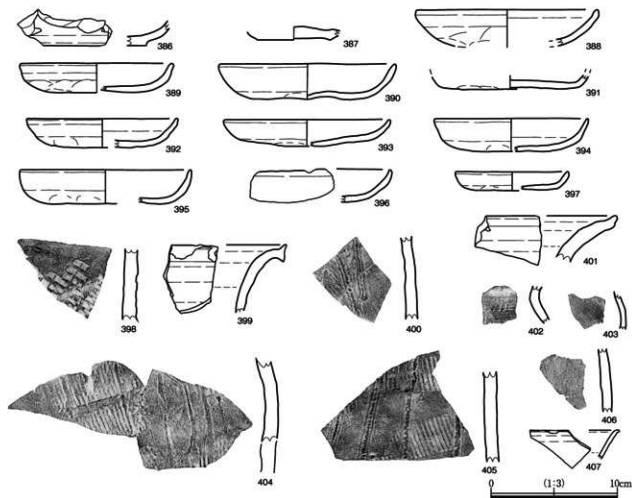


図24 21SD2出土土器類実測図1

鋭い形状である。

21SD2の出土資料は構築時や掘り直し時点までの遺物は少なく、かわらけでも器形が復元できる資料は少ない。特に機能時に関わりとみられる土層からの出土遺物は手づくね、ロクロのいずれとも小皿のため、時期の特定は難しい。また、これらも構築時に近い資料ではない。一方で、上層部分からは多くの遺物が出土している。いずれも12世紀後半の特徴をもつ資料である。遺跡が機能した最終段階からそれ以降に堆積した土層とみられるが、遺物の特徴もこれと整合する。また、図示できていない資料でも、上層は摩滅した資料が多いことも、土層の観察などから得られた所見と整合的である。

77SK1出土土器類 (図26)

かわらけが11,598.4g出土しており、このうちかわらけ29点を図示した。

449～462は底部に近い自然堆積層である9層から出土した。449はロクロかわらけ大皿で、450はロクロかわらけ小皿である。451～458は手づくねかわらけの大皿である。口径が14cmを超える大型の器形もあるが(454)、その他は14cm以下の器形である。459～461は手づくねかわらけの小皿である。462～477はそれより上層の人為的な埋土の土層から出土した。462～464はロクロかわらけの大皿で、器形の全体が確認できる464は器高が低い皿形の器形である。466～471は手づくねかわらけの大皿である。469は口径14.4cmとやや大型の器形だが、その他の資料は口径が13cm程度にまとまる。

77SK1出土土器の特徴から、9層は77SK1が機能した段階の堆積とみられるが、ロクロかわらけが少なく、手づくねかわらけが多いという組成の特徴、手づくねかわらけの特徴から12世紀後半の特徴をもち、その中でも12世紀第3四半期後半から第4四半期の遺構とみられる。堆積土の特徴から、埋め戻しが行われたとみられるが、この部分でも手づくねかわらけが多くを占め、器形の特徴からも最末期を含まない12世紀後半に埋め戻しが行われたとみられる。

柱穴出土土器類 (図26)

478～491は柱穴出土土器である。いずれの柱穴も精査はしておらず、検出面での出土である。そのため、各遺構の時期に関連する遺物と捉えられるかは不明である。478～480はPP31出土のかわらけ、491は同産陶器である。その他はいずれも出土点数が少ない。

その他遺構外出土遺物 (図27～32)

かわらけ27点、国産陶器類225点、輸入陶磁器類18点を図示した(492～761)。497はロクロかわらけの体部片で、体部内面に刻書が確認できる。文字かどうか判別できず、刻画の一部の可能性がある。499は口縁部に灯明等によるとみられるススの痕跡がある。517・518は内折れかわらけである。

519～743は国産陶器類で、多くは壺の体部片で器形の全体を復元できるものはない。特徴的な押印がみられるものも散見され、縦線文や格子文が多い。526・667は方形の重ね文、617は縦線文に直線を組み合わせたもの、599・662は円弧状の文様が連続する装飾的な押印である。549は底部付近まで押印がみられる。553・562・611は片口鉢の底部、581は片口鉢の体部である。このほか、三筋文などもみられる。774～761は輸入陶磁器類で、745・747・760は白磁四耳壺の口縁部、753は白磁壺類の底部片である。750は白磁碗で内面に花文が施文される。

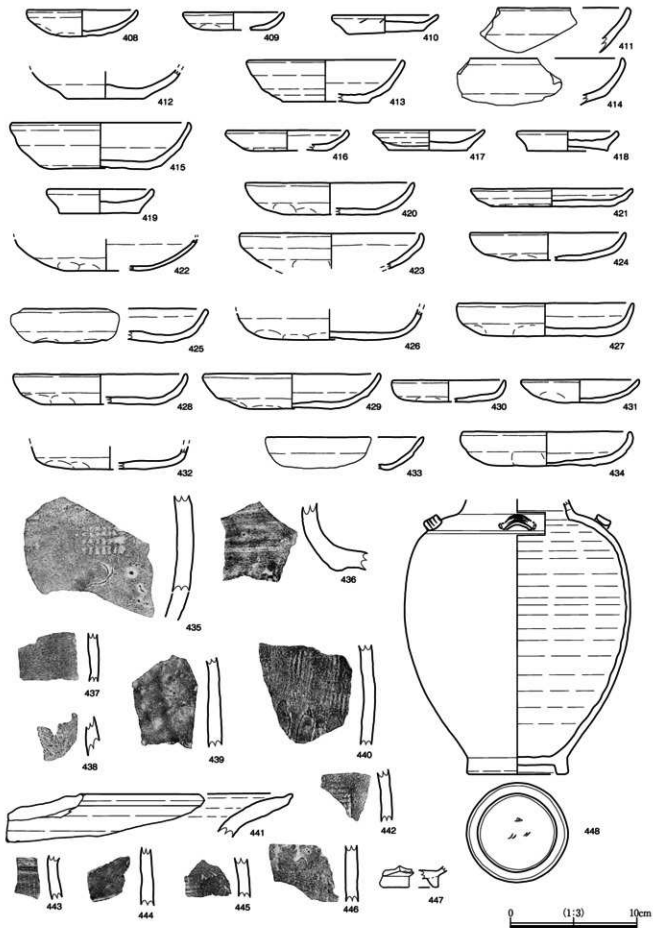
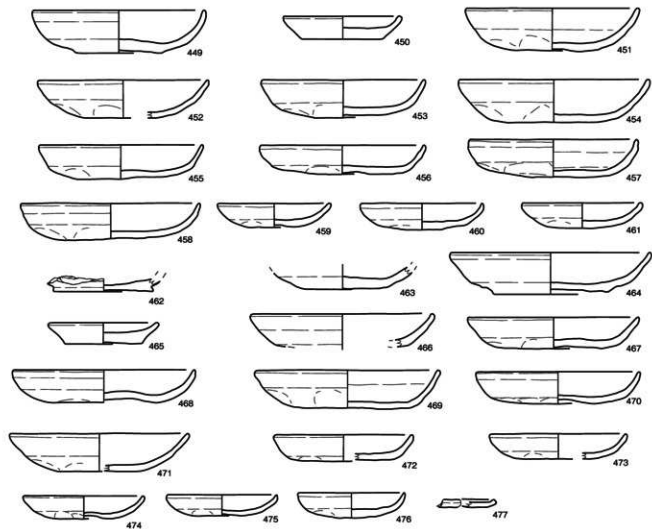


图25 21SD2 出土土器類実測图 2



77SK1

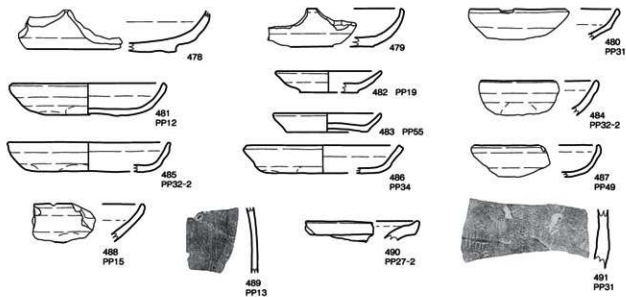


図26 77SK1・その他遺構出土土器類実測図

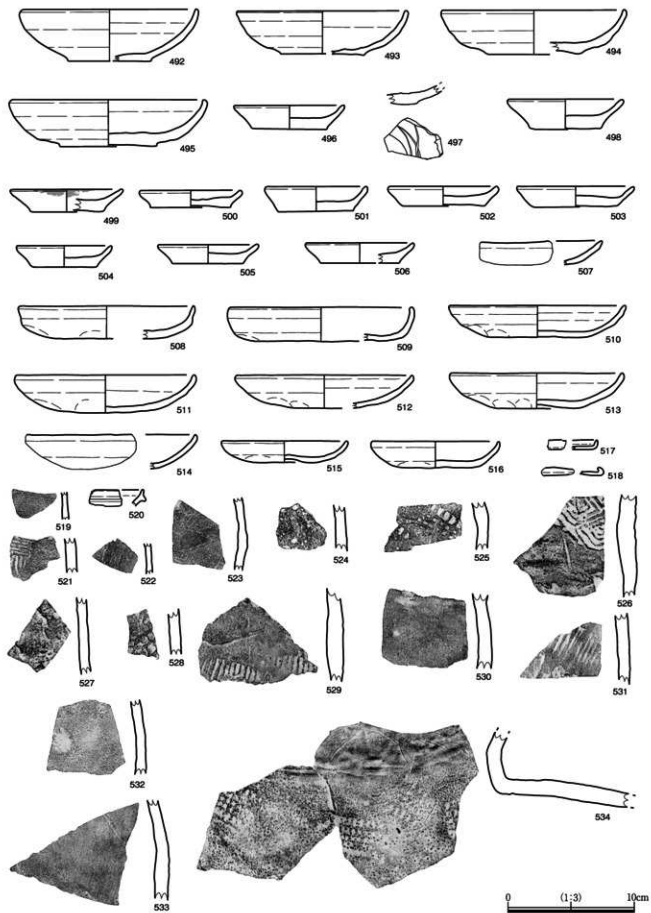


图27 濑柄外出土土器類実測图1

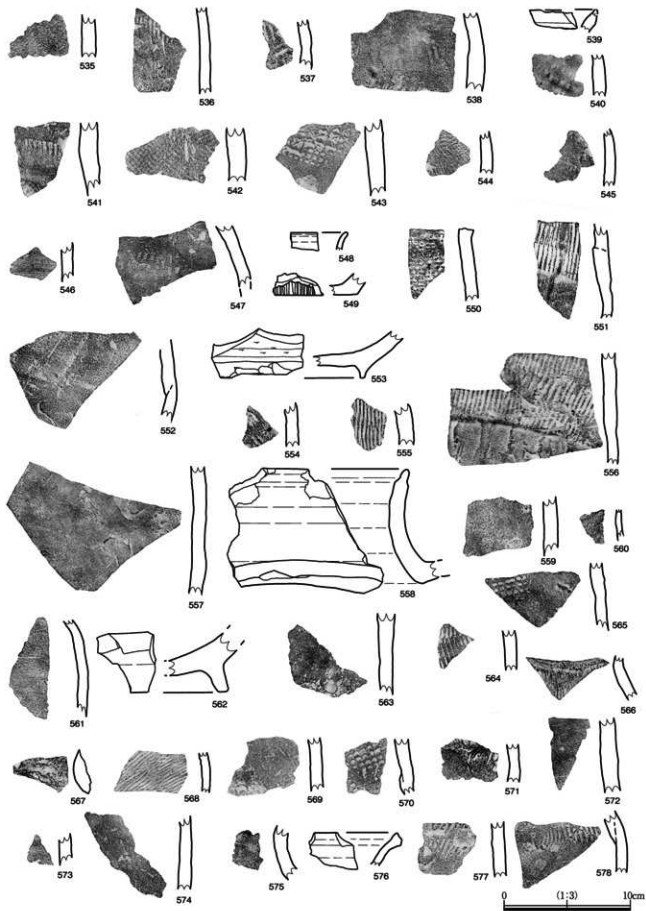


图28 遺構外出土土器類実測図2

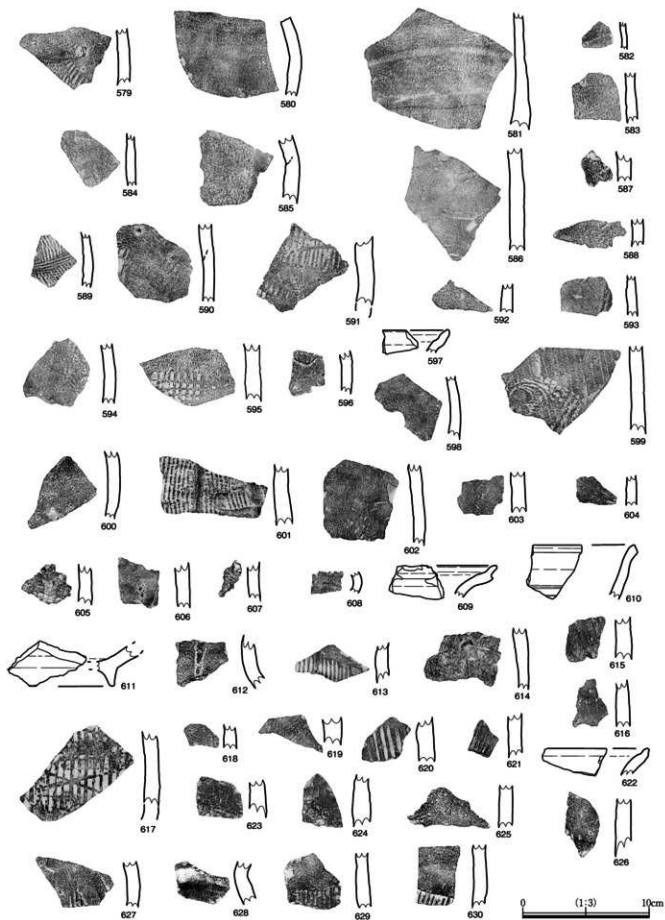


圖29 遼北外出土土器類實測圖3

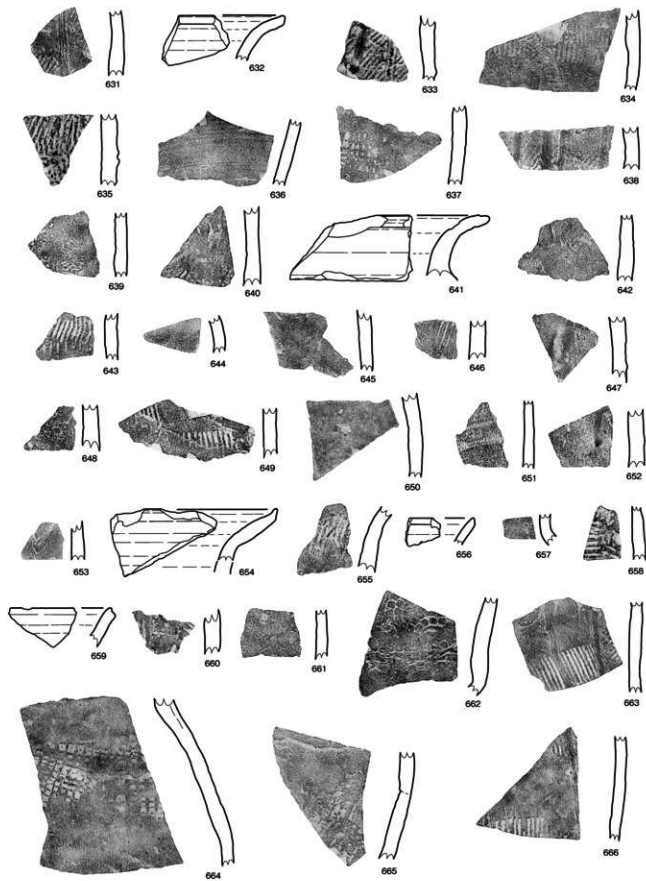


图30 遺構外出土土器類実測図4

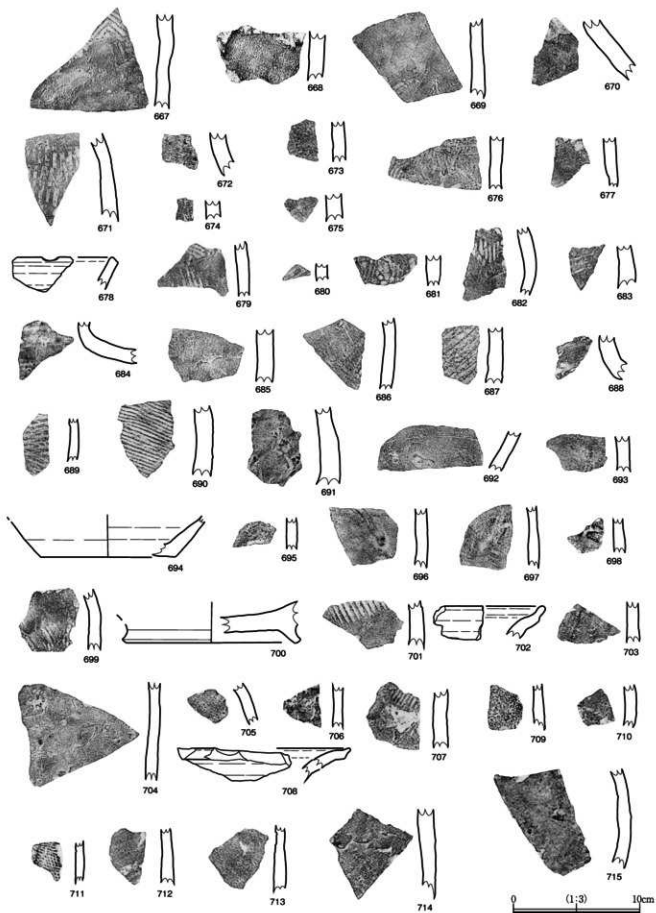


圖31 遼陽外出土土器類實測圖5

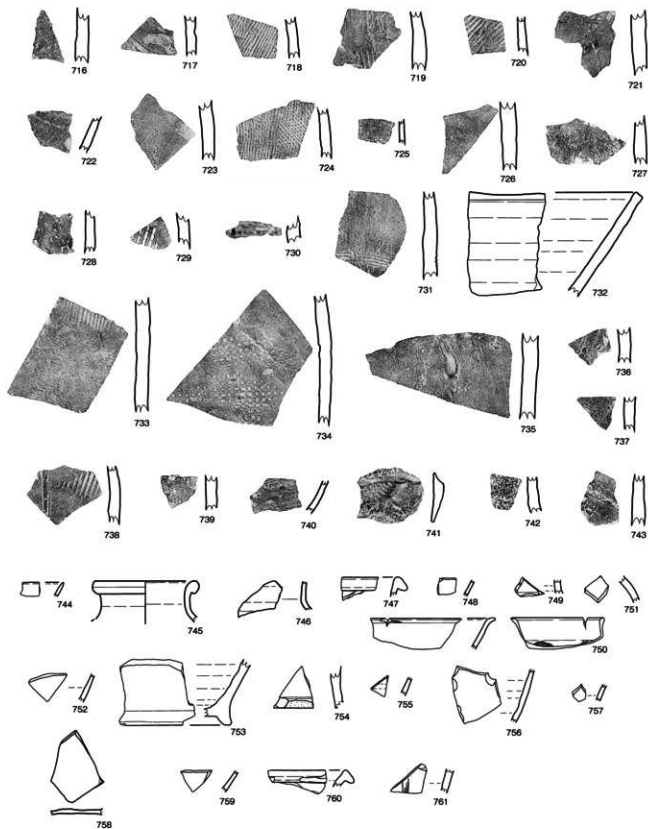


图32 遺構外出土土器類実測図6

(2) 木製品 (図33)

木製品はいずれも堀跡からの出土だが、出土量は少ない。加工痕跡のある資料を中心に8点を図示したが、製品としての機能が判明する資料は少ない。762は大型の部材だが、本来の形状等は不明である。763は箸状の木製品で、側面が整形されている。上下は折れにより破損しており、本来の長さは不明である。764は加工された木製品だが、機能等は不明である。765は板材で、加工痕跡はあるものの、本来の形状等は不明である。766は上面が切りにより加工されている。木製品の部材とみられるが、本来の機能は不明である。767は樹皮で、柳之御所遺跡や志羅山遺跡で出土事例がある。木製品の部材もしくはその木製品とみられる。768は漆碗の体部片で、小片のため口径は不明である。769は上面および側面が切りにより調整されている。下面は折れにより破損している。大きさや加工の様相から部材とみられるものの、本来の形状や機能は不明である。

(3) 瓦

瓦はいずれも小破片のため、瓦当面が確認できる軒瓦のみ写真掲載した(図版19)。いずれも軒丸瓦の瓦当片で、剣頭文系などの既知の文様をもつものである。また、この他に平瓦、丸瓦片が出土しており、これらは表12に掲載した。小破片が多く、27点の出土だが、総重量は339.2gである。

(4) その他の遺物 (図33)

その他の遺物では77SK3の1a層から出土した鉄製鋤先(770)がある。長さが11.8cm、最大幅9.8cm、刃部の幅が5.1cm、厚さは1.5cmでほぼ完形である。先端部の特徴をみると平面形状は丸みを帯びるものの、断面形状では尖らされており、1cm程度の刃部の先端が整形される。耳部から刃部にかけての内面は窪みがあり、木工具との組み合わせ部分と想定できる。なお、柳之御所遺跡の堀外部で同様の資料が出土している(柳之御所遺跡24次調査)。

(櫻井)

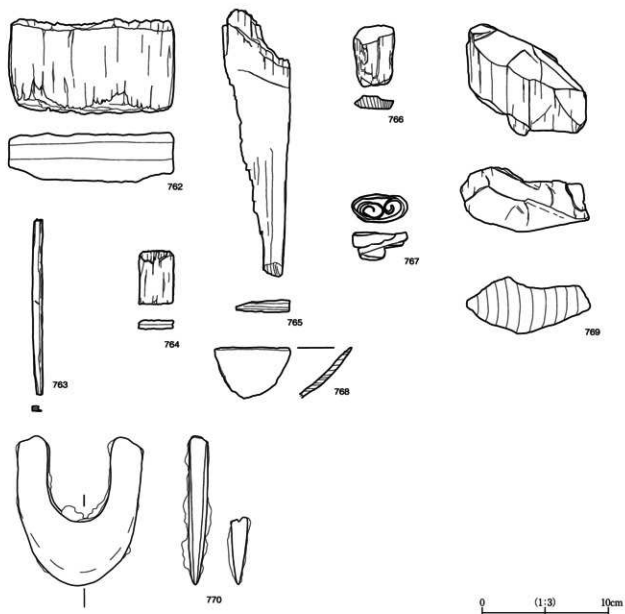


图33 木製品類・金属製品実測図

Ⅲ 自然科学分析

柳之御所遺跡第75次調査出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

柳之御所遺跡第75次調査区は、無量光院跡と柳之御所遺跡の間に位置する、猫間が酒跡と呼ばれる低地部を中心とした範囲であり、隣接する72次調査区から続く外側および内側の堀、整地層、橋状遺構が検出されている(岩手県教育委員会, 2015)。

本報告では、内側および外側の堀から出土した木製品の樹種同定を実施する。

I. 樹種同定

1. 試料

試料は、内側の堀(72SD1)から出土した木製品5点と、外側の堀(72SD2)から出土した木製品2点の合計7点である。

2. 分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・榫目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表7に示す。木製品は、全て広葉樹で、7点中6点がケヤキ、1点がモクレン属に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔園部は1-2列、孔園外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状-対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

表7 樹種同定結果

遺物No	遺構	位置	層位	器種	木取り	樹種	
513	75RW1	72SD1		5層	漆塗り下駄	板H	ケヤキ
516	75RW2	72SD1		5層	漆塗り下駄	板H	ケヤキ
517	75RW4	72SD1		5層	漆碗	横木地氈H取	ケヤキ
601	75RW5	72SD1	2-3グリッド間	中層-D	漆碗	横木地氈H取	ケヤキ
554	75RW7	72SD1		中-D層	漆碗	横木地	ケヤキ
592	75RW8	72SD2	6トレンチ	中層-上(暗灰色上)	漆碗	横木地H取	ケヤキ
599	75RW435	72SD2		中下層	下駄	板H	モクレン属

4. 考 察

木製品が出土した堀跡は、これまでの調査から、外側の堀跡(72SD2)から内側の堀跡(72SD1)に作り替えられたことが確認されており、遺物の様相も外側の堀跡でやや古相の様相が見られる(岩手県教育委員会, 2015)。したがって、出土した木製品についても、外側の堀跡から出土した2点が若干古い可能性がある。

樹種同定を実施した木製品は、漆碗と下駄であり、ケヤキとモクレン属の2種が認められた。ケヤキは、河畔・溪畔等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。一方、モクレン属には、ホオノキ、コブシ、オオヤマレンゲ等がある。二次林や河畔等に生育する落葉高木であり、木材は軽軟で強度と保存性は低い。

器種別にみると、漆碗は、内側の堀跡(72SD1)から3点(75RW4, 5, 7)、外側の堀跡(72SD1)から1点(75RW8)である。このうち、75RW4は内面が赤色、外面が黒色に塗られた資料で、残りは内外面共に黒色に塗られる。また、75RW5と75RW8には内面に同心円状の線が見えており、ろくろ挽きの痕跡が残ったと考えられる。木取りは、いずれも横木地であり、破片で高台が残っていない75RW7を除く4点では高台部分が氈日になることから、横木地氈日取りと判断できる。なお、75RW5は、碗内面の底にシワ状の物質があることから、漆を入れる容器として利用された可能性がある。漆碗の本地は、全てケヤキに同定され、遺構や漆塗りによる違いは認められない。

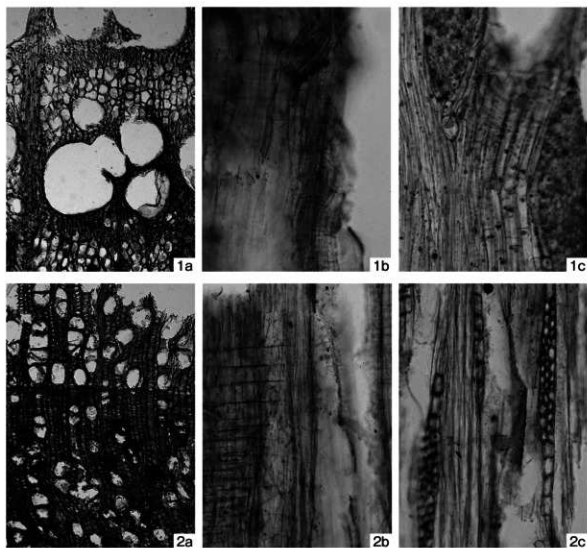
柳之御所遺跡では、第21次や第41次調査でも漆碗の樹種同定が実施されているが、その結果を見ると大部分がケヤキであり、ケヤキ以外にはブナ属が1点認められたのみである(能城, 1995)。ケヤキを主体とする結果は、志羅山遺跡の12世紀とされる漆塗碗でも確認できる他、宮城県等の調査例でも平安から鎌倉時代の挽物碗の大部分がケヤキである(伊東・山田, 2012)。これらの結果から、当該期の漆塗碗ではケヤキに偏重した木材利用が推定され、今回の結果でもその傾向が改めて確認された。なお、四柳(2006)によれば、11~12世紀にかけて、国家権力の衰退と共に塗師や木地師の自立化が進み、漆器の普及と共に材料や工程を大幅に省略した漆下地漆器が出現し、本地もケヤキからより安価なブナやトチノキなど多様な樹種が選択されるようになることが指摘されている。前述の志羅山遺跡では、12世紀代の漆塗碗は全てケヤキであるが、13世紀後半~14世紀前半の漆塗碗では、点数は少ないがブナ属やハリギリに同定されており、四柳(2006)の指摘を支持する結果が得られている。

下駄は、72SD1から1点(75RW435)、72SD2から2点(75RW1, 2)で、いずれも台と歯を一本で作る連歯下駄である。このうち、75RW1, 2は黒漆塗りの下駄で、高い歯を持つ形状から同型の下駄と判断される。75RW1は前部、75RW2は後部のみの資料であり、木取りもよく似ている。樹種はいずれもケヤキに同定され、強硬で腐りにくい樹種が利用されている。欠損部分があり、接合はできないが、

木取りや樹種同定結果を考量すれば、2点の下駄は同一個体の可能性がある。一方、75RW435は、同じ連歯下駄でも歯が低く、白木で漆塗りは認められない。モクレン属に同定され、強度や保存性よりも、軽く足に負担の少ない木材を選択したことが推定される。柳之御所遺跡のこれまでの調査では、ケヤキを中心に広葉樹のクリ、キハダ、モクレン属、トチノキ、針葉樹のアスナロ、スギが確認されている(能城,1995;高橋,1995)。重硬な樹種(ケヤキ、クリ)と軽軟な樹種(キハダ、モクレン属、トチノキ、スギ、アスナロ)が混在しており、丈夫なことに重点をおいた下駄と、足に負担の少ない軽い下駄とが存在したことが推定される。なお、柳之御所遺跡では、白と歯を別材で作る差歯下駄も確認されているが、樹種をみるといずれの樹種も連歯下駄と差歯下駄に確認されており、形態による樹種の違いは確認されていない。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。
- 伊東隆夫・山田久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p。
- 岩手県教育委員会, 2015, 柳之御所遺跡 第75次発掘調査概報, 岩手県文化財調査報告書第144集, 平泉遺跡群発掘調査報告書, 113p。
- 能城修一, 1995, 柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種, 「柳之御所跡 一関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 433-456。
- 高池 謙・伊東隆夫, 1982, 国産木材組織, 地球社, 176p。
- 高橋利彦, 1995, 柳之御所遺跡第23次・31次調査出土材の樹種, 「柳之御所跡 一関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告書遺跡」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 423-432。
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 回柳京京, 2006, 漆(うるし)Ⅰ. ものと人間の文化史131-I, 法政大学出版局, 252p。



1. ケヤキ (75RW2)
 2. モクレン属 (75RW425)
 a: 木口, b: 板目, c: 板目

100μm:a
 100μm:b,c

図34 木 材

IV 総 括

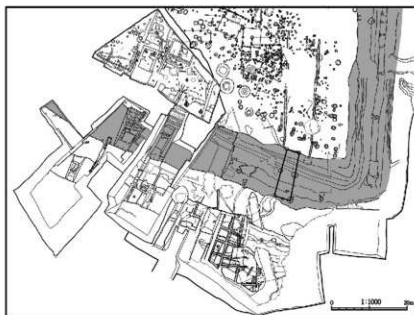
1 今回の調査範囲での堀跡の概要

内側に位置する21SD1堀跡は逆台形の形状で、残存で幅約11m、深さが約2.4mと大規模なものである。これまでの調査で確認されている遺構（21SD1・72SD1）と連続し、同一の遺構と判断できる。全体が自然堆積による土層で埋まり、上層は近世以降の堆積で、その段階までは窪みとして形状を保つ。下層の自然堆積層は、遺跡および遺構が機能した段階の堆積とみることができるが、遺物は多くない。出土した遺物は12世紀後半の特徴を示し、中葉以前の特徴をもつのはみられない。

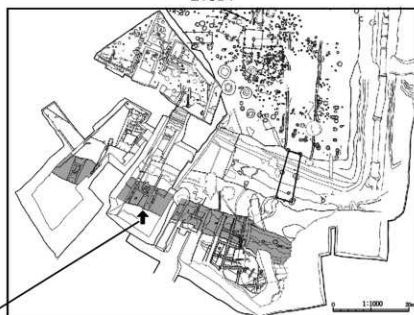
外側に位置する21SD2堀跡は掘り直し等の改修が多く土層も複雑で、21SD1とは対照的な様相を示す。複数回の掘り直しが推察できるが、最も旧期の段階では遺物の出土が少なく、この点からは構築時期の特定は難しい。遺物の多くは最終段階の自然堆積層からの出土で、12世紀後半の特徴をもつ遺物が多い。廃絶の時期とその様相にも不定な部分も残るが、77次調査の範囲では上部の自然堆積による上層が深く堆積する状況が観察できる。76次調査区ではこの最終段階の上層の深さが約60cm、標高21.8mほどとなっており、今回の調査区では深さが約80cmで標高21.3mほどより深い。一方でより東側の69・70次調査区では検出面からの深さが約50cmで標高22mと東に向かって浅くなり、69次調査区の東端（Cトレンチ）では全体が整地で埋め戻されて窪みは確認できなくなる範囲がある。この範囲ではより南側に自然堆積の土層が広がり、これが最上層の自然堆積土層に対応するとみられる。この様相からは、それまでの堀跡の範囲が、形状は地点によって大きく異なり掘り直しの齊一的な様相とは異にしながら、溝状に排水の機能を果たしていた地点が存在することを想定できる。なお、この想定を踏まえれば、69・70次調査で確認した整地土層の性格が、21SD1堀跡で確認されている21SX35橋跡の延長部分に位置することを合わせて、改めて注Hできる。

21SD2堀跡に関連する遺構に、77SX1・2とした部分がある。21SD2の北側部分を埋める人為堆積の土層を指し、今回の調査範囲では掘り込みをもつと判断し遺構としたものである。これまでの調査でも21SD2堀跡の内側に沿って人為的な土層を確認しており、21・69・70次調査の範囲では21SX1としている。今回の範囲まで位置が連続し、土質も地山ブロックを多く含む人為的な土層で類似していることから、一連の埋め戻しに伴う土層の可能性が高い。これが連続する土坑として認識できるかは、断面では掘り込み状になる範囲もあるがそのまま21SD2の掘り込みと同一の部分もあり、平面では全体的に人為的な類似した土層が続いており、判断が難しい。しかし、底面が円凸をもつことなども含めて一連の地業の痕跡の可能性が高いが、性格は判然としないが、位置や埋土の締まり方などから何らかの基礎地業の痕跡の可能性を指摘しておきたい。ただし、関連する遺構やその痕跡はこの土層および隣接する整地層上面では確認できていない。

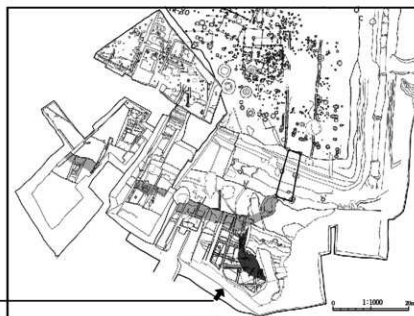
次に、両者の間に位置する南区整地層は21SD2堀跡と併行する段階が上層の対応から判断できる。21SD2の構築時期との関係は土層からは確定できないが、整地層の下層で古代の遺構面が確認でき、整地層中には12世紀の遺物を含まないことから、この範囲が使用された当初に構築時期を想定できる可能性がある。その場合には、21SD2の構築時期と近い段階で整地が行われたとみなすことができよう。既述の通り、出土遺物がなく時期を特定することは難しいが、12世紀中葉以降に遺跡内での遺物量が増大することを勘案すれば、それ以前に置くことができよう。遺跡南側の範囲でも12世紀前半代の遺構がこれまでの調査で確認されていること、21SD2の旧期の段階で確認されている遺物が量は少ないものの12世紀前半の器形的特徴をもつことを含めれば、12世紀当初期まで遡るかは確定できないが12世紀前半代にこれらの遺構が構築された可能性を指摘できる。



21SD1



21SD2



21SX4

図35 南端部の遺構

以上の堀跡の変遷を整理すると今回の調査範囲での遺構の変遷が図36のように想定できる。

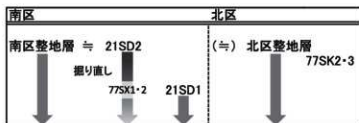


図36 77次調査区の遺構変遷模式図

2 柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置と時期

今回の調査から、2条の堀跡の位置を確認することができ、2条の堀跡の位置を概ね確定することができた(図38)。内側の堀跡は遺跡西側ではV字に近い形状(①・②)、南西部の猫間ヶ淵跡に近い範囲では逆台形(③)、今回の調査範囲が位置する南端部ではより下幅が広い逆台形を呈する(④・⑤)。遺跡西部から猫間ヶ淵跡に下がる範囲で形状が変化するとみられるが、未調査範囲のため位置の特定はできない。走行位置などから同一の堀跡が連続するものと考えられる。

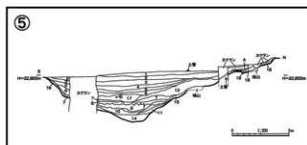
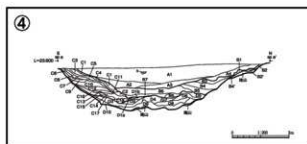
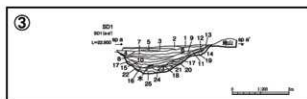
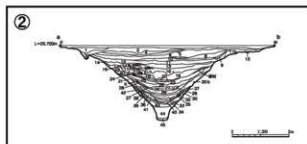
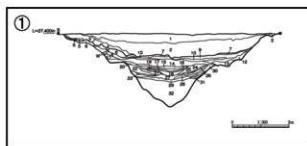
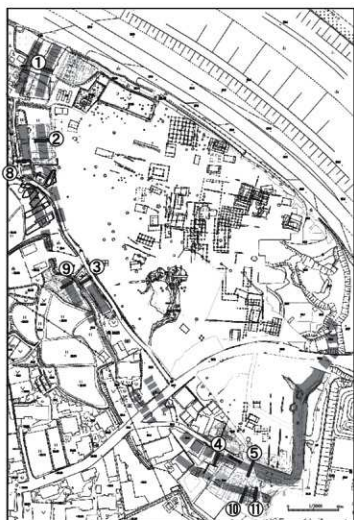
外側の堀跡は遺跡西部から(⑥)、南西部(⑦)、南端部(⑩・⑪)でも逆台形を呈する。全体的に掘り直しが複数回行われ、一部に人為的な埋め戻しが確認できるなど共通する特徴が多い。ただし、掘り直しの時間的な位置などの対応は土層の対応などからは確定が難しい。また、人為的な埋め戻しは検出面上層まで行われる範囲があるもの(⑩、遺跡西部の①付近)、現状で全体的に確認できる範囲は限定的である。猫間ヶ淵跡の範囲では近世以降の溝によって上部が壊されており不明だが、77次の範囲では溝の形状を保っていた時期が想定できる。常時の滞水を意味するものではないが、遺跡を囲む自然地形の湿地帯からの排水等の機能を果たしていた範囲があるとみられる。

堀跡に関する既往の調査成果をみると、南端部においては相対的な変遷として21SD2→21SX4→21SD1の変遷を想定できる(岩手県教育委員会2010・2011)。遺跡の西側などでは遺構の直接的な切り合いからは前後関係を補強できないが、堆積土の標相の違いが指摘されており、構築時期などの前後は基本的に同様とみられる。また、構築時に近い形状で同時期に存在したとは考えづらい。基本的には外側の堀が構築され、一部に埋め戻しが行われ、内側の堀跡が構築されたとみられる。今回の遺構とあわせて、外側の堀跡(21SD2・72SD2)→21SX4・77SX1・2→内側の堀跡(21SD1)の変遷が想定できる。また、外側の堀跡は全体が埋め戻される範囲と、それ以外の範囲が想定できる。猫間ヶ淵跡に位置するおよび近接する位置は遺跡廃絶の時期までを通して流水の影響を受けていたものとみられる。便宜的に変遷を模式化する(図37)。

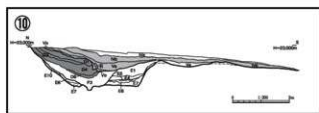
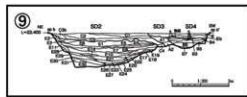
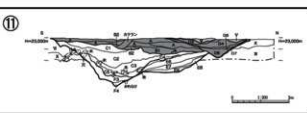
この変遷についての実年代の確定には遺物の限定性から確定できない部分も残るが、概略を示す。古い段階に外側の堀跡(21SD2・72SD2ほか)や、関連する整地層が機能する。また、この段階に想定できる外側の堀跡と併行もしくはそれより古い段階の遺構に56SD40溝跡がある。この遺構と外側の堀跡との関係は、未調査であることや想定される結節部分に内側の堀跡が位置することなどにより



図37 堀の変遷模式図



内側の堀跡



外側の堀跡

図38 柳之御所遺跡の堀跡

現状では確定できない。これらの遺構の時期を遺物などから12世紀前半～中葉に想定できる。ただし、12世紀前半に想定しているが、その中での特定は難しい。整地層における遺物の少なさなどは遺跡が機能を開始した時期に近い段階での構築を想起させる内容であろう。これらの細分と位置による構築時期の差異の検討が課題となる。

次の、12世紀中葉～後半に外側の堀跡と関連する整地層が機能した段階がある。56SD40溝跡はこの時期には人為的に埋め戻されており、堀外部との間も含めて全体が外側の堀跡により区画されている段階である。

12世紀後半に外側の堀跡は内側の岸に近い一部で整地等（21SX4ほか）が行われ、南端部では全体的に整地された範囲がある。前節で述べたように、一部では外側の堀跡は部分的に溝状に残存したと捉えられる。この段階で内側の堀跡が構築されたと考えられる。21SX4などの整地層での出土遺物が12世紀後半の様相を示し、12世紀第3四半期後半から第4四半期の特徴をもつ遺物が多いことから、外側の堀跡周辺での地盤と内側の堀跡の構築をその時期に想定できる。遺跡全体の遺構変遷の中でこの時期を具体的に位置づけ、他遺構（建物群）との関係性の検討が課題となる。



図39 堀の変遷案

※独立柱建物の時期はそれぞれの存続時期を示していない。

3 堀跡周辺部の様相

(1) 南端部の様相

今回の調査では2条の堀跡の周辺部を調査した。遺跡南端部の性格についてはこれまでも議論が行われており、これまでの調査で小規模な遺物や井戸跡などが確認されている。今回の調査では攪乱が著しく明確な建物跡などは確認できなかった。井戸跡とみられる土坑を確認しており、区画するような堀等もみられないことから同様の範囲として機能したと捉えられる。遺物等では樹皮等の出土は注目できるが、性格を特定できる材料は得られていない。

(2) 堀と関連する区画等

21SD1堀跡と21SD2堀跡の間については、整地層を確認したが、その他の明確な遺構は確認できておらず建物などはない空地地となっていたと推定される。76次調査で確認した21SD1堀跡に斜行して堆積する人為的な様相をもつ土層などから、この範囲に整地土などの人為的な土層があったことが推定されてきたが、今回の部分で平面的にも確認できた。76次調査で確認された土層の土量や、空地地としてのあり方からは土塁状の構築物があった可能性が想定できる。このほか、21SD1堀跡で崩落して確認される円礫も構築物との関連が窺える。

ただし、より猫間ヶ淵跡に近い範囲や堀外部地区との間では同様の土層は確認できておらず、2条の堀跡の間でも整地等は確認できていない。遺跡を囲む施設として、土塁状の部分があったとした場合でも、その範囲は限定的であったことが現状の成果からは想定される。また、21SD2堀跡の内側の岸部分の人為的な土層が、21SX4から続く人為堆積土層が連続した遺構として把握可能であれば、地蔵などの痕跡の可能性があり、関連する遺構として注目できる。上部の構造が不明なため特定はできないが、その端部が21SX35橋跡の柱穴の位置と重なる点も興味深い特徴である。

(3) 堀跡に近接する遺構

今回の調査範囲では2個の土坑状の柱穴を確認した(77SK1・77SK2)。遺跡南端部ではこれまでの調査で、21SD1の内側で通常の柱穴とは平面形状等にやや異なる柱穴を複数確認している(図40)。直線的に何で確認され、21SX36(21SK121、21SK119・120、21SK113・114、21SK117・118)・21SX37(21SK40、21SK34、21SK122、21SK116)として報告されており、性格についても祭祀に関連するとの見方もあるものの必ずしも明確ではない。円形の土坑もあるが、円形部分から片方に張り出しをもつ形状が特徴的な遺構である。柱痕跡等は必ずしも明確ではない。

今回の調査で確認した土坑も位置や平面形状にこれらと類似する点が指摘できる。77SK1・2は、柱が建てられた後、抜き取りが行われたことが断面の観察から理解できる。平面形状が円形の土坑部分と抜き取りに関連する張り出し状の部分で構成される。また、整地層の範囲で確認され、21SD1堀跡に沿うような位置に分布することも同様である。77次調査では21SD1堀跡の端部からやや離れた位置で確認しているが、削平によって21SD1の上端部の一部が失われている可能性もあり、基本的には同様の位置関係として把握できる。

これらの位置や形状の類似からは、全てが同一に捉えることができるかは確定できないが、同様の性格をもった土坑が多く存在するとの推測が可能である。いくつかの課題を挙げると、ひとつに配置の問題がある。直線的に並ぶように位置するもの間隔は一定ではなく、一連の遺構とは確定しがたい部分が残る。この点では、これらの遺構は整地層と同様の土質で埋められており、検出が難しいことが予想されることも留意すべきであろう。そのためか、77SK2と21SK121の間部分について間隔が広く、この範囲での類似遺構の有無は不明な部分が残る。その他の遺構の分布状況からは、この位置にも類似の遺構が存在した可能性も推測される。

また時期については、現状では21SD1堀跡に沿って確認できるものの、整地層の下層で確認されたとの記述もあり(岩手県埋蔵文化財センター1995)、これらが同時期と見なすのかは確定できない。整地層は遺物が少なく時期が特定できないものの、21SD1堀跡より先行する可能性があり、その場合は21SD2堀跡の内側に配置されたとの見方が妥当となろう。しかし、77SK1・2の調査所見からは、整地土と同様の理土で最終的に埋まっており、前後関係の確認は特に整地面での検出は難しいものと考

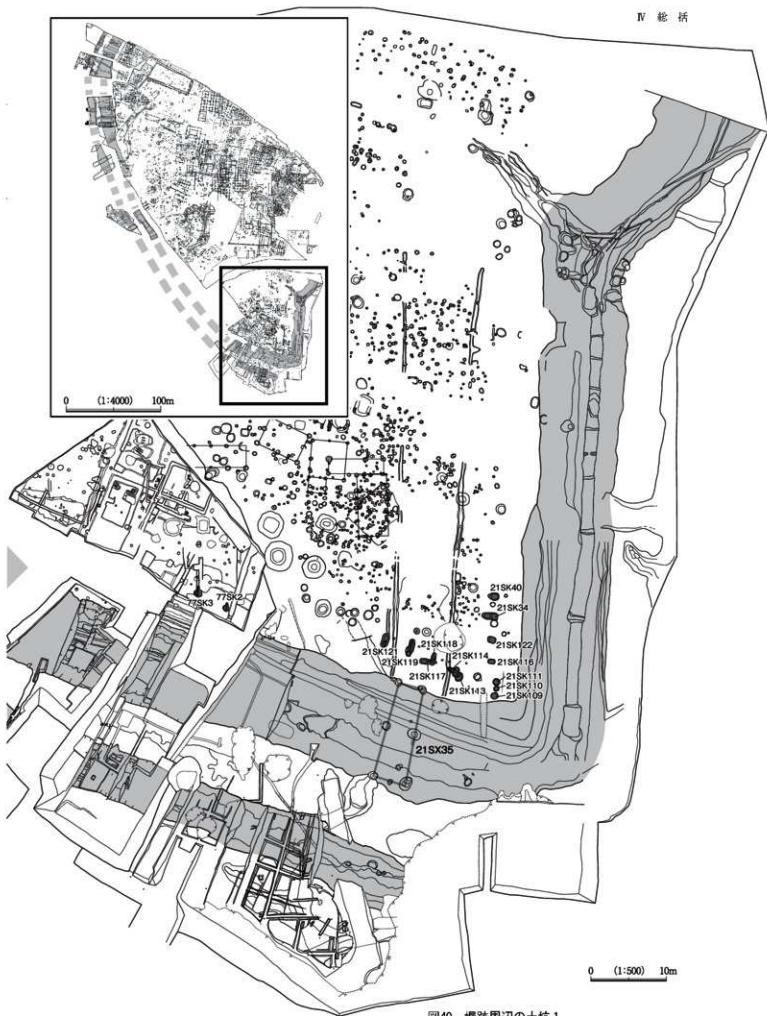


図40 堀跡周辺の土坑1

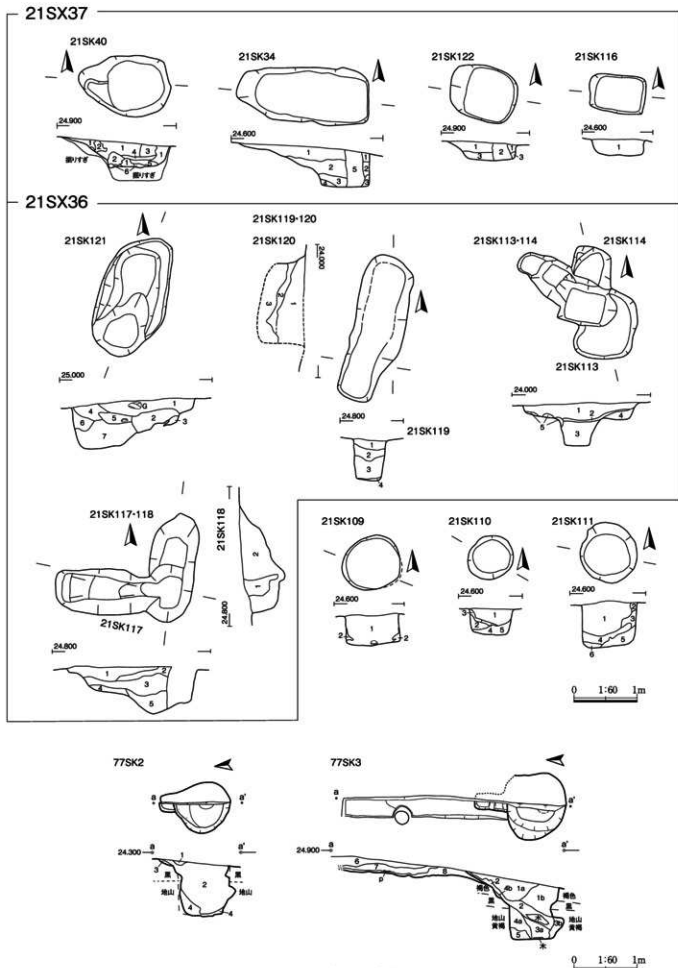


図41 塚跡周辺の土坑 2

えられる。また、遺構内の埋土に整地層と類似の埋土が含まれる状況からも、既調査範囲での整地層との前後関係の指摘は必ずしも確定できない可能性もある。また、77SK1・2については整地層と同時期もしくはやや後出の可能性を考慮しており、その場合でも21SD2堀跡の時期の可能性がある。

これらの類似点から同様の遺構である可能性もあり、時期や配置には不確定な部分が残るが、遺跡を囲む堀跡の内側にこれらの施設が配置されたことは注目できる。これらの全てが同様の遺構として把握が可能であるか、また、この遺構の具体的な性格についても検討課題となる。

4 ま と め

- ① 柳之御所遺跡の南側にあたる猶岡ヶ淵跡の周辺部を調査し、堀跡2条と関連する土坑などを確認した。堀跡は直接的な切り合い等はなく、時期等に不明な点は残るが、両者が平行して走ることを確認し、他の調査区と合わせて柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置が確認できた。
- ② 内側の21SD1堀跡は構築に比較的近い時期の遺物も12世紀後半からの資料を含み、遺跡廃絶後にも開口して上部の形状を保つとみられる。外側の21SD2堀跡は複数回の掘り直しを含む改修の痕跡が確認できた。構築の時期を特定できる遺物は少ないが、構築時に近い整地層には遺物を含まず、12世紀前半から中葉に整地層および堀跡が構築された可能性が考えられる。また、12世紀後半に一部が埋め戻されるが、この部分を含めても今回の範囲においては窪みとして堀跡の形状を保っていたとみられる。地点によって12世紀後半段階の様相は異なるとみられる。
- ③ 21SD1堀跡の内側に沿うように77SK2・3の2つの土坑を確認した。抜き取りの痕跡をもち、大型の柱穴とみられる。これまでの調査でも堀跡に沿うように類似の遺構が確認されており、注目できる。
- ④ 21SD1堀跡の内側で整地層の分布を確認できた。既往の調査成果とも総合的で、遺跡の縁辺部で広く整地地業が行われ平坦な範囲を作るように造成したことがわかる。

(櫻井)

V 付章 高館跡の調査

1 高館跡の概要と調査計画

高館跡は柳之御所遺跡の遺跡範囲に隣接し、西側の丘陵に位置する。中尊寺が所在する岡山丘陵からは東側にあたる。現在丘陵の頂部には義経堂が所在し、源義経の伝説とともに著名な範囲である。これらの伝承などによりよく知られた範囲である一方で、これまで数度の発掘調査が行われてきたものの、いずれも小規模な調査にとどまり、遺跡の遺構内容や時期、柳之御所遺跡との関係などに不明な点が多く残されてきた遺跡でもある。

現在、岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の世界遺産拡張登録を目指して各種の事業に取り組んでいる。その中で柳之御所遺跡と隣接し地形的に関連性が想定できる高館跡についても調査研究を進め、この範囲と柳之御所遺跡との関係を検討することで柳之御所遺跡の位置づけや内容の評価にも重要な情報を得ることができると考えられた。そこで高館跡についても調査研究を行うこととし、上記のように遺跡の性格付けや時期を検討するための考古学的情報の蓄積も不十分と考えられたことから、3カ年の調査計画を立て発掘調査を実施することとした。平成27年度はその2年目に当たる。平成26年度の調査では、それまでの調査で確認されていた堀跡の位置を再確認し、規模などの把握を行ったほか、上部の平坦面の一部を調査し、遺構の分布状況を確認した。この成果を受けて、平成27年度は高館を囲むと推定される堀跡の追究と上部の平坦面の遺構の状況や時期を検討する材料を得ることを目的として2カ所にトレンチを設定した。

なお、高館跡の発掘調査成果については、3カ年の調査実施後に発掘調査報告書を刊行する計画としている。しかし、各年度の発掘調査の内容について、概要の報告が必要と考えられ、柳之御所遺跡の概報と合わせて概要報告を行うこととする。

高館跡の調査では隣接する柳之御所遺跡の調査成果と総合して検討を行なう必要性が高いものの、現在の遺跡範囲が異なり旧来の柳之御所遺跡のグリッド上から外れる部分が多い。さらに、局地的なグリッド範囲としてはきわめて広い範囲になってしまうことから位置関係の把握にも必ずしも有用な点だけでないことが想定された。そのため、柳之御所遺跡の調査で用いるグリッドとは独立させ、ここでは世界測地系の座標に基づいてグリッド表記等を行っている。

柳之御所遺跡および周辺との位置関係の把握については、高館調査時に旧測地系の座標を把握しておりこれにより行うことも可能としている。

表8 高館跡の調査計画

年次	調査目的
平成26年(2014)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成27年(2015)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成28年(2016)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成29年(2017)	報告書刊行

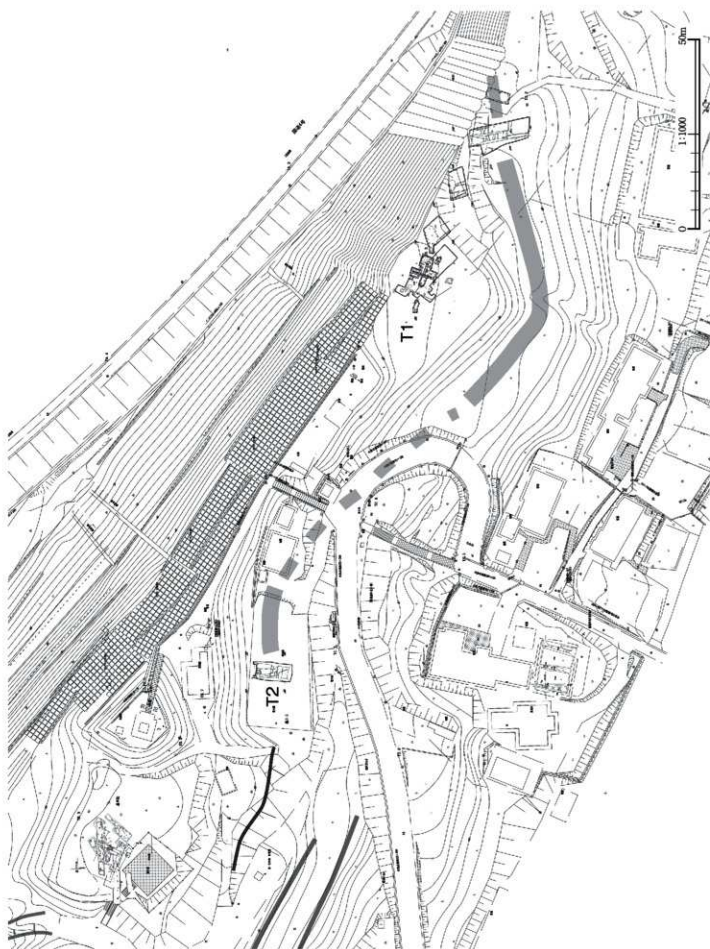


図42 高館跡調査位置図

2 高館跡第8次調査の概要

① 調査の概要

高館跡第8次調査では、高館が位置する丘陵上部を囲むと推定される堀跡の位置の確認と、柳之御所遺跡跡に近い範囲で平坦面を中心に遺構の分布を確認することを目的として2カ所に調査区を設定した(図41)。

② 各トレンチの内容

1 トレンチ(T1)

平成26年度の調査で4トレンチ(T4)・5トレンチ(T5)を設定した範囲と一部重複している。現況の高館周辺では北上川によって丘陵全体が大きく削られたこともあり、平坦な地形面は少なく、建物跡等の遺構の所在が推定できる範囲も限られる。今日の調査範囲は丘陵頂部からは一段下がるものの、頂部に近く比較的平坦な地形が確認できる場所である。高館の丘陵の中で現在の義経堂として整備されている範囲から東の柳之御所遺跡の方向へ向かって下った部分の平坦面を対象に調査区を設定した。

土層は、黒色土の表土層が40~60cmほどと厚く形成されている。下層にはやや明るい黒色土層が20cm程度堆積する。これらの下層はいわゆる地山層で黄褐色の堅い土層である。

調査では、下層のやや明るい黒色土層の上面で30cm入の上面が平らな河原石を複数確認しており、この面で遺構の検出を行ったが、柱穴等は確認できなかった。同様の石はこの面で5個確認している。石の周囲にトレンチを入れて、下層の確認を行ったものの掘り込み等は確認できず、旧表土に直接置かれたような状況である。石の大きさは20~40cmとやや幅はあるもののいずれも平坦な面を上面にしている。このうち4個については東西方向に並ぶようにもみられるが、中心部で計測すると10cm程度の範囲で南北方向に位置が乱れており、正確な直線とはならない。礎石等の可能性も残るが、12世紀代の遺構でみられるような地業等がみられないことや、表土面についても土層の様相からはより新しい段階の旧表土の可能性が高く、この石の列についても年代の確定はできないものの12世紀段階より後世のもの可能性が高い。また、現状では石列は1列のみしか確認できていないが、周辺の土層状況からは本来この範囲の地形は南側に傾斜していたとみられ、石についても原位置を保っていない可能性がある。この面で周囲の精査を行ったが、柱穴等は検出できていない。この面では建物跡等は確認できなかった。

また、一部はさらに一段下げたいわゆる地山面で検出を行っている。この面では第7次調査に続いて、柱穴を複数確認している。ただし、いずれも径20cmほどと柱穴の規模が小さい。また上面で遺構の検出を行い、掘り下げを一部にとどめたこともあり、この調査でも建物跡を構成できていない。この面では焼土が散布する部分があるものの、いずれも部分的なもので、明確な遺構は確認できていない。

遺物は12世紀代のかわりけ、国産陶器が出土し、輸入陶磁器も少量ながら出土している。近世以降の遺物が少量、表土で出土しているものの、12世紀以降の遺物は少ない。また、鍛冶等に関連する可能性のある滓片が表土から出土している。

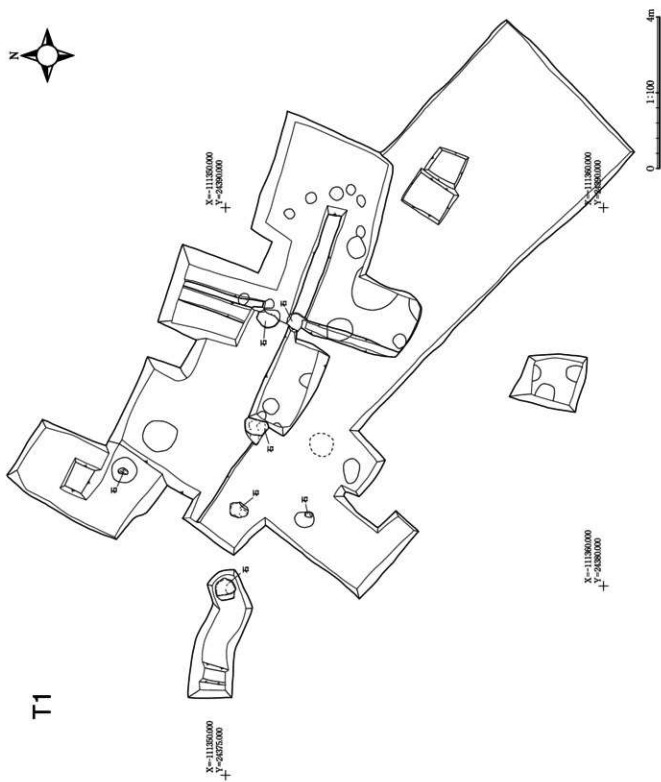


図43 T1平面図

2 トレンチ (T2)

7次調査で確認した堀跡の延長の確認を目的とし、高館の丘陵部の南側、現在の義経堂の直下の平坦面を対象にしている。7次調査では丘陵東部の部分で堀跡を確認したが、走行方向などに課題も残されていた。そこで、丘陵の南西側などで堀跡の有無などを確認する必要があると考えられた。第8次調査では周囲の平坦面の分布など地形の状況から、堀跡が延びる可能性があると思定できる範囲に、調査区を設定した。調査の結果、2トレンチでは、現在の駐車場造成時とみられる表土の直下で、堀跡 (SD1) と、それを切って直交する溝跡 (SD2) を確認した。

SD2溝跡はSD1堀跡と直交し、高館の斜面方向と同一の方向に延びることを確認できた。埋土は地山ブロックを含み、人為的な埋め戻しによる土層である。幅は約3mほど、深さは確認した面から約1mほどである。遺物は出土しておらず時期の特定は難しいが、土層の前後関係から堀跡より新しく、駐車場造成以前の遺構であることがわかる。

SD1堀跡は、幅は現在確認できる範囲で約6.2mほど、深さは確認した面から約1.9mほどである。堆積土は自然堆積の土層で形成され、いずれも斜面上部からの流入によるものである。19層では人頭

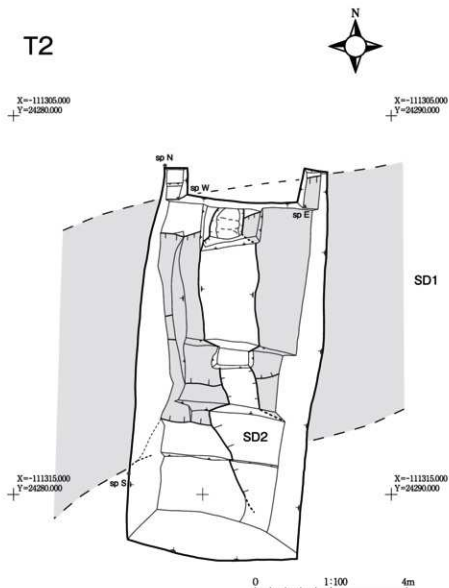


図44 T2平面図

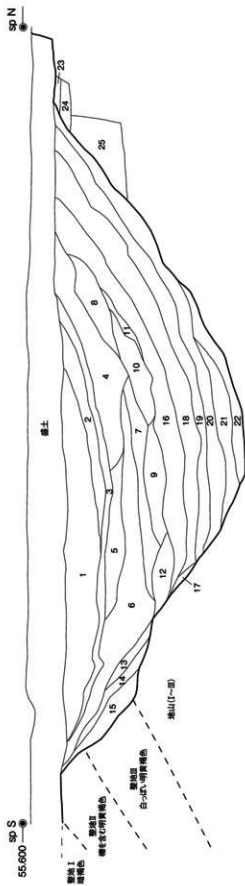
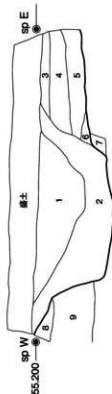


図45 T2 断面図

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 近代遺土 25YR6/6 黄色
2 近代遺土 25YR4/4 黄褐色土
3 近代遺土 25YR3/4 黄褐色土
4 自然堆積腐植土が等しい
5 自然堆積腐植土が等しい
6 自然堆積腐植土が等しい
7 自然堆積腐植土が等しい
8 自然堆積腐植土が等しい
9 腐植土が多くなる
10 腐植土が多くなる
11 自然堆積腐植土が多くなる
12 自然堆積腐植土が多くなる | 13 腐植土の腐植土 25Y7/6 明黄褐色
14 腐植土の腐植土 25Y6/4 に近い黄色
15 腐植土の腐植土 25YR4/4 黄褐色
16 腐植土の腐植土 25YR3/6 黄褐色
17 腐植土の腐植土 25YR2/6 黄褐色
18 腐植土の腐植土 10YR2/6 明黄褐色土
19 腐植土の腐植土 10YR3/4 に近い黄褐色土
20 腐植土の腐植土 25Y7/6 明黄褐色土
21 腐植土の腐植土 25Y6/4 に近い黄色
22 腐植土の腐植土 25Y5/2 に近い黄褐色土
23 腐植土の腐植土 25Y4/2 明黄褐色
24 腐植土 25YR6/6 黄色
25 腐植土 25Y4/2 明黄褐色 | 1 近代遺土 25YR6/6 黄色
2 近代遺土 25YR4/4 黄褐色土
3 近代遺土 25YR3/4 黄褐色土
4 自然堆積腐植土が等しい
5 自然堆積腐植土が等しい
6 自然堆積腐植土が等しい
7 自然堆積腐植土が等しい
8 自然堆積腐植土が等しい
9 腐植土が多くなる
10 腐植土が多くなる
11 自然堆積腐植土が多くなる
12 自然堆積腐植土が多くなる | 13 腐植土の腐植土 25Y7/6 明黄褐色
14 腐植土の腐植土 25Y6/4 に近い黄色
15 腐植土の腐植土 25YR4/4 黄褐色
16 腐植土の腐植土 25YR3/6 黄褐色
17 腐植土の腐植土 25YR2/6 黄褐色
18 腐植土の腐植土 10YR2/6 明黄褐色土
19 腐植土の腐植土 10YR3/4 に近い黄褐色土
20 腐植土の腐植土 25Y7/6 明黄褐色土
21 腐植土の腐植土 25Y6/4 に近い黄色
22 腐植土の腐植土 25Y5/2 に近い黄褐色土
23 腐植土の腐植土 25Y4/2 明黄褐色
24 腐植土 25YR6/6 黄色
25 腐植土 25Y4/2 明黄褐色 |
|---|---|---|---|



- | | |
|--|---|
| 1 SD2 25Y7/6 明黄褐色土
2 SD2 25YR4/4 近い黄色
3 SD1 SD1 19黄褐色土
4 SD1 SD1 19黄褐色土
5 SD1 SD1 腐植土に近いがSD1の腐植土
6 SD1 SD1 20黄褐色土
7 腐植土 23黄褐色土
8 腐植土 25黄褐色土
9 腐植土 25黄褐色土 | 1 人の土層で腐植土がほとんどない
2 腐植土がほとんどない
3 腐植土がほとんどない
4 腐植土がほとんどない
5 腐植土がほとんどない
6 腐植土がほとんどない
7 腐植土がほとんどない
8 腐植土がほとんどない
9 腐植土がほとんどない |
|--|---|



大の石を多く含んでおり、斜面上部からの崩落とみられる。遺物は少ないが、19層以下の下層から12世紀代とみられるかわかけ片が少量出土している。また、斜面下方にあたる範囲の土層には(17層)、一部で南側からの流入による土層が確認できる。また、13-15層は地山ブロックなども含み、斜面下方に現状では確認できないが、地山ブロックを用いた人為的な整地層があった可能性が高い。関連する土層として、SD1の斜面下方は黄褐色土の地山土もしくは整地上が斜面方向に傾斜して堆積している。土質はこの範囲の地山土にあたる黄褐色の粘質土である。ブロック状の地山粒が確認できる部分もあるが、斜面下方への崩落によるものか人為的な整地によるものかはこの範囲では確定できない。地点は離れるものの7次調査では同様の範囲を掘削時のものとみられる土層で整地しており、この範囲についても周囲の様相からは斜面下方を整地により造成して平坦な範囲を形成した可能性がある。3層は旧表土とみられる黒褐色土層で、それより上層は近世以降の露土層である。

③ 調査成果の概要

高館跡が所在する丘陵中腹で規模の大きな堀跡であるSD1を確認することができた。遺物は少ないが、12世紀代に限定されており、これまで得られている成果からは当該時期の遺構の可能性が高いと判断できる。今後の調査でこの堀跡の位置を確認し、圍繞された範囲を特定していくことが必要と考えられる。また圍繞された内部の平坦な地形をもつ範囲でもトレンチを設定し調査を行った。この範囲では12世紀代の遺物の出土もあり、時期には不明な点が残るが遺構の分布は確認できた。ただし、調査への地形的な制約も大きく、不明な点が多く残されている。

なお、既述の通り高館跡の正式な報告は調査終了後に行う予定とし、遺物の報告や遺構とその全体の位置づけはその際に行うこととしたい。

(櫻井)

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 空室 3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡-第56次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2010a 『柳之御所遺跡-第69次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2010b 『柳之御所遺跡-第I期保存整備事業報告書』岩手県文化財調査報告書第131集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡-第70次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡-第72次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県教育委員会 2014 『柳之御所遺跡-第74次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第140集
- 岩手県教育委員会 2015 『柳之御所遺跡-第75次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第144集
- 岩手県教育委員会 2016 『柳之御所遺跡-第76次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第147集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡X V-陶磁器分類編-』太宰府市の文化財第49集
- 林 正之 2010 『古代における鉄製鋸歯の研究』『東京大学考古学研究所研究紀要』第24号 pp.65-125
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書-第35次調査概報-』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書-柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査-』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- 前川伸代 2007 『「聖地」平泉』『平泉文化研究年報』第7号 岩手県教育委員会 pp.15-30
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古岡の講 中世のやきもの』
- 八重樫忠郎 2010 『消費地からの稲美権年』『稲美半島の考古学』小野田勝一先生追悼論文集 pp.289-299
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 『柳之御所遺跡堀内部地区の遺構変遷(中間報告 その4)』平泉文化研究年報 第8号 pp.65-75

表9-1 遺物観察表(かわらけ)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72													
遺物名	区	遺物名	グラフィック	土層	口徑	径	高さ	厚(平均)	色	形状	特徴	備考	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	19.20	-	3.4	-	30	2.5YR8/2R白	77R0A7																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	19.20	(12.1)	3.4	(7.1)	43	2.5YR7/4灰青	77R0A4																																																																								
ロタロ大	山	21SD1	8c	-	100	18	-	(1.9)	(6.0)	20	2.5YR7/2R白	77R0A5																																																																								
ロタロ小	南	21SD1	8c	-	100	19.30	8.5	1.3	6.4	50	1.5YR7/4(1.5)青	77R0A8																																																																								
ロタロ小	山	21SD1	8c	-	100	19.20	(8.4)	1.6	(6.4)	90	2.5YR7/2R白	77R0A19																																																																								
ロタロ小	山	21SD1	8c	-	100	19.20	-	(0.9)	(5.7)	-	2.5Y7/3灰青	77R0A52																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	19.20	(13.7)	2.6	-	40	3Y7/2R白	77R0A23																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	19.20	(18.7)	2.1	-	13	2.5YR7/3灰青	77R0A21																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	19.20	(12.1)	2.0	-	33	2.5YR7/3灰青	77R0A25																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	19.20	(13.3)	(2.0)	-	20	2.5YR7/2R白	77R0A26																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	19.20	-	2.8	-	13	2.5Y7/2R白	77R0A46																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	19.30	(12.0)	3.0	-	43	7.5YR8/4成灰粒	77R0A48																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	19.20	13.6	2.2	-	50	10YR8/3成青粒	77R0A67																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	18	-	2.3	-	20	2.5YR7/3灰青	77R0A56																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	18	-	(2.1)	-	3	5YR7/2R白	77R0A103																																																																								
子づくね小	山	21SD1	8c	-	100	19.20	(5.3)	2.2	-	33	2.5Y7/3灰青	77R0A15																																																																								
子づくね小	南	21SD1	8c	-	100	19.20	(7.4)	1.3	-	40	2.5YR7/2R白	77R0A17																																																																								
子づくね小	南	21SD1	8c	-	100	18	-	(1.9)	-	3	2.5YR7/2R白	77R0A126																																																																								
ロタロ大	山	21SD1	-	-	17	-	(3.0)	-	-	-	10YR8/4成青粒	77R0A5																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	-	-	17	(15.1)	3.8	(8.0)	35	5YR8/4成青	77R0A6																																																																									
ロタロ大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(13.3)	3.3	(6.2)	63	3YR7/6青	77R0A1																																																																								
ロタロ大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(13.7)	3.8	(5.2)	40	黄3YR5/1青灰 黄7.5YR8/2R白	77R0A2																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	14-17	3.7	2.0	-	30	2.5YR7/1R白	77R0A3																																																																								
ロタロ大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(11.4)	3.0	(7.7)	30	2.5YR7/4成青	77R0A4																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	14 17	-	0.9	(7.2)	10	3YR7/6青	77R0A58																																																																								
ロタロ小	山	21SD1	-	-	17	(8.4)	2.0	(6.0)	47	7.5YR7/4成	77R0A13																																																																									
ロタロ小	山	21SD1	8c	-	100	14-17	-	(1.3)	5.8	50	5YR7/2R白	77R0A11																																																																								
ロタロ小	南	21SD1	8c	-	100	14 17	(9.9)	(1.3)	(6.0)	43	10YR7/2(1.5)成青粒	77R0A9																																																																								
ロタロ小	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(8.4)	(1.6)	(6.1)	43	10YR7/2(1.5)成青粒	77R0A10																																																																								
ロタロ小	南	21SD1	8c	-	100	14 17	-	(1.4)	5.3	10	2.5YR7/2R白	77R0A54																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	14-17	(13.4)	(2.7)	-	43	2.5YR7/3灰青	77R0A27																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(18.2)	(1.9)	-	43	2.5YR7/2R白	77R0A28																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	14 17	-	3.8	-	55	2.5YR7/2R白	77R0A29																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(11.9)	2.1	-	30	3YR7/1R白	77R0A30																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(10.3)	2.0	-	55	2.5YR7/3灰青	77R0A31																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	14 17	-	3.7	-	53	10YR8/2成青粒	77R0A33																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	-	2.3	-	33	2.5YR7/2R白	77R0A35																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	14 17	(12.1)	2.4	-	15	2.5YR7/2R白	77R0A34																																																																								
子づくね大	南	21SD1	8c	-	100	14-17	(13.2)	(2.8)	-	40	2.5YR7/2R白	77R0A35																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(14.4)	2.8	-	30	2.5Y7/2R白	77R0A36																																																																								
子づくね大	南	21SD1	-	-	14 17	(13.0)	(1.5)	-	53	10YR8/2成	77R0A37																																																																									
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(13.7)	2.6	-	20	10YR8/2成白	77R0A39																																																																								
子づくね大	山	21SD1	8c	-	100	14-17	14.3	3.2	-	60	2.5YR7/1R白	77R0A38																																																																								
子づくね小	南	21SD1	-	-	14 17	(9.2)	(1.5)	-	40	2.5YR8/1成灰	77R0A38																																																																									
子づくね小	山	21SD1	8c	-	100	14-17	(8.4)	1.6	-	40	3Y7/2R白	77R0A55																																																																								
内折れ	南	21SD1	-	-	17	-	0.9	-	-	10	3YR7/6青	77R0A5																																																																								
内折れ	南	21SD1	8c	-	100	14-17	1.1	1.1	10	2.5Y7/3灰青	77R0A49																																																																									
内折れ	山	21SD1	8c	-	100	14-17	-	1.0	-	20	2.5Y7/2R白	77R0A50																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	14	-	(1.5)	-	10	2.5YR8/4成灰粒	77R0A13																																																																								
ロタロ大	山	21SD1	8c	-	100	10-11	(13.3)	3.3	(7.2)	33	黄3YR7/4成 黄7.5YR7/2成成灰	77R0A59																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	10-11	(13.4)	3.3	7.2	65	3YR6/6成	77R0A60																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	10-14	(13.7)	3.4	(7.4)	48	7.5YR7/4成	77R0A61																																																																								
ロタロ大	山	21SD1	8c	-	100	10-11	(12.3)	3.2	(6.3)	40	2.5YR7/6成	77R0A62																																																																								
ロタロ大	南	21SD1	8c	-	100	10 11	(12.0)	3.2	(6.0)	20	1.5YR7/6成	77R0A63																																																																								
ロタロ小	南	21SD1	8c	-	100	10-11	(8.4)	1.9	(6.1)	40	3YR7/6成	77R0A64																																																																								

表9-2 遺物観察表(かわらけ)

	産地名	区	遺物名	タリヤ	層	口径	胎高	底径	厚(平均)	色調	記録番号	備考		
73	ワタリ小	南	2ISD1	81	-	105	10	8(3.9)	1.5	(6.1)	25	5Y3/2黄	770K111	
74	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	(13.2)	2.4	-	65	5Y7/2黄	770K77	
75	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	14	-	2.7	-	20	5Y8/2灰白	770K14	
76	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	(17.0)	2.2	-	15	2.5Y8/2黄	770K15	
77	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	-	2.2	-	20	5Y8/2灰白	770K16	
78	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	14	(13.0)	2.0	-	30	2.5Y8/2黄	770K17	
79	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	(12.4)	(2.0)	-	30	2.5Y7/2黄	770K18	
80	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	14	-	2.0	-	15	5Y8/2灰白	770K19	
81	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	14	-	2.1	-	10	2.5Y7/2黄	770K20	
82	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	(12.5)	2.3	-	10	2.5Y8/2灰白	770K21	
83	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	(13.5)	2.8	-	35	2.5Y8/2灰白	770K22	
84	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	-	2.9	-	15	2.5Y8/2灰白	770K24	
85	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	-	2.5	-	15	2.5Y8/2黄	770K25	
86	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	14	-	(2.0)	-	30	2.5Y7/2黄	770K25	
87	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	-	(1.4)	-	20	10Y8/2灰白	770K55	うるし付輪
88	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	-	(2.0)	-	15	2.5Y8/2黄	770K86	
89	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	14	(13.0)	(1.7)	-	35	2.5Y8/2灰白	770K90	
90	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	(13.0)	3.0	-	26	2.5Y8/2灰白	770K91	
91	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	14.0	3.1	-	45	5Y8/2灰白	770K92	
92	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	(17.8)	2.8	-	40	2.5Y8/2灰白	770K93	
93	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	(10.4)	(2.0)	-	15	5Y7/2灰白	770K100	
94	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	14	(12.0)	(2.1)	-	30	2.5Y7/2黄	770K101	
95	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	14	-	(2.0)	-	15	5Y7/2灰白	770K102	
96	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	12	-	2.0	-	10	5Y8/2灰白	770K94	
97	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	10-14	-	1.6	-	25	5Y7/2灰白	770K98	
98	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	10-14	13.0	2.8	-	40	5Y7/2黄	770K99	
99	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10-14	(11.1)	3.1	-	45	5Y7/2灰白	770K70	
100	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	-	3.2	-	35	2.5Y8/2黄	770K71	
101	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10-14	13.0	2.8	-	98	2.5Y8/2黄	770K72	
102	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	10-14	12.6	2.5	-	85	2.5Y7/2黄	770K73	
103	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	(13.5)	2.8	-	46	2.5Y8/2黄	770K74	
104	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10-14	(13.2)	3.1	-	21	2.5Y7/2黄	770K75	
105	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	-	2.6	-	30	5Y7/2黄	770K16	
106	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10-14	(11.8)	2.6	-	20	5Y7/2灰白	770K77	
107	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10-14	(13.6)	2.0	-	28	5Y7/2灰白	770K78	
108	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	(17.8)	2.7	-	55	2.5Y8/2黄	770K79	
109	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10-14	(12.7)	2.7	-	28	10Y8/2黄	770K80	
110	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	10-14	(12.8)	2.7	-	56	2.5Y8/2灰白	770K81	
111	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	(12.6)	3.1	-	52	2.5Y8/2黄	770K82	
112	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10-14	13.7	2.6	-	99	5Y8/2灰白	770K83	
113	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10-14	14.2	3.0	-	95	2.5Y7/2黄	770K84	
114	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10-14	(13.2)	2.6	-	30	2.5Y8/2灰白	770K85	
115	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10	(13.4)	(3.0)	-	45	2.5Y8/2黄	770K117	
116	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10	(14.5)	(2.6)	-	20	2.5Y8/2灰白	770K120	
117	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10	(14.4)	(2.6)	-	20	10Y8/2灰白	770K121	
118	子づくね大	南	2ISD1	81	-	105	10	(12.8)	(2.0)	-	15	10Y8/2灰白	770K131	
119	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10	(14.2)	2.5	-	20	10Y8/2灰白	770K132	
120	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10	(13.0)	2.6	-	45	2.5Y8/2黄	770K133	
121	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10	(12.3)	2.6	-	35	2.5Y8/2灰白	770K134	
122	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10	(12.9)	2.5	-	50	5Y7/2灰白	770K135	
123	子づくね大	山	2ISD1	81	-	105	10	(13.0)	3.0	-	45	2.5Y8/2灰白	770K136	
124	子づくね大	南	2ISD1	84	-	105	10	(12.3)	2.8	-	35	10Y8/2黄	770K137	
125	子づくね大	山	2ISD1	81	-	103	10	14.6	(1.8)	-	30	2.5Y7/2黄	770K138	
126	子づくね小	南	2ISD1	81	-	105	14	(7.4)	(1.5)	-	25	10Y8/2灰白	770K14	
127	子づくね小	南	2ISD1	81	-	105	14	-	1.5	-	10	2.5Y7/2黄	770K53	

表9-3 遺物観察表(かわらけ)

遺物名	区	遺物名	グラフィック	土層	口徑	容積	数量	残存率(%)	色澤	特徴	備考	
128	千塚小	南	21SD1	8	105	10.14	(8.1)	1.6	-	30	10YR8/3黄赤	77R0435
129	千塚小	南	21SD1	8	105	10-14	(8.3)	1.6	-	40	2.5Y7/3黄	77R06
130	千塚小	山	21SD1	8	105	10-14	(7.7)	1.6	-	38	10YR6/2黄赤	77R039
131	千塚小	南	21SD1	8	105	10-14	(9.3)	1.6	-	30	5Y7/2赤	77R049
132	千塚小	山	21SD1	8	105	10-14	(7.2)	1.1	-	23	5Y7/3黄	77R041
133	千塚小	山	21SD1	8	105	10-14	(9.6)	1.7	-	43	2.5Y7/4黄赤	77R038
134	千塚小	南	21SD1	8	105	10	(8.8)	(1.4)	-	60	2.5Y7/2黄赤	77R043
135	内新丸	山	21SD1	8	105	12-13	-	6.9	-	10	10YR8/2灰白	77R0146
154	ロクロ大	南	21SD1	8	105	1	-	-	-	13	10YR7/1.5灰黄赤	77R04152
155	ロクロ小	南	21SD1	8	105	8-10	8.6	1.7	(3.6)	72	7.5YR8/4黄赤	77R0108
156	ロクロ小	山	21SD1	8	105	8-10	9.5	2.2	6.2	97	10YR8/3黄赤	77R0101
157	ロクロ	南	21SD1	8	105	6	-	-	-	3	7.5YR8/2灰白	77R04151
158	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(13.3)	2.7	-	20	2.5YR/2灰白	77R0412
159	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(12.8)	2.2	-	40	10YR8/3黄赤	77R0413
160	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(11.9)	(2.3)	-	40	2.5Y7/2黄赤	77R0414
161	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(13.0)	(2.3)	-	70	7.5YR8/4黄赤	77R0415
162	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(13.4)	(3.1)	-	60	10YR8/4黄赤	77R0416
163	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(11.9)	(2.8)	-	33	2.5YR/2灰白	77R0418
164	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(12.7)	3.5	-	20	10YR8/3黄赤	77R0419
165	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(12.6)	3.4	-	60	2.5YR/2黄赤	77R0420
166	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(14.2)	2.2	-	33	2.5YR/2灰白	77R0421
167	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(12.8)	3.1	-	27	5Y7/2赤	77R0422
168	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(13.3)	2.5	-	43	5Y7/2灰白	77R0423
169	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(13.3)	2.6	-	33	10YR8/3黄赤	77R0424
170	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(13.4)	3.6	-	27	2.5YR/2灰白	77R0425
171	千塚大	南	21SD1	8	105	8-10	(14.0)	(2.7)	-	43	10YR8/2灰白	77R0427
172	千塚大	山	21SD1	8	105	8-10	(12.4)	(1.9)	-	20	2.5YR/2灰白	77R0428
173	千塚大	南	21SD1	8	105	6	-	(3.7)	-	30	5YR/1赤	77R0429
174	千塚大	山	21SD1	8	105	6	-	2.6	-	10	2.5YR/2黄赤	77R0432
175	千塚大	南	21SD1	8	105	3-4	13.4	2.4	-	38	2.5Y7/3黄赤	77R0456
176	千塚大	南	21SD1	8	105	3-4	(11.4)	(2.3)	-	23	2.5Y7/2黄赤	77R0457
177	千塚大	山	21SD1	8	105	3-4	(14.0)	3.0	-	23	5Y7/2赤	77R0458
178	千塚大	南	21SD1	8	105	3-4	(12.5)	3.3	-	47	2.5Y7/3黄赤	77R0459
179	千塚大	山	21SD1	8	105	3-4	(11.4)	2.1	-	26	5Y7/2灰白	77R0461
180	千塚大	山	21SD1	8	105	3-4	(12.3)	2.4	-	18	5Y7/2赤	77R0467
181	千塚大	南	21SD1	8	105	1	(14.9)	(1.7)	-	40	10YR8/2灰白	77R0453
182	千塚大	山	21SD1	8	105	1	(13.4)	(3.3)	-	20	2.5YR/2灰白	77R0464
183	千塚大	南	21SD1	8	105	1	(12.0)	(2.7)	-	43	2.5YR/2灰白	77R0455
184	千塚大	南	21SD1			西暦タリーニエツ	(11.9)	2.2	-	20	2.5YR8/3黄赤	77R0480
185	千塚大	山	21SD1			西暦タリーニエツ	(11.0)	(2.3)	-	13	5YR/1赤	77R0471
186	千塚小	南	21SD1	8	105	9	(9.0)	(1.4)	-	23	10YR8/2灰白	77R0469
187	千塚小	山	21SD1	8	105	8-10	(8.9)	1.7	-	43	7.5YR8/3黄赤	77R0438
188	千塚小	山	21SD1	8	105	8-10	(9.0)	(1.3)	-	20	2.5YR/2黄赤	77R0439
189	千塚小	南	21SD1	8	105	8-10	(9.4)	1.8	-	63	5Y7/2赤	77R0440
190	千塚小	山	21SD1	8	105	8-10	(8.9)	1.8	-	83	10YR7/2.5灰黄赤	77R0441
191	千塚小	南	21SD1	8	105	3-4	(8.6)	1.5	-	48	2.5Y7/3黄赤	77R0463
192	千塚小	南	21SD1	8	105	3-4	(9.4)	1.8	-	26	2.5Y6/2黄赤	77R0465
193	千塚小	山	21SD1	8	105	3-4	(9.0)	1.9	-	25	5Y7/2赤	77R0466
194	千塚小	南	21SD1	8	105	3-4	-	(1.7)	-	30	2.5Y7/3黄赤	77R0468
195	千塚小	山	21SD1	8	105	1	(8.4)	1.2	-	21	2.5Y7/2黄赤	77R0461
196	千塚小	山	21SD1	8	105	1	(8.4)	1.6	-	40	5Y7/2赤	77R0462
197	千塚小	南	21SD1			西暦タリーニエツ	(8.4)	(1.7)	-	40	2.5Y7/2黄赤	77R0470
198	内新丸	山	21SD1	8	105	6	(9.0)	6.9	-	23	2.5Y7/3黄赤	77R0465
199	内新丸	南	21SD1	8	105	6	(7.4)	1.1	-	40	2.5YR/2灰白	77R0444
200	内新丸	南	21SD1	8	105	6	(9.9)	(3.9)	-		2.5Y6/1.5灰黄	77R0474

表9-4 遺物観察表(かわらけ)

番号	産地名	区	遺物名	タリヤ	寸法	口径	胎高	底径	取手径(%)	色調	記録番号	備考	
201	大野丸	南	21SD1	81	-	105	5.6	-	(11.0)	-	2.5V7/296黄	7780A173	
202	大野丸	南	21SD1	84	-	103	4	-	(1.2)	-	2.5V7/296黄	7780A175	
205	ロタロ大	山	21SD2	-	-	-	-	-	-	15	2.5V8/296白	7780A182 T1	
207	ワタリ小	南	21SD9	-	-	-	-	-	(5.8)	15	2.5V8/296白	7780A181 T1	
208	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	114.2	(2.5)	-	25	2.5V7/296黄	7780A188 T1	
209	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	112.0	2.5	-	45	10V8/296黄橙	7780A189 T1	
200	子づくね大	南	21SD2	-	-	-	114.1	2.6	-	29	2.5V8/296白	7780A190 T1	
201	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	111.1	-	(1.1)	-	5V8/296白	7780A191 T1	
202	子づくね大	南	21SD2	-	-	-	112.0	2.5	-	30	10V8/296黄橙	7780A192 T1	
203	子づくね大	南	21SD2	-	-	-	112.9	2.1	-	27	2.5V8/296白	7780A193 T1	
204	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	111.9	2.6	-	28	10V8/296黄橙	7780A207 T1	
205	子づくね大	南	21SD9	-	-	-	113.4	2.7	-	29	5V7/296白	7780A208 T1	
206	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	111.1	-	-	-	2.5V8/296白	7780A209 T1	
207	子づくね小	山	21SD2	-	-	-	108.0	1.5	-	30	2.5V7/296黄	7780A210 T1	
408	子づくね小	南	21SD2	-	-	-	40	(8.0)	2.1	62	2.5V4/296黄	7780A214 T2	
409	子づくね小	山	21SD2	-	-	-	40	(7.0)	1.4	-	26	5V7/296白	7780A215 T2
410	ワタリ小	南	21SD2	-	-	-	34	8.2	1.5	5.0	88	10V8/296黄橙	7780A187 T2
411	ロタロ大	南	21SD2	-	-	-	114	-	-	-	5V6/1既	7780A183 T2	
412	ロタロ大	南	21SD2	-	-	-	116	-	-	(8.0)	2.5V8/296白	7780A180 T2	
413	ワタリ大	南	21SD9	-	-	-	114.1	(2.2)	(2.2)	(2.8)	40	2.5V8/296白	7780A177 T2
414	ロタロ大	山	21SD2	-	-	-	111.1	-	-	-	20	10V8/296黄橙	7780A178 T2
415	ワタリ大	山	21SD2	-	-	-	6	(11.0)	(3.0)	(7.0)	40	2.5V8/296白	7780A179 T2
416	ロタロ小	南	21SD2	-	-	-	114.1	(1.8)	(1.6)	-	20	2.5V8/296白	7780A212 T2
417	ロタロ小	山	21SD2	-	-	-	111.1	(8.0)	(1.0)	(6.1)	30	10V8/296黄橙	7780A181 T2
418	ワタリ小	南	21SD2	-	-	-	112.1	1.6	(6.1)	40	2.5V8/296白	7780A185 T2	
419	ロタロ小	南	21SD2	-	-	-	9	8.2	2.0	6.3	85	2.5V8/296黄橙	7780A188 T2
420	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	112.1	2.5	-	30	5V7/296白	7780A202 T2	
421	子づくね大	南	21SD9	-	-	-	111.1	1.4	-	40	2.5V8/296黄	7780A205 T2	
422	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	111.1	3.0	-	10	2.5V5/296黄	7780A203 T2	
423	子づくね大	南	21SD2	-	-	-	116	(12.0)	2.2	-	27	5V7/296白	7780A204 T2
424	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	111.1	-	-	-	25	5V7/296白	7780A197 T2
425	子づくね大	南	21SD9	-	-	-	8	-	(2.4)	-	40	2.5V7/296黄	7780A180 T3
427	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	6	11.1	2.6	-	40	2.5V8/296白	7780A199 T2
428	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	6	(13.0)	2.1	-	20	10V8/296黄橙	7780A200 T2
429	子づくね大	南	21SD9	-	-	-	5	(12.0)	(2.7)	-	50	2.5V8/296白	7780A201 T2
430	子づくね小	山	21SD2	-	-	-	114.1	(2.2)	1.7	-	26	2.5V7/296黄	7780A218 T2
431	子づくね小	南	21SD2	-	-	-	7	(9.2)	1.8	-	34	2.5V7/296黄	7780A211 T2
432	子づくね大	南	21SD2	-	-	-	114.1	(1.8)	-	-	20	2.5V7/296黄	7780A194 T2
433	子づくね大	山	21SD2	-	-	-	114.1	-	-	-	-	10V8/296黄橙	7780A186 T2
434	子づくね大	南	21SD9	-	-	-	112.0	2.7	-	47	2.5V7/296黄	7780A196 T2	
435	ロタロ大	北	77SK1	-	-	-	13.5	3.1	6.8	80	10V8/296黄橙	7780A225 T2	
436	ロタロ小	北	77SK1	-	-	-	9	(9.2)	1.8	(6.1)	45	2.5V7/296黄	7780A220 T2
437	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	12.5	3.4	-	99	2.5V7/296黄	7780A224 T2
432	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	(13.0)	3.0	-	35	5V7/296白	7780A229 T2
433	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	12.8	3.0	-	98	10V8/296黄橙	7780A231 T2
434	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	14.9	3.4	-	86	2.5V7/296黄	7780A232 T2
435	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	13.0	2.7	-	87	10V8/296黄橙	7780A223 T2
436	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	12.0	2.3	-	86	5V7/296白	7780A234 T2
437	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	13.2	3.0	-	96	2.5V7/296黄	7780A226 T2
438	子づくね大	北	77SK1	-	-	-	9	14.0	2.9	-	98	5V7/296白	7780A222 T2
439	子づくね小	北	77SK1	-	-	-	9	8.8	1.9	-	100	2.5V8/296黄	7780A240 T2
440	子づくね小	北	77SK1	-	-	-	9	(9.0)	2.1	-	43	2.5V6/296黄	7780A211 T2
461	子づくね小	北	77SK1	-	-	-	9	(9.1)	2.0	-	99	2.5V7/296黄	7780A2-2
462	ロタロ大	北	77SK1	-	-	-	9	-	(1.0)	8.0	50	2.5V7/296黄	7780A2-3

表9-5 遺物観察表(かわらけ)

図番	遺物名	区	遺物名	グラフィック	土層	門値	容積	数量	積在中(%)	色	質	登録番号	備考	
463	ロタロ大	北	775K1	—	2-3	—	(1.1)	7.2	35	5Y7/0黄	—	77K0L216		
464	ロタロ大	北	775K1	—	2-3	(15.4)	3.3	9.0	60	10YR7/4に赤い黄緑	—	77K0L218		
465	ロタロ小	北	775K1	—	2-3	(8.4)	(1.7)	(6.1)	63	7.5YR7/6黄	—	77K0L219		
466	手づくぬ大	北	775K1	—	2-3	(14.1)	2.6	—	50	10YR7/3に赤い黄緑	—	77K0L215		
467	手づくぬ大	北	775K1	—	2-3	(13.4)	2.5	—	80	2.5YR7/6黄	—	77K0L221		
468	手づくぬ大	北	775K1	—	2-3	(14.6)	2.4	—	33	7.5YR8/4黄褐色	—	77K0L222		
469	手づくぬ大	北	775K1	—	2-3	14.4	3.0	—	100	2.5YR7/8灰	—	77K0L225		
470	手づくぬ大	北	775K1	—	2-3	(12.9)	2.5	—	33	10YR7/4に赤い黄緑	—	77K0L226		
471	手づくぬ大	北	775K1	—	2-3	(14.6)	3.0	—	60	2.5YR7/3に赤い黄緑	—	77K0L228		
472	手づくぬ小	北	775K1	—	2-3	(10.4)	2.1	—	20	2.5YR7/8灰	—	77K0L236		
473	手づくぬ小	北	775K1	—	2-3	(10.7)	2.0	—	47	2.5YR7/8白	—	77K0L227		
474	手づくぬ小	北	775K1	—	2-3	(9.4)	1.8	—	40	3.5Y7/0黄	—	77K0L237		
475	手づくぬ小	北	775K1	—	2-3	(8.4)	1.7	—	96	7.5YR7/4に赤い黄	—	77K0L238		
476	手づくぬ小	北	775K1	—	2-3	(8.4)	2.0	—	99	10YR8/3黄褐色	—	77K0L239		
477	内筒丸	北	775K1	—	2-3	—	10.6	—	10	2.5YR7/8白	—	77K0L244		
478	ロタロ大	北	PP1	—	横田野	—	(2.4)	—	20	7.5YR7/4に赤い黄	—	77K0L245		
479	ロタロ大	北	PP1	—	横田野	—	(3.0)	—	20	7.5YR7/4に赤い黄	—	77K0L246		
480	手づくぬ大	北	PP1	—	横田野	—	—	—	13	10YR7/3に赤い黄	—	77K0L250		
481	手づくぬ大	北	PP12	—	横田野	(13.0)	(3.4)	—	30	10YR8/3黄	—	77K0L249		
482	ロタロ小	北	PP19	—	横田野	(8.7)	(1.7)	(4.4)	43	7.5YR7/4に赤い黄	—	77K0L247		
483	ロタロ小	北	PP15	—	横田野	(8.4)	(1.3)	(6.4)	43	7.5YR7/4に赤い黄	—	77K0L248		
484	手づくぬ大	北	PP12-2	—	横田野	—	—	—	13	3.5Y7/0黄	—	77K0L251		
485	手づくぬ大	北	PP12-2	—	横田野	(12.8)	(2.3)	—	12	10YR8/3黄褐色	—	77K0L253		
486	手づくぬ大	北	PP14	—	横田野	(12.0)	(2.2)	—	20	10YR7/2に赤い黄	—	77K0L254		
487	手づくぬ大	北	PP19	—	横田野	—	—	—	20	3.5Y7/0黄	—	77K0L255		
488	手づくぬ大	北	PP15	—	横田野	—	—	—	10	10YR8/3黄褐色	—	77K0L256		
490	ロタロ大	北	85	—	102	■	(15.4)	(4.1)	(6.4)	13	7.5YR7/4に赤い黄	—	77K0L257	
493	ロタロ大	北	82	—	102	■	(12.7)	(3.4)	(6.4)	33	10YR7/4に赤い黄緑	—	77K0L258	
494	ロタロ大	北	85	—	102	■	(14.4)	3.5	(7.7)	33	7.5YR8/4黄褐色	—	77K0L259	
495	ロタロ大	北	85	—	102	■	(15.1)	3.7	(7.7)	63	7.5Y7/0黄	—	77K0L260	
496	ロタロ小	北	85	—	102	■	8.4	1.9	4.0	97	10YR7/4に赤い黄緑	—	77K0L261	
497	ロタロ小	北	85	—	102	■	—	(1.3)	—	10	10YR6/3に赤い黄	—	77K0L262	
498	ロタロ小	北	85	—	102	■	(5.0)	(1.4)	(5.0)	20	7.5YR8/4黄褐色	—	77K0L263	
499	ロタロ小	北	85	—	102	■	(8.4)	1.8	(3.8)	43	10YR7/4に赤い黄	—	77K0L264	
500	ロタロ小	北	85	—	102	■	(7.9)	1.3	(6.3)	43	7.5YR6/3に赤い黄	—	77K0L265	
501	ロタロ小	北	85	—	102	■	8.0	2.0	4.0	90	10YR7/2に赤い黄	—	77K0L266	
502	ロタロ小	北	85	—	102	■	(8.4)	1.6	(6.4)	63	10YR7/4に赤い黄	—	77K0L267	
503	ロタロ小	北	85	—	102	■	9.2	1.6	6.7	13	10YR7/3に赤い黄	—	77K0L268	
504	ロタロ小	北	85	—	102	■	(7.4)	1.7	3.0	23	5YR7/0黄	—	77K0L269	
505	ロタロ小	北	85	—	102	■	7.8	1.3	3.6	94	2.5YR6/4黄	—	77K0L270	
506	ロタロ小	北	85	—	102	■	(8.4)	1.6	(6.3)	38	10YR7/4に赤い黄	—	77K0L271	
507	手づくぬ大	北	85	—	102	■	—	—	—	—	2.5Y7/0黄	—	77K0L272	
508	手づくぬ大	北	85	—	102	■	(13.4)	2.4	—	49	10YR8/3黄褐色	—	77K0L273	
509	手づくぬ大	北	85	—	102	■	(14.2)	2.7	—	20	10YR7/2に赤い黄	—	77K0L274	
510	手づくぬ大	北	85	—	102	■	(14.2)	2.5	—	20	10YR8/3黄褐色	—	77K0L275	
511	手づくぬ大	北	85	—	102	■	(14.6)	3.0	—	37	10YR8/3黄褐色	—	77K0L276	
512	手づくぬ大	北	82	—	100	■	(14.2)	2.6	—	20	10YR8/3黄褐色	—	77K0L277	
513	手づくぬ大	北	82	—	101	■	(13.8)	2.8	—	33	2.5Y7/0黄	—	77K0L278	
514	手づくぬ大	北	85	—	102	■	横田野	—	—	—	3.5Y4/0黄	—	77K0L279	
515	手づくぬ小	北	85	—	102	■	(9.4)	1.7	—	47	10YR7/3に赤い黄	—	77K0L280	
516	手づくぬ小	北	85	—	102	■	(10.6)	2.1	—	38	10YR7/4に赤い黄	—	77K0L281	
517	内筒丸	北	85	—	102	■	—	1.8	(2.0)	10	10YR7/2に赤い黄	—	77K0L282	
518	内筒丸	北	85	—	102	■	—	0.4	—	10	5YR7/2白	—	77K0L284	

表10-1 遺物観察表 (国産陶器)

調査番号	科別(産地)	器名	部位	区	位置	グラフ	単位	数量(口)	出所	備考	図録番号	
19	遺土	変体	高	2150H	81	-	106	172.7	N6/6A		80R-158	
20	遺土	変体	高	2150H	81	-	106	181.7	N6/13A		80R-159	
21	奈良	変体	高	2150D	81	-	100	0	変7.5Y7/2灰白 変7.5Y7/1灰白		80R-163	
22	奈良	変体	高	2150D	81	-	106	187	変7.5Y7/2灰白		80R-160	
23	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	16.7	変7.5Y7/1灰白 変7.5Y8/1灰白		80R-181	
24	三河	変体	高	2150D	84	-	100	18	10YR6/1灰白		80R-161	
25	福井県	丸山	高	2150D	84	-	100	19	10YR6/1灰白		80R-162	
26	奈良	変体	高	2150D	81	-	100	18	変7.5Y8/2灰白		80R-165	
27	奈良	変体	高	2150D	81	-	100	10	変7.5Y7/1灰		80R-162	
29	奈良	変体	高	2150D	81	-	106	17	変7.5Y6/1黄灰 変7.5Y6/2黄灰	80R-268(変1(変十)組合)	80R-202	
39	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11-17	22.2	10YR6/1灰白		80R-017
41	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11-17	48.5	10YR6/2黄灰		80R-019
42	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11-17	110.2	N6/6A		80R-020
43	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11-17	25.4	7.5Y8/2灰白		80R-018
6'	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11-17	113	変7.5Y8/2(1)に灰白 変7.5Y8/2(1)に灰白		80R-021
65	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11-17	25.1	変7.5Y8/2(1)に灰白 変7.5Y8/2(1)に灰白		80R-016
130	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	10	46.9	5YR7/2灰		80R-011
137	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	10-14	188.2	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y7/2黄灰		80R-013
138	奈良	変体	高	2150D	81	-	106	11	25	5YR7/2灰		80R-007
139	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	12-13	29.8	5Y7/2灰白		80R-173
140	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	12-13	159.2	5Y7/2灰白		80R-171
141	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	12-13	181.7	7.5Y8/1黄灰		80R-175
142	奈良	変体	高	2150D	84	-	100	12	19.8	変7.5Y8/1黄灰 変7.5Y7/1灰白		80R-176
143	奈良	変体	高	2150D	81	-	100	12	37.6	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-171
145	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	12-13	26.6	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-179
146	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	14	8.2	7.5Y8/1灰白		80R-009
148	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11	16.7	変7.5Y7/2灰白 変7.5Y7/2灰		80R-010
149	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	10	11	7.5Y8/1黄灰		80R-013
150	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	12-13	12.6	10YR6/1灰		80R-178
149	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	11	21.4	7.5Y8/2(1)に灰		80R-011
150	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	10-14	2.8	3Y7/2灰白		80R-014
151	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	13	15.8	7.5Y5/1灰		80R-161
152	奈良	変体	高	2150D	81	-	100	10	6.3	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-763
203	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	9	11.3	7.5Y8/2黄灰		80R-163
204	奈良	変体	高	2150D	84	-	106	9	21.9	7.5Y8/2灰		80R-166
205	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	9	60.2	10YR6/2黄灰		80R-169
206	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	9	25.9	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-167
207	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	9	62.8	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/1黄灰		80R-170
208	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	9	62.5	7.5Y6/2灰		80R-171
209	奈良	変体	高	2150D	84	-	106	9	66.7	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y7/2黄灰		80R-172
210	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	9	66.2	3Y7/1灰白		80R-182
211	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	8	80.3	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-079
212	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	8-10	118.7	7.5Y8/2(1)に灰	80R-311組合	80R-023
213	奈良	変体	高	2150D	81	-	105	8-10	286.3	N6/13A		80R-022
211	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	8-10	72.2	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-025
215	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	50.9	5Y7/2灰		80R-130
216	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	85.9	変7.5Y4/1黄灰 変7.5Y8/1灰白		80R-133
217	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	23.1	7.5Y7/2灰		80R-136
218	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	16	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-138
219	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	41.2	7.5Y8/2(1)に灰		80R-135
220	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	41.2	変7.5Y7/1(1)に灰 変7.5Y7/1(1)に灰		80R-154
221	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	67.7	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y7/1灰白		80R-153
222	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	12.8	3Y7/2灰白		80R-141
223	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	97.4	変7.5Y7/1(1)に灰 変7.5Y8/1灰白		80R-156
224	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	30.1	7.5Y5/2黄灰		80R-157
225	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	5.2	3Y5/2灰白	80R-118組合	80R-056
226	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	11	変7.5Y8/1黄灰 変7.5Y8/2(1)に灰	80R-118組合	80R-069
227	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	33.3	N6/4灰 黄10YR6/1黄灰	80R-548と同一心	80R-164
228	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	7.3	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-170
229	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	3.9	3Y7/2灰		80R-121
230	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	11.6	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y7/1灰		80R-112
231	奈良	変体	高	2150H	81	-	106	6	15.5	変7.5Y8/2(1)に灰 変7.5Y8/2(1)に灰		80R-116
232	奈良	変体	高	2150D	84	-	105	6	58.5	7.5Y8/2灰		80R-068

表10-2 遺物観察表 (国産陶器)

発掘 番号	種類(産品)	燃料名	郡区	区	遺 構	グリッド	材 質	重量 (g)	比 測	特 考	図録番号
253	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 6	134.7	表53/1灰 表53/1灰白	BO-367組合	BO-029
254	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	9.2	10986/2灰黄		BO-071
255	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	4.3	517/2灰白		BO-078
256	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	105 3 4	42.1	表2.516/2灰黄 表57/1灰白		BO-083
257	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	38	表10986/1灰白 表2.516/2灰黄		BO-074
258	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	36.6	表10987/1灰白 表57/2灰白		BO-077
259	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 3 4	25.5	517/1灰白		BO-080
260	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 3 4	46	N7/灰白		BO-083
261	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	105 3 4	12.4	10985/1黄		BO-095
262	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 3-4	86.9	表2.516/2に 表57/2灰白	表57/2灰白	BO-097
263	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	109.3	N5-黄		BO-108
264	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	105 3 4	18.5	表514/1灰 表57/1灰白		BO-099
265	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	24.9	表7.514/2灰 表57/1灰白		BO-104
266	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	116.9	表514/1灰白 表516/1灰	BO-104組合	BO-105
267	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 4	60.2	2.517/1灰白	BO-112組合	BO-111
268	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105	160.6	表7.517/1灰白 表7.516/1灰	BO-112と組合	BO-114
269	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	39.5	N6/灰	BO-112組合	BO-091
270	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 3-4	33	7.516/2に 表57/2灰白	BO-112と組合	BO-093
271	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	22.4	516/2灰黄	BO-112組合	BO-094
272	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	6.6	7.517/1灰白		BO-098
273	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	81.7	516/2/1灰		BO-095
274	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	16.6	516/2灰 表57/2灰白		BO-094
275	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	105 1	24	表516/2灰 表7.516/2灰		BO-097
276	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 1	27.9	2.517/2灰黄		BO-097
277	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	19.4	表516/2灰 表10984/1灰		BO-098
278	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	21.9	表2.516/1灰 表516/1灰		BO-091
279	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	29.9	表516/2に 表2.516/1灰		BO-092
280	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	105 1	36.9	2.516/1灰		BO-093
281	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	56	表2.516/1灰 表2.517/1灰		BO-094
282	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	105 1	37.4	表2.516/2灰 表2.516/2に 表10986/2に 表57/2灰白		BO-095
283	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	19.4	516/1灰		BO-092
284	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	69.5	10985/1灰		BO-093
285	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	6.4	7.517/1灰白		BO-094
286	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	105 1	9.9	表2.516/2灰 表10986/1灰		BO-097
287	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	116.9	表10986/2灰 表10987/2に 表57/2灰白		BO-094
288	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	34.4	表517/1灰 表516/1灰		BO-093
289	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	51.1	表516/2灰 表517/1灰		BO-095
290	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	75.7	N6/1灰		BO-097
291	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	106 1	12.2	7.516/1灰 表2.516/2灰		BO-094
292	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	106 1	12.8	表2.516/2灰 表2.516/2に 表57/2灰白		BO-095
293	煎土	炭	佐 南	215D1	88	-	106 1	61.7	10986/1灰		BO-088
294	片焼	炭	佐 南	215D1	88	-	106 1	43.7	515/1灰		BO-189
295	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	106 1	188.8	表517/2灰 表2.516/2灰		BO-190
296	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	104 1	6.7	516/2灰 表57/2灰白		BO-188
297	煎土	炭	佐 南	215D1	85	-	104 1	35.3	表516/2灰 表2.517/2灰		BO-194
298	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	7.8	表7.516/2灰 表7.516/2に 表57/2灰白		BO-195
299	片焼	炭	佐 山	215D1	85	-	105 1	4.1	表10982/2灰 表516/2灰		BO-196
300	煎土	炭	佐 山	215D1	88	-	105 1	11.3	表517/1灰 表517/2灰		BO-187
301	煎土	炭	佐 南	215D1	85	-	105 1	23.3	7.516/2灰		BO-198
302	煎土	炭	佐 南	215D1	85	-	105 1	5.3	516/2灰		BO-200
303	片焼	炭	佐 南	215D1	85	-	105 1	50.3	表517/1灰 表10987/1灰		BO-201
304	煎土	炭	佐 山	215D1	-	-	1	52	表2.517/2灰 表516/2灰		BO-204
305	煎土	炭	佐 南	215D1	-	-	1	14.1	2.517/1灰		BO-205
306	片焼	炭	佐 南	215D1	-	-	1	75.1	表7.516/1灰 表516/1灰		BO-207
307	煎土	炭	佐 山	215D1	-	-	1	9.7	表7.516/2灰 表10986/1に 表57/2灰白		BO-208
308	片焼	炭	佐 南	215D1	-	-	1	32.3	表516/1灰 表10986/1灰		BO-209
309	片焼	炭	佐 南	215D1	-	-	1	34.7	7.516/2灰		BO-211

表10-3 遺物観察表 (国産陶器)

調査 発掘 番号	科別(産地)	器名	部位	尺	寸 法	グラフ	材 質	重量 (g)	出 所	備考	図解番号
291	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	1	14.4	古10Y8/1色灰 黄5Y7/1灰白		RC-137
292	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	1	7	黄7.5Y8/2黄灰 黄5Y8/1灰		RC-138
293	奈良	甕	作	甕	21SD1	—	1	19.1	3Y7/1灰白		RC-211
294	奈良	甕	胴	甕	21SD1	—	1	7.5	古10Y8/2に濃い黄 黄5Y8/2黄灰		RC-212
295	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	1	36	黄2.5Y8/2黄灰 黄5Y7/1灰白		RC-214
296	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	1	10.2	古10Y8/2黄灰 黄2.5Y7/1灰白		RC-218
297	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	1	10.6	黄10Y8/2に濃い黄 黄10Y8/2に濃い黄		RC-220
298	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	1	19.4	黄7.5Y8/1黄灰 黄7.5Y7/1灰		RC-221
299	奈良	甕	作	甕	21SD1	81	— 101	11	2.5Y8/2黄灰		RC-002
300	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 101	22.7	黄7.5Y8/2に濃い 黄2.5Y7/2灰		RC-004
301	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 104	7.3	古5Y8/2黄灰 黄10Y8/2に濃い黄		RC-005
302	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	83.6	黄7.5Y7/1灰白 黄7.5Y6/1灰	RC-108と混合	RC-064
303	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	1-10	2.5Y8/2黄灰 黄7.5Y8/2に濃い黄	RC-122混合	RC-023
304	奈良	甕	底	甕	21SD1	—	—	18.2	3Y7/1灰白		RC-222
305	奈良	甕	底	甕	21SD1	—	—	21	黄2.5Y8/2黄灰 黄2.5Y7/1灰		RC-223
306	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	18.5	2.5Y8/2黄灰		RC-224
307	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	194.7	黄2.5Y8/2に濃い 黄2.5Y7/2黄灰		RC-227
308	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	83.7	3Y6/1灰		RC-228
309	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	18.7	黄2.5Y8/2に濃い 黄2.5Y7/1灰白		RC-229
310	奈良	甕	作	甕	21SD1	—	—	98.4	2.5Y7/1灰白		RC-231
311	奈良	甕	作	甕	21SD1	—	—	81.1	2.5Y8/2黄灰		RC-232
312	奈良	甕	口縁	甕	21SD1	—	—	15.3	黄2.5Y8/2黄灰 黄10Y8/2に濃い黄		RC-234
313	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	43.4	10Y8/2黄灰		RC-235
314	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	8-10	黄5Y8/2黄灰 黄5Y8/1灰		RC-022
315	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	169.5	2.5Y8/2黄灰		RC-236
316	奈良	甕	口縁	甕	21SD1	81	— 105	8-10	黄7.5Y8/2に濃い 黄10Y8/2に濃い黄		RC-080
317	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 105	30	黄7.5Y8/2に濃い 黄7.5Y7/1灰白	RC-128・129・137混合	RC-077
318	奈良	甕	片口縁	甕	21SD1	84	— 105	76.3	古5Y8/2に濃い黄 黄10Y8/1黄灰		RC-132
319	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	6.1	3Y6/1灰		RC-131
320	奈良	甕	作	甕	21SD1	81	— 105	13.1	古5Y8/2黄灰 黄10Y8/1黄灰		RC-134
321	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	6	10Y8/2に濃い黄 黄2.5Y8/2黄灰		RC-141
322	奈良	甕	口縁	甕	21SD1	81	— 105	6.4	2.5Y8/2黄灰		RC-142
323	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 105	71.8	2.5Y8/2黄灰		RC-143
324	奈良	甕	片口縁	甕	21SD1	84	— 105	6	古10Y8/2黄灰 黄2.5Y7/1灰白		RC-144
325	奈良	甕	片口縁	甕	21SD1	81	— 105	2.5	10Y8/2黄灰		RC-145
326	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 105	3	古10Y8/2に濃い黄 黄5Y8/2に濃い黄		RC-134
327	奈良	甕	作	甕	21SD1	81	— 105	3-6	黄2.5Y8/2黄灰 黄2.5Y8/1黄灰		RC-123
328	奈良	甕	口縁	甕	21SD1	81	— 105	1	3Y6/1灰		RC-113
329	奈良	甕	口縁	甕	21SD1	81	— 105	8.6	2.5Y8/1黄灰		RC-079
330	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	7.4	2.5Y7/1灰白		RC-078
331	奈良	甕	口縁	甕	21SD1	81	— 105	3	10Y8/2黄灰		RC-098
332	奈良	甕	作	甕	21SD1	81	— 105	3-2	3Y8/1黄灰		RC-107
333	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 104	1	黄7.5Y8/2黄灰 黄2.5Y8/2黄灰		RC-061
334	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	3-1	古7.5Y8/1灰 黄5Y8/1灰	RC-102混合	RC-096
335	奈良	甕	体	甕	21SD1	81	— 105	3-1	11Y8/1灰	RC-110混合	RC-063
336	奈良	甕	片口縁	甕	21SD1	81	— 104	1	黄2.5Y8/1黄灰		RC-008
337	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 105	1	古5Y8/2黄灰 黄5Y7/1灰白	※	RC-048
338	奈良	甕	作	甕	21SD1	81	— 105	1	黄7.5Y8/2黄灰 黄7.5Y8/2に濃い黄		RC-046
339	奈良	甕	作	甕	21SD1	81	— 105	1	3Y8/1灰	RC-78-94混合	RC-051
340	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 105	1	古7.5Y8/2に濃い 黄7.5Y8/2に濃い黄		RC-027
341	奈良	甕	片口縁	甕	21SD1	81	— 106	1	2.5Y8/2黄灰		RC-186
342	奈良	甕	作	甕	21SD1	—	—	1	6.6 2Y5/2黄灰		RC-204
343	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	1	6 2.5Y7/1灰白		RC-210
344	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	1	8.7 2.5Y8/1黄灰		RC-222
345	奈良	甕	体	甕	21SD1	84	— 106	1	4.3 2Y8/2黄灰		RC-183
346	奈良	甕	体	甕	21SD1	—	—	81.7	黄2.5Y8/1黄灰 黄7Y8/1灰		RC-230
347	奈良	甕	片口縁	甕	21SD1	—	—	121.1	3Y7/1灰白	RC-58と混合	RC-233
348	奈良	甕	体	甕	21SD1	88	— 102	1	古10Y8/2に濃い黄 黄10Y8/2に濃い黄	RC-112混合	RC-087

表10-4 遺物観察表 (国産陶器)

発掘番号	種別(産品)	燃料名	郡区	区	遺構	グリッド	材質	量(単位)	品名	備考	図録番号
349	守箱	土	南	71SD1	81	- 104	1	65.1	表7-377/2灰白 表53/灰		RO-075
350	守箱	土	南	71SD1	81	- 103	1	31.9	表574/2灰 表574/2灰+リブ	RO-527組合	RO-061
351	灰土器	土	南	71SD1	81	- 103	6	5.2	7.5YR6/1灰		RO-135
352	灰土器	土	南	71SD1	81	- 103	6	8.3	表2.5YR6/1灰 表10YR6/3灰+黄鉄		RO-131
353	灰土器	土	南	71SD1	81	- 103	3-1	26.9	表27/灰白 表53/灰		RO-079
354	灰土器	土	南	71SD1	84	- 102	3-4	47.5	7.5YR7/1灰		RO-060
355	灰土器	土	南	71SD1	84	- 102	3-4	25	10YR4/1灰		RO-060
356	灰土器	土	南	71SD1	84	- 102	1	8.8	2.5Y7/2灰		RO-067
357	灰土器	土	南	71SD1	81	- 106	1	5.3	2.5Y8/2灰		RO-182
358	灰土器	土	南	71SD1	81	- 103	8-10	64	表2.5Y6/1灰 表53/灰		RO-024
359	灰土器	土	南	71SD1	84	- 102	8-10	31	表54/灰 表10YR6/3灰		RO-028
360	灰土器	土	南	71SD1	84	- 102	6	6.1	表7.5YR6/1灰 表53/灰		RO-140
361	灰土器	土	南	71SD1	81	- 102	5-6	44.1	表5/灰		RO-119
362	灰土器	土	南	71SD1	81	- 102	6	4.4	表5/灰		RO-139
363	灰土器	土	南	71SD1	81	- 102	1	29.4	表574/1灰 表56/1灰		RO-047
364	灰土器	土	南	71SD1	81	- 103	3-4	234.6	表6/1灰		RO-084
365	灰土器	土	南	71SD1	84	- 106	9	16.2	表6/1灰	RO-244組合	RO-168
366	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	1	60.3	2.5Y7/2灰		RO-235
369	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	32.8	表5/灰		RO-232
370	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	32.8	表5/灰		RO-232
371	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	43.5	5Y6/1灰		RO-523組合
371	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	46	表5/灰		RO-230
372	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	9.9	10YR4/1灰		RO-248
373	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	9.8	2.5YR6/1灰		RO-245
374	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+下部	212.3	表7/灰白	RO-257組合	RO-251
405	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	No.4(新編記録書)	146.5	表6/1灰		RO-232
406	灰土器	土	南	71SD1-T1	-	-	29+上部	15.4	表5YR6/1灰 表53/灰		RO-247
425	灰土器	土	南	71SD1-T2	-	-	No.4(新編記録書)	167.4	表5YR6/1灰 表2.5Y7/2灰		RO-230
436	灰土器	土	南	71SD1-T2	-	-	No.4(新編記録書)	100.6	表5Y7/1灰 表2.5Y7/2灰		RO-238
437	守箱	土	南	71SD1-T2	-	-	29+上部	23.7	表5YR6/1灰 表7.5YR6/1灰+灰		RO-261
438	灰土器	土	南	71SD1-T2	-	-	29+上部	11.4	表2.5YR6/1灰 表53/灰	RO-262組合 図録あり	RO-239
439	守箱	土	南	71SD1-T2 山平	-	-	29+中部 都	56	表10YR4/2灰+リブ 表5YR6/1灰		RO-064
440	灰土器	土	南	SD2-T2	-	-	29+1区	91.3	表7/灰		RO-266
441	灰土器	土	南	71SD2	-	-	29+上部(新編記録書)	136.8	表5YR6/1灰		RO-214
442	灰土器	土	南	SD2-T2 山平	-	-	29+中部	20.1	5YR6/1灰+リブ		RO-263
443	灰土器	土	南	71SD2	-	-	29+下部	9.1	10Y7/1灰		RO-244
444	灰土器	土	南	71SD2	-	-	29+下部	16.9	表5YR6/1灰 表2.5Y6/1灰		RO-242
445	灰土器	土	南	71SD2	-	-	29+下部	16.5	2.5Y7/1灰		RO-233
446	守箱	土	南	SD2-T2	-	-	29+1区	14.5	表10YR6/3灰+黄鉄 表5YR6/1灰		RO-265
489	灰土器	土	北	坂次 PP13	86	- 102	II	37.3	表10YR6/1灰 表10YR6/1灰	RO-332-337組合	RO-213
490	灰土器	土	北	坂次 PP27 2	-	-	29+上	15.6	表2.5YR6/1灰 表10YR6/1灰+黄鉄		RO-214
491	守箱	土	北	坂次 PP31	83	- 100	29+上	60.3	表7.5YR6/1灰 表10YR6/1灰+黄鉄	RO-314組合	RO-275
519	灰土器	土	南	71SD1-T2B	-	-	29+下部(新編記録書)	5.1	表2.5YR6/1灰 表2.5YR6/1灰		RO-237
520	守箱	土	南	71SD1-T2B トレンチ	-	-	29+下部(新編記録書)	2.8	表5/灰		RO-238
521	灰土器	土	南	坂次一法	-	-	29+下部	19.7	表5YR6/1灰 表10YR6/1灰+黄鉄		RO-270
522	灰土器	土	南	坂次一法	-	-	29+下部	6	表5/灰 表7.5Y7/1灰		RO-271
523	灰土器	土	南	SD1-T2 山平 トレンチ	-	-	29+下部(新編記録書)	21.8	表6/1灰		RO-220
524	灰土器	土	南	坂次一法	85	- 104	機具層	22.9	表2.5Y6/1灰 表5YR6/1灰		RO-267
525	灰土器	土	南	坂次一法	85	- 104	機具層	37.1	7.5YR6/1灰		RO-268
526	灰土器	土	南	坂次一法	85	- 104	機具層	109	表2.5Y6/1灰 表5YR6/1灰		RO-269
527	守箱	土	北	坂次一法 トレンチ	-	-	II	26.9	表5YR6/1灰 表7.5Y7/1灰		RO-286
528	守箱	土	北	坂次一法 トレンチ	-	-	II	13	表7.5Y6/1灰 表7.5Y7/1灰		RO-287
529	灰土器	土	南	坂次一法	-	-	29+下部	121.1	表2.5YR6/1灰 表2.5Y8/2灰		RO-272
530	灰土器	土	北	坂次一法 トレンチ	-	-	II	96.3	表5YR6/1灰 表10YR6/1灰		RO-230
531	灰土器	土	北	坂次一法 トレンチ	-	-	II	37	5Y6/1灰		RO-288
532	灰土器	土	北	坂次一法 トレンチ	-	-	II	43.9	2.5Y3/1灰		RO-289
533	灰土器	土	北	坂次一法 トレンチ	-	-	II	94.3	表7.5YR6/1灰 表7.5YR6/1灰		RO-291

表10-5 遺物観察表(国産陶器)

調査 番号	科別(産地)	器名	器形	区	位置	グッド	単位	数量 (1)	出 発	備考	図号	
331	遺品	壺	頸	北	南東部墓跡10ト レンテ	—	Ⅱ	31.4	27.5x21x16 22.5x14	80E-52組合	80E-292	
336	遺品	壺	作	北	野島田遺跡	—	Ⅱ	29.8	2.5x7x16		80E-293	
336	遺品	壺	体	北	野島田遺跡	—	Ⅱ	29.7	410Y22にぶい 22.5x14にぶい		80A-291	
337	遺品	壺	作	北		81	101	23.7	10Y5x16		80E-296	
338	遺品	壺	体	北		81	—	101	87.1	22.5x14 22.5x14		80E-297
339	遺品	壺	口縁	北		82	—	100	7.5	22.5x14 22.5x14		80E-299
340	遺品	壺	作	北		82	—	100	28.6	25x16x16 22.5x14		80E-300
341	遺品	壺	体	北		82	—	100	85.9	10Y26にぶい 27.5x14		80A-303
342	遺品	壺	作	北		82	—	100	60.6	27.5x14 22.5x14		80E-303
343	遺品	壺	体	北		82	—	100	95.4	42.5x21x16 22.5x14		80E-304
344	遺品	壺	作	北		82	—	101	17.5	2.5x7x16		80E-303
345	遺品	壺	体	北		82	—	101	19.3	27.5x14 22.5x14		80A-306
346	遺品	壺	体	北		82	—	101	11	42Y5x16 22.5x14		80A-307
347	遺品	壺	作	北		82	—	101	65.3	2.5x7x16		80E-308
348	遺品	壺	口縁	北		84	—	102	2.4	410Y22にぶい 22.5x14		80A-311
349	遺品	壺	体	北		84	—	102	25	2.5x4x16		80A-323
350	遺品	壺	作	北		85	—	102	28.3	25x16x16 410Y22にぶい		80E-323
351	遺品	壺	作	北		85	—	102	31.3	27.5x14 22.5x14		80E-324
352	遺品	壺	作	北		85	—	102	97.7	27.5x21x16 22.5x14		80E-325
353	遺品	壺	口縁	北		85	—	102	91.4	10Y27x16		80E-326
354	遺品	壺	作	北		85	—	102	10.6	10Y25x16		80E-327
355	遺品	壺	作	北		86	—	102	18.2	2.5x5x16		80E-328
356	遺品	壺	作	北		85	—	102	162.4	3x6x16	80E-328組合	80E-328
357	遺品	壺	作	北		85	—	102	167.3	10Y5x16		80E-329
358	遺品	壺	口縁	北		85	—	102	205.8	2.5x5x16		80E-331
359	遺品	壺	作	北		86	—	102	30.4	42.5x14 22.5x14		80E-336
360	遺品	壺	体	北		85	—	—	2.2	2.5x7x16		80A-218
361	遺品	壺	体	北		85	—	—	39.7	22.5x14 22.5x14		80E-276
362	遺品	壺	口縁	北		83	—	—	69.5	3x6x16		80E-277
363	遺品	壺	体	北		84	—	—	65.1	42Y5x16 22.5x14		80A-258
364	遺品	壺	体	北		88	—	—	38.3	10Y26x16		80E-261
365	遺品	壺	作	北	南東部墓跡	—	Ⅱ	10.5	2x16x16 210Y22にぶい		80E-280	
366	遺品	壺	作	北	南東部墓跡	—	Ⅱ	18.5	2.5Y7x16		80A-287	
367	遺品	壺	口縁	北	南東部墓跡	—	Ⅱ	10.1	210Y22にぶい 22.5x14		80E-284	
368	遺品	壺	体	北		82	—	101	10.1	42Y5x16 22.5x14		80A-309
369	遺品	壺	体	北		82	—	101	11.2	10Y26x16		80A-311
370	遺品	壺	体	北		82	—	100	25.1	10Y22にぶい 210Y22にぶい		80A-313
371	遺品	壺	作	北		84	—	101	23.6	2.5x16x16		80E-311
372	遺品	壺	作	北		85	—	101	23.2	210Y22にぶい 22.5x14		80E-316
373	遺品	壺	作	北		84	—	100	6.2	42Y5x16 22.5x14		80E-338
374	遺品	壺	体	北		84	—	101	40.2	10Y26x16 45x16		80A-339
375	遺品	壺	作	北		84	—	102	18.4	42Y5x16 27.5x14		80E-342
376	遺品	壺	口縁	北		84	—	102	10.6	10Y25x16		80E-343
377	遺品	壺	作	北		84	—	102	28.7	3Y7x16		80E-344
378	遺品	壺	体	北		84	—	102	38.6	22.5x14 22.5x14		80E-345
379	遺品	壺	体	北		84	—	102	37	42.5x14 22.5x14		80A-347
380	遺品	壺	作	北		84	—	101	63.3	2.5x6x16		80A-348
381	遺品	壺	口縁	北		84	—	102	145.9	410Y22にぶい 22.5x14		80E-349
382	遺品	壺	口縁	北		85	—	102	3.1	10Y27x16		80E-350
383	遺品	壺	作	北		85	—	102	20.1	3Y26x16		80E-351
384	遺品	壺	作	北		85	—	102	17.6	2.5x5x16		80E-352
385	遺品	壺	作	北		85	—	102	3	25x16x16 410Y22にぶい		80E-353
386	遺品	壺	作	北		85	—	102	95.1	2.5x4x16		80E-354
387	遺品	壺	作	北		81	—	101	11	42.5x16 22.5x14		80E-355
388	遺品	壺	体	北		84	—	103	15.4	410Y22にぶい 210Y22にぶい		80A-360
389	遺品	壺	体	北		81	—	101	11.3	2.5Y7x16		80A-356
390	遺品	壺	体	北		81	—	101	48.3	42Y5x16 22.5x14		80E-357
391	遺品	壺	体	北		81	—	103	68.5	2x16		80A-358
392	遺品	壺	作	北		81	—	103	11.1	2.5x4x16		80E-359

表10-6 遺物観察表 (国産陶器)

加数 番号	種別(産品)	器科名	器形	区	産 地	グリップ	材質	量 (g)	比 測	特 考	登録番号
593	甕	甕	体	北	84	- 103	磁瓦層	17.9	2.5V2/28灰青		80-361
594	一	甕	体	北	84	- 103	磁瓦層	36	67.2V3/28オリーブ 52.2V1/28オリーブ		80-367
595	甕	甕	体	北	84	- 103	磁瓦層	40.2	10Y8/1黄赤		80-383
596	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	13.6	5V5/28オリーブ		80-384
597	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	7	5V5/28オリーブ		80-385
598	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	23.9	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-386
599	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	66.7	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-387
600	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	32.2	10Y8/2黄赤 44.2V1/黄赤		80-388
601	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	80.5	5V5/18		80-393
602	甕	甕	体	北	85	- 103	磁瓦層	58.9	2.5V2/18		80-399
603	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	23.6	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-371
604	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	9.7	10Y8/2黄赤 44.2V1/黄赤		80-372
605	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	17.2	67.2V1/黄赤 67.2V1/黄赤		80-373
606	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	21.9	2.5V2/28灰青		80-374
607	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	7.4	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-375
608	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	5	5V5/28オリーブ		80-376
609	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	16.1	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-377
610	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	18.8	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-378
611	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	33.6	2.5V2/28灰青		80-379
612	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	85.5	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-381
613	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	30.7	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-389
614	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	35.5	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-382
615	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	26	10Y8/2黄赤		80-383
616	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	16.5	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-384
617	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	66.7	10Y8/2黄赤		80-385
618	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	1	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-387
619	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	27	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-388
620	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	7.9	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-389
621	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	11.8	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-391
622	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	14.5	5V5/28オリーブ		80-392
623	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	23.2	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-393
624	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	26.8	2.5V2/28灰青		80-394
625	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	32	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-395
626	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	25.6	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-396
627	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	26.1	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-397
628	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	26.5	10Y8/2黄赤 44.2V1/黄赤		80-398
629	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	29.7	2.5V2/28灰青		80-399
630	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	30.1	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-400
631	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	38.8	10Y8/2黄赤		80-401
632	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	34.2	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-402
633	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	42.2	2.5V2/28灰青		80-403
634	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	50.2	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-405
635	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	42.1	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-404
636	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	65.5	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-406
637	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	61.2	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-407
638	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	65.1	10Y8/2黄赤		80-408
639	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	44.7	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-409
640	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	49.8	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-410
641	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	125.1	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-411
642	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	55.6	2.5V2/28灰青		80-422
643	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	25.8	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-413
644	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	13.1	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-414
645	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	45.1	67.2V1/黄赤 10Y8/2黄赤		80-415
646	甕	甕	体	北	北区内中央作業場 西分	-	磁瓦層	21.6	10Y8/2黄赤 10Y8/2黄赤		80-416

表10-7 遺物観察表 (国産陶器)

調査 番号	科別(産地)	器名	部位	区	位置	グランド	単位	層位	高さ (cm)	出 発	備考	図号番号
647	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		33.4	表1076/2体コリア 裏1076/2体裏面		ROA-417
648	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		56	表1077/1体 裏1077/1体裏面		ROA-418
649	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		77.9	表1078/1体裏 裏1078/2体裏面		ROA-419
650	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		65.5	表1079/2体コリア 裏1079/2体コリア		ROA-420
651	奈良	月門鉢	体	北	北一區	-	焼内面		21.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-421
652	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		41.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-424
653	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		15.9	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-425
654	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		7.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-426
655	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		30.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-427
656	奈良	埴	口縁	北	北一區	-	焼内面		6.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-429
657	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		8.1	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-430
658	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		19.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-431
659	奈良	甕	口縁	北	北一區	-	焼内面		25.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-432
660	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		28.7	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-433
661	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		28.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-434
662	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		102.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-437
663	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		92.2	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-438
664	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		330.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面	ROA-439整合	ROA-440
665	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		113.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-442
666	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		80.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-438
667	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		56.3	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-443
668	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		31.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-444
669	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		78.9	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-445
670	奈良	甕	口縁	北	北一區	-	焼内面		37.7	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-447
671	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		46.7	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-448
672	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		21.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-449
673	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		13.7	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-450
674	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		6.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-451
675	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		10.4	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-452
676	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		42.3	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-454
677	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		16.1	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-451
678	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		13.2	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-452
679	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		29.9	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-436
679	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		1.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-457
681	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		23.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-458
682	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		27.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-459
683	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		18.3	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-460
684	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		30.2	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-461
685	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		30.4	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-462
686	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		38.3	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-463
687	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		29.9	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-464
688	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		21.3	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-465
689	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		12.4	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-466
690	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		33.4	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-467
691	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		41.1	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-468
692	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		43.2	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-469
693	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		23.6	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-470
694	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		13.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面	ROA-500整合	ROA-471
695	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		10	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-472
696	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		37.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-473
697	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		26.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-474
698	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		9.7	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-475
699	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		38.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-476
700	奈良	甕	口縁	北	北一區	-	焼内面		107.1	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-477
701	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		23	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-478
702	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		19.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-479
703	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		23.4	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-480
704	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		18.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-483
705	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		13.3	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-481
706	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		11.5	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-482
707	奈良	甕	体	北	北一區	-	焼内面		40.8	表1079/2体裏面 裏1079/2体裏面		ROA-484

表10—8 遺物観察表 (国産陶器)

発掘 番号	発掘(産出)	発掘名	都府 県	区	遺 構	グリップ	材 質	数量 (個)	比 例	特 考	図録番号
706	長光	窯	山陽	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	31.6	表7.5V6/296 裏5.5V6/296		RO-480
709	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	13.3	7.5V6/296		RO-482	
710	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	11.7	10V6/317 裏5.5V6/296		RO-486	
711	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	8.6	10V6/317		RO-487	
712	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	18.8	7.5V6/196		RO-488	
713	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	26.5	10V6/317		RO-491	
714	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	57.7	N6/1		RO-492	
715	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	74.8	表7.5V6/296 裏7.5V6/296		RO-490	
716	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	13.9	表7.5V6/296 裏7.5V6/196		RO-493	
717	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	15.1	N6/1		RO-494	
718	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	14.9	7.5V6/296		RO-495	
719	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	表1	87.7	表5.5V6 裏7.5V6/296		RO-496	
720	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	9.3	N6/1		RO-497	
721	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	86.4	N6/1		RO-498	
722	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	13.1	7.5V6/196		RO-499	
723	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	54.1	表5.5V6/196 裏5.5V7/196		RO-500	
724	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	51	2.5V7/296		RO-501	
725	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	3.7	N6/1		RO-502	
726	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	29.5	2.5V6/196		RO-503	
727	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	33	表5.5V6/296 裏7.5V6/296		RO-504	
728	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	13.3	表7.5V6/296 裏7.5V6/296		RO-506	
729	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	6	N6/1		RO-508	
730	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	8.2	10V6/317		RO-509	
731	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	60.3	表2.5V6/196 裏7.5V6/296		RO-511	
732	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	76.3	7.5V6/196		RO-512	
733	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	104.9	表7.5V6/296 裏5.5V7/296		RO-513	
734	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	127.8	N6/1		RO-514	
735	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	174.5	N6/1		RO-515	
736	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	11.1	5V6/196		RO-517	
737	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	9.6	10V6/317		RO-520	
738	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	31.3	N6/1		RO-518	
739	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	12.2	表7.5V6/296 裏8.2V6/296		RO-519	
740	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	7.6	2.5V6/296		RO-521	
741	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	16.1	N6/1		RO-524	
742	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	0.1	表7.5V6/296 裏5.5V6/296		RO-525	
743	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	22.7	表5V7/196 裏7.5V6/296		RO-527	
744	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	15.1			PT-018	
745	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	2.3	5V7/196		RO-508	
746	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	4.1	5V6/296		RO-534	
747	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	3.1	10V6/317		RO-522	
748	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.7	5V7/296		RO-509	
749	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	9.7	2.5V6/196		RO-522	
750	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	9.4	2.5V7/296		RO-510	
751	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.9	2.5V6/296		RO-288	
752	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	5.3	2.5V6/296		RO-280	
753	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.2	10V6/317		RO-240	
754	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.6	表7.5V6/296 裏5.5V7/296		RO-180	
755	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.2	7V6/196		RO-144	
756	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	3.1	10V6/317		RO-112	
757	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.1	5V6/296		RO-190	
758	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	5	7.5V6/296		RO-088	
759	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	7.7	2.5V6/296		RO-090	
760	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	2.5	5V6/296		RO-081	
761	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	3.6	表5V6/196 裏5.5V6/296		RO-060	
762	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	5.9	2.5V6/196		RO-049	
763	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	4.7	表7.5V6/296 裏5.5V6/196		RO-193	
764	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	23.4	表7.5V6/296 裏10V6/317		RO-066	
765	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	7.2	7.5V3/196		RO-050	
766	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	8.6	表2.5V6/296 裏5.5V6/296		RO-510	
767	今澤	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	11.2	5V6/196		RO-138	
768	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	4.3	2.5V6/196		RO-140	
769	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	6	2.5V7/196		RO-072	
770	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	2.1	10V6/317		RO-254	
771	須重跡	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	216.4	2.5V6/296		RO-036	
772	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	15.3	表2.5V6/296 裏10V6/317		RO-230	
773	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	9.3	表2.5V6/296 裏5.5V6/296		RO-237	
774	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	91.1	表7.5V6/296 裏5.5V6/196		RO-191	
775	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	81.7	7.5V6/296		RO-085	
776	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	1.9	2.5V6/296		RO-266	
777	長光	窯	北 区	Ⅰ-5	-	砂洲質	25.6	7.5V6/196		RO-445	

表11 遺物観察表（輸入陶磁器）

観察番号	種別(産地)	器種名	部位	区	出土地	デタラシ	量	重量(g)	備考	発掘番号
28	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 19-20	1.7	KG-020
123	白磁	等脚	底部	南	21501	84	—	106 13 13	1.2	KG-021
366	白磁	瓶	1/4部	南	21501	81	—	105 8-10	3.3	KG-022
367	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 6	1.8	KG-019
368	白磁	—	—	南	21501	81	—	105 6	—	KG-018
369	白磁	瓶	底部	山	21501	81	—	103 5-6	13.8	KG-017
370	白磁	—	—	南	21501	84	—	105 5-6	10.7	KG-127
371	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 1	0.7	KG-014
372	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 4	1.8	KG-016
373	白磁	—	—	南	21501	84	—	103 3 4	3.4	KG-009
374	白磁	—	—	南	21501	84	—	103 3-4	2.0	KG-010
375	白磁	—	—	南	21501	81	—	100 3-4	0.1	KG-011
376	白磁	—	—	南	21501	81	—	100 3 4	17.7	KG-012
377	白磁	—	—	山	21501	81	—	100 3-4	6.3	KG-013
378	白磁	—	—	南	21501	84	—	100 1	33.3	KG-006
379	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 1	6.7	KG-001
380	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 1	3	KG-002
381	白磁	—	—	南	21501	84	—	100 1	5.7	KG-003
382	白磁	—	—	南	21501	81	—	103 1	0.7	KG-004
383	白磁	—	—	南	21501	83	—	104 1	1.5	KG-005
384	白磁	—	—	南	21501	83	—	103 1	3.5	KG-007
385	白磁	—	—	南	21501	83	—	103 1	9.8	KG-006
407	白磁	—	—	南	21502-11	—	—	—	6.1	KG-026
417	白磁	—	—	南	21502-12	—	—	—	3.6	KG-025
498	白磁	—	—	南	21502	—	—	1077.9	—	KG-027
544	白磁	—	—	北	21501	83	—	101 11	1	KG-028
745	白磁	—	—	北	21501	81	—	102 11	17.2	KG-018
746	白磁	—	—	北	21501	84	—	102 横市面	4.2	KG-041
747	白磁	—	—	北	21501	83	—	100 11	3.9	KG-033
748	白磁	—	—	北	21501	86	—	102 11	1.2	KG-084
749	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	2.2	KG-039
750	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	12.6	KG-040
751	白磁	—	—	北	21501	—	—	—	2.9	KG-053
752	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	3.1	KG-041
753	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	63.0	KG-042
754	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	7.8	KG-043
755	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	1.1	KG-046
756	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	11.6	KG-048
757	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	0.8	KG-049
758	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	11.1	KG-050
759	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	2	KG-050
760	白磁	—	—	南	21501	—	—	横市面	11.2	KG-054
761	白磁	—	—	山	21501	—	—	横市面	4.2	KG-021
762	白磁	—	—	南	21501	—	—	横市面	1	KG-021
763	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	5.1	KG-025
764	白磁	—	—	南	21501	—	—	横市面	103	KG-015
765	白磁	—	—	北	21501	—	—	横市面	0.6	KG-037

表12 遺物観察表（瓦）

観察番号	区	出土状況・産地名 (デタラシ)	形状	種類	寸法 (mm)	重量 (g)	厚さ (mm)	備考	重量 (g)
RF-001	山	21501(84-104)	1	平瓦	2.7	2.7	0.9	8.5	
RF-002	南	21501(84-102)	12	—	1.2	1.1	0.8	2.2	
RF-003	山	21501(84-102)	14	平瓦	2.2	1.6	0.6	2.1	
RF-004	山	21501(84-103)	8-10	軒丸瓦(朝顔文)	3.2	3.6	1.2	1.1	
RF-005	南	21501(84-102)	1	丸瓦	3.7	1.2	0.4	10	
RF-006	山	21501(84-102)	1	軒丸瓦	3	1.2	1	11.8	
RF-007	南	21501(84-102)	1	—	2.1	2.6	0.4	2.8	
RF-008	山	21501(84-102)	3	丸瓦	4.5	2.0	1.7	20.6	
RF-009	山	21501(84-102)	3	平瓦	1.6	2.1	0.8	3.4	
RF-010	南	21501(84-102)	2-4	平瓦	2.3	2.2	3.4	7.1	
RF-011	南	21501(84-102)	6	平瓦	2.1	1.7	1.5	12.6	
RF-012	山	21501(84-102)	6	—	1.8	1.0	0.8	1.1	
RF-013	南	21501(84-102)	6	軒丸瓦(朝顔文)	3.8	3.8	0.4	7.9	
RF-014	山	21501(84-106)	12-13	平瓦	3.7	1.9	1.5	47.4	
RF-015	南	21501(84-106)	12-13	軒平瓦	1.2	1.7	1	3	
RF-016	南	21501(84-106)	12 13	平瓦	3.8	3.1	0.5	4.7	
RF-017	山	21501(84-106)	12-18	—	1.9	6	0.5	4	
RF-019	南	21501(84-106)	12 13	平瓦	4	3.2	1.5	41.1	
RF-020	南	21501(85-102)	1	軒丸瓦(朝顔文)	3.1	2.0	0.6	3.4	
RF-028	山	21501(84-102)	3	軒丸瓦(芭文)	2.5	1.1	0.5	2.1	
RF-071	南	21501 北東院庫	1	平瓦	0.4	2.3	1.2	20.9	
RF-022	山	21501	1	軒丸瓦(朝顔文)	4	2.5	0.6	10.1	
RF-023	南	21501	1	—	2	2.6	0.5	2.3	
RF-024	南	21502	出土上層	—	2.5	2.7	1.1	8	
RF-025	北	775K1	出土上層	—	1.6	1.9	0.5	1.4	
RF-050	北	北區一法	1	丸瓦	3.8	2.5	1.2	8.4	
RF-027	北	北區一法	1	平瓦	1.5	1.2	1.0	3.8	

表13 遺物観察表（木製品）

観察番号	種別	出土状況・産地名	長さ	幅	厚さ	重量(g)	
763	下駄 板	21502	40	7.5	15.1	4.0	77RW1
763	木片	21502	40	33.9	0.8	0.1	77RW30
764	板	21502	40	4.3	2.1	0.3	77RW31
765	板	21502	40	21.1	4.2	1.0	77RW2
766	板	21502	40	4.9	3.1	1.0	77RW5
767	木皮	21502	40	2.2	4.2	—	77RW3
768	板	21502	40	4.1	6.0	0.4	77RW29
769	板	21502	40	8.4	9.1	—	77RW18

圖 版



調査区全景（北東から）



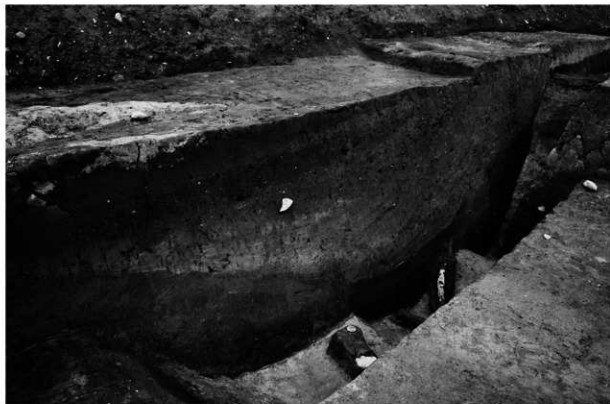
調査区全景（北西から）



21SD1 断面 (南東から)



21SD1 遺物出土状況 (北東から)



21SD2-77T1 断面 (南東から)



21SD2-77T2 断面 (南東から)



南区整地層 全景 (北西から)



南区整地層 断面 (21SD2-77T1 延長部、南から)



77SX1・77SX2 検出状況（南から）



77SX1 断面 b-b'（南西から）



77SX1 断面 c-c'（北西から）



21SD2 内岸の水口状張出し部（北西から）



北区整地層1 全景（北西から）



北区整地層2 全景（南東から）



北区整地層1 断面 a-a'（南西から）



北区整地層2 断面（77SK3 断面延長部、西から）



77SK2 断面 (西から)



77SK3 断面 (西から)



77SK2 壁面挟れ部 (北西から)



77SK3 柱材出土状況 (西から)



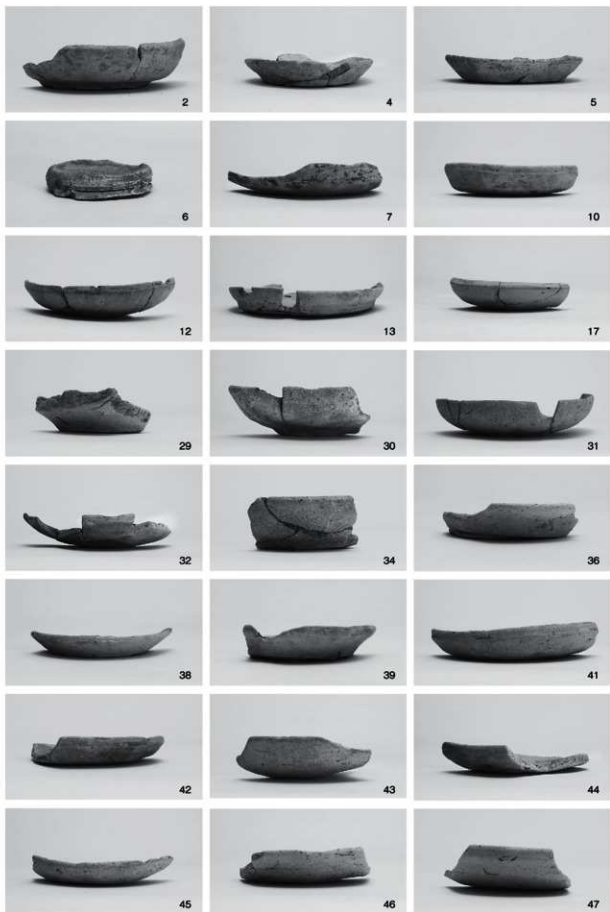
77SK1 断面 (南西から)

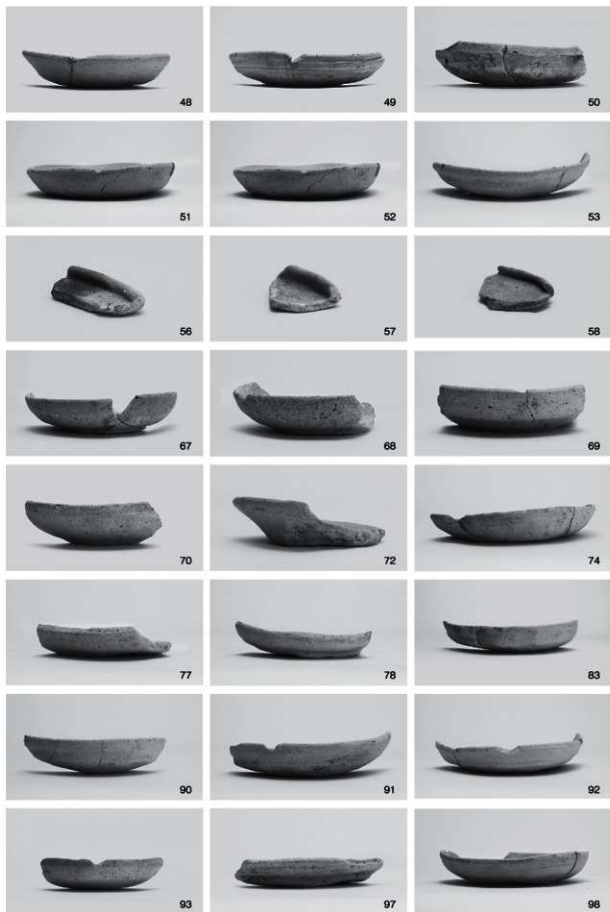


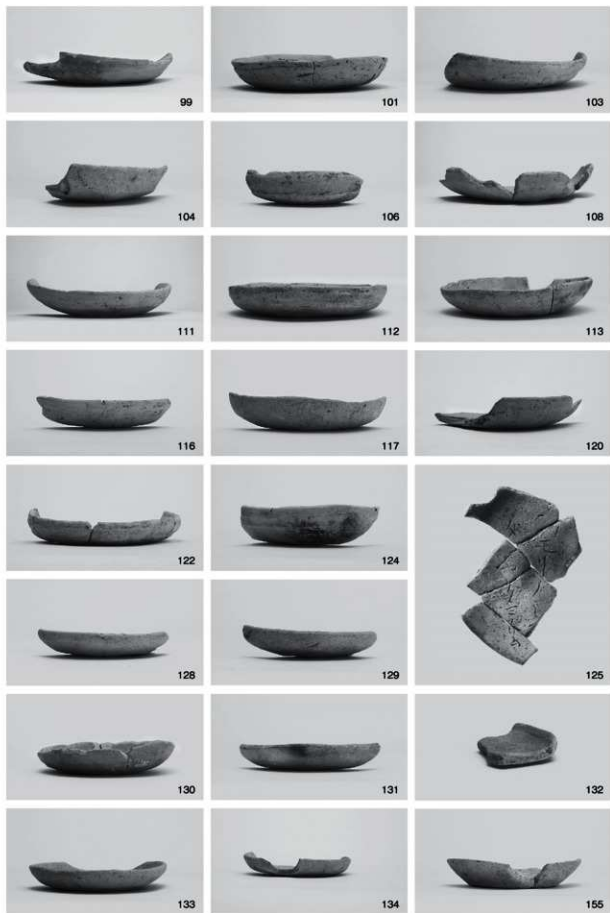
77SK1 遺物出土状況 (南西から)

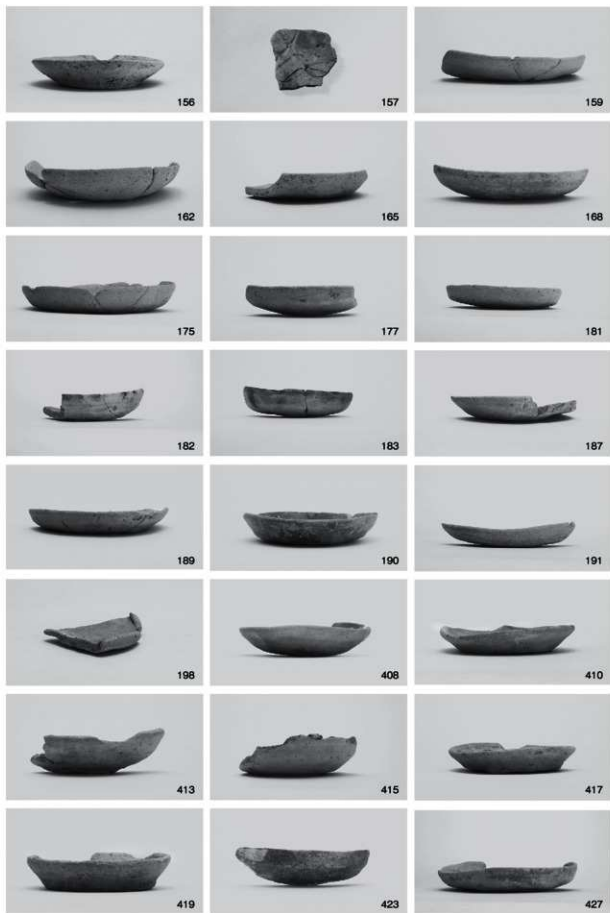


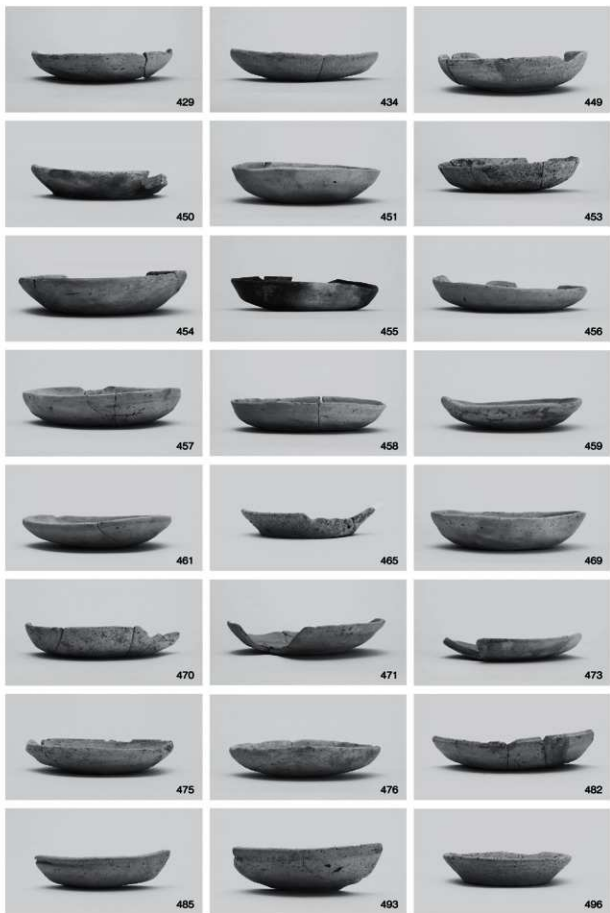
77SX3 全景 (南西から)



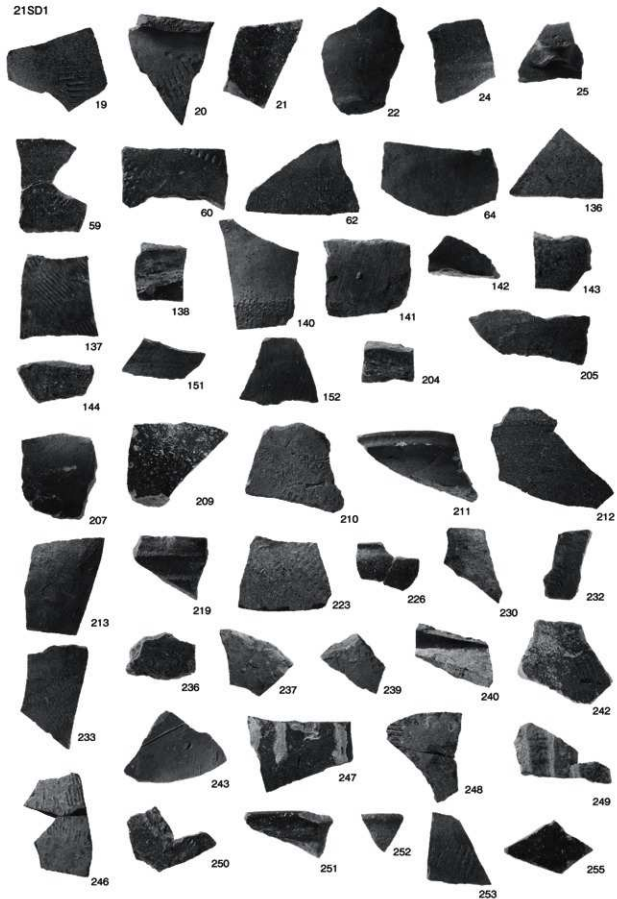


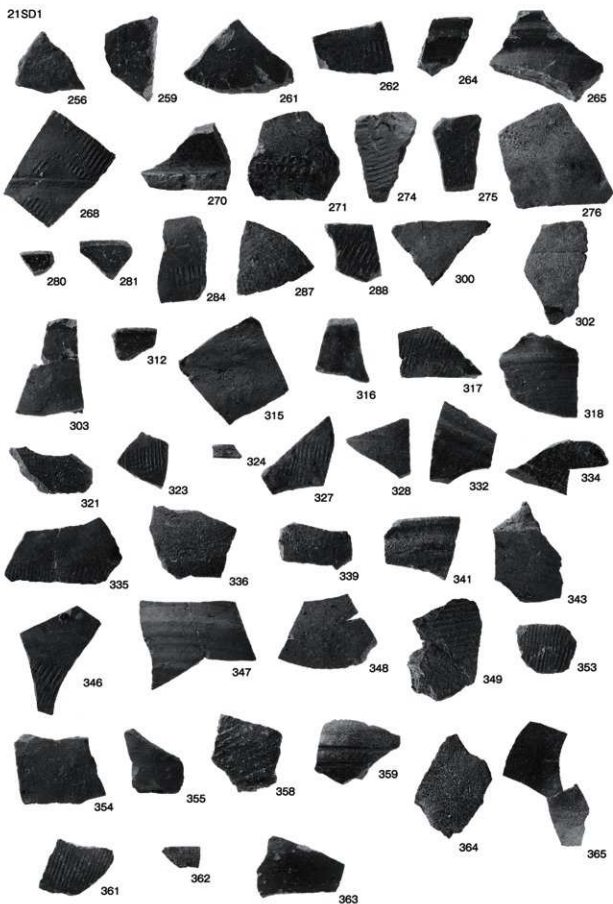




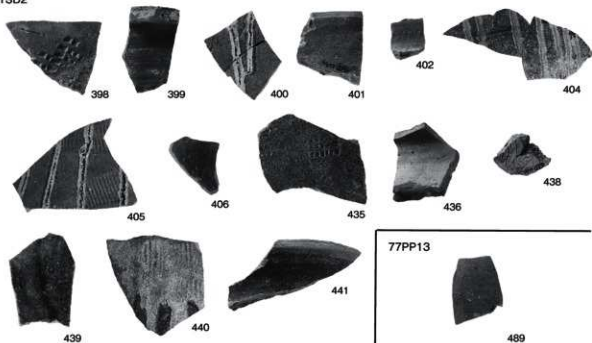


21SD1





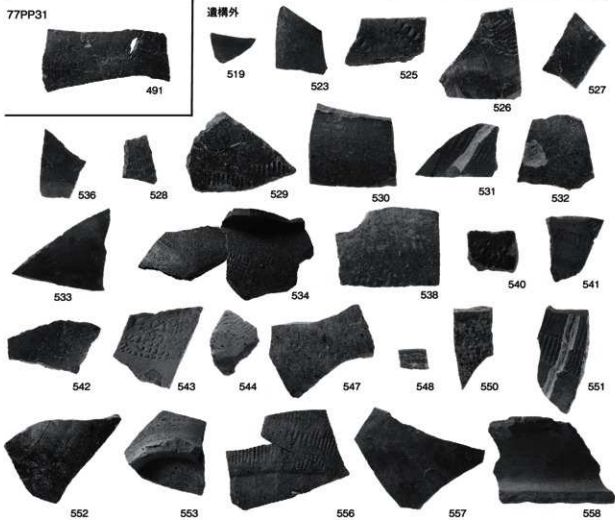
21SD2

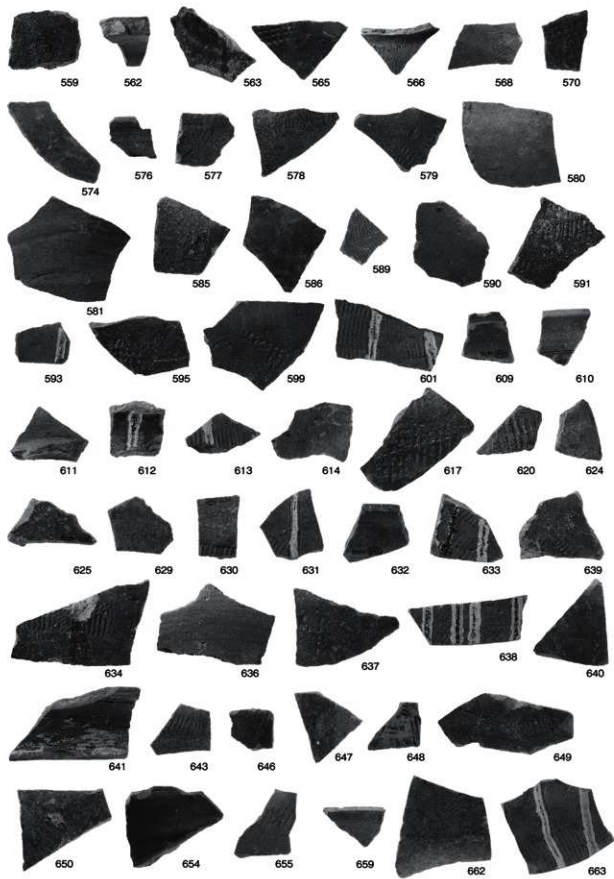


77PP31

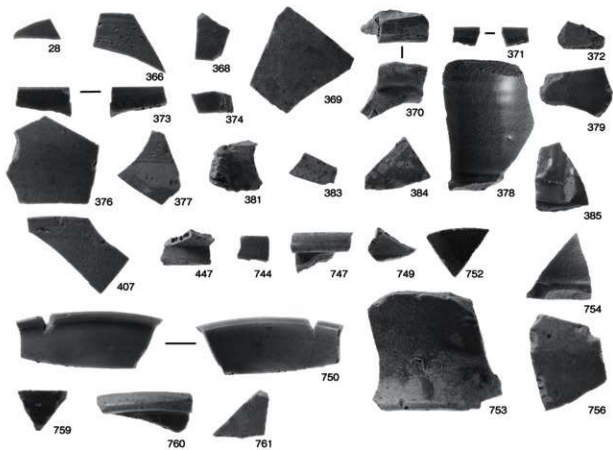


遺構外









輸入陶磁器・瓦・木製品

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはつかつちょうさほうこくしょ やなぎのごしよいせき							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡							
副書名	第77次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第150集							
編者名	櫻井友梓 村上拓							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	西暦2017年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
柳之御所遺跡	岩手県 西磐井郡 平泉町 平泉字 柳御所地内	03402	NE76-0190	38度59分 28秒	141度7分 35秒	20150515 ～20151130	800㎡	史跡整備に 向けた内容 確認調査
所収遺跡名	種別	おもな 時代	おもな遺構	おもな遺物		特記事項		
柳之御所遺跡	居館跡	平安 時代	堀跡2条、溝跡（中近 世を含む）、柱穴、敷 地層など	かわらけ 国産陶器（深美・常滑 など） 中国産陶磁器（白磁・ 青白磁・中国陶器） 木製品など		・柳之御所遺跡の内部 南端部で2条の堀跡の 規模と走行方向を確認 した。 ・2条の堀跡の間、堀 内部の縁辺部で整地層 を確認したほか、縁辺 部に並ぶような柱穴を 確認した。		
要約	<p>柳之御所遺跡第77次調査の概報である。</p> <p>柳之御所遺跡はこれまでの調査により2条の大規模な堀跡で区画されることがわかってきたが、77次調査では本調査範囲にあたる遺跡南端部で調査を実施し、規模や位置と走行方向を確認できた。これまで想定されていた位置よりやや南側に広がるものの、これまでの調査で確認されていた規模や推定の位置から大きく離れるものではなく、遺跡全体を囲むことが改めて確認できた。</p> <p>21S2堀跡では複数回の掘り直しや人為的な埋め戻しなどを確認できた。また、堀跡の周囲で整地土層を確認した。攪乱等もあり断片的な確認となっているが、堀跡周囲の地形の造成や時期など注目できる。</p> <p>21S1堀跡の内側では抜き取りの痕跡をもつ特徴的な形状の柱穴を確認した。堀跡の周囲では同様の形状の柱穴をこれまでの調査でも確認しており、性格の特定は難しいが、注目できる遺構である。</p> <p>遺物では完形に近い白磁四耳壺が出土した。</p>							

岩手県文化財調査報告書 第150集

平泉道跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

— 第77次発掘調査概報 —

印刷日 平成29年 3月30日

発行日 平成29年 3月30日

発行 岩手県教育委員会生涯学習文化課
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1
電話 (019) 629-6171 (代表)

印刷 株式会社 一閃プリント社
〒021-0031 岩手県一関市青葉一丁目7-24
電話 (0191) 23-4586

柳之御所遺跡第77次調査平面図(1/100)

